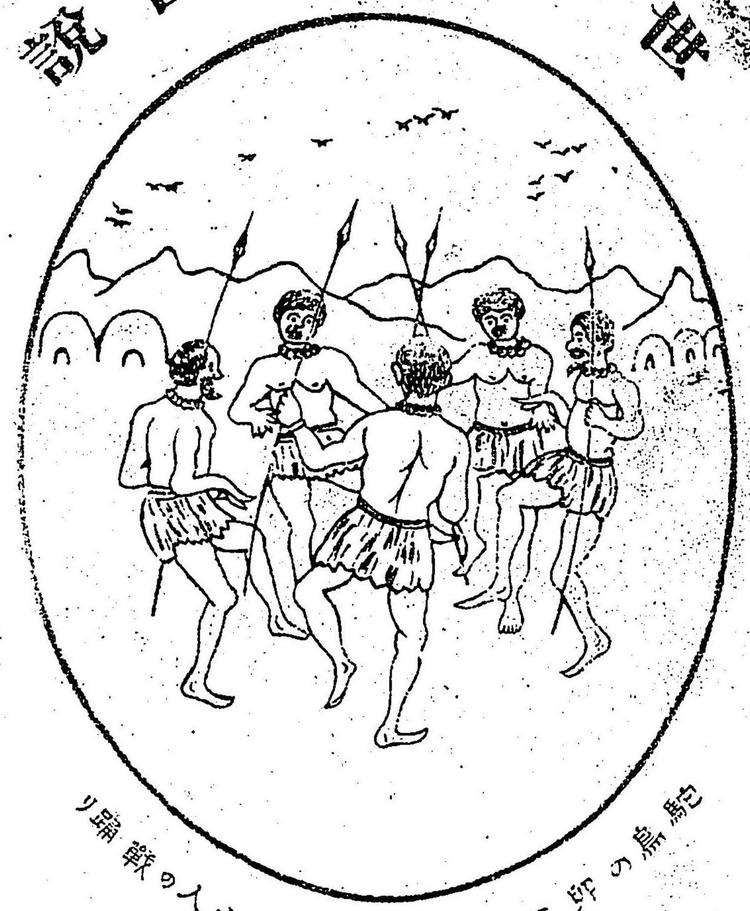
志賀重昂著

世界山水圖說



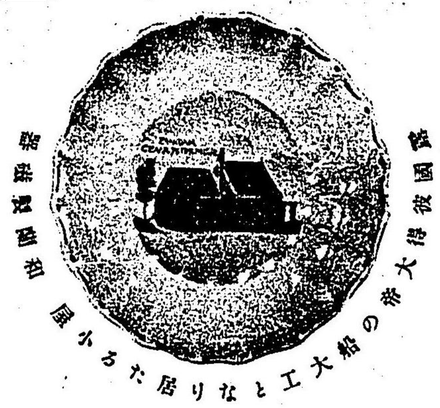
駝鳥の卵に画けるカッフル土人の踊り

地理調査會

東京　冨山房　發行

志賀重昂著

世界山水圖說



北海運河とザーン川と合流する處、ザーンダムの小部邑あり、邑中小運河縱横し、家皃柳陰に浴するもの兩三、板橋の側、一小屋あり、即ち露國彼得大帝の船大工となり居たる處、内に大帝手澤の器具を藏む、屋を守るの老婆、名はハウテン、日本人來ると聞き、出で迎へ、且つ署名せんことを需む、即ち

臥薪嘗膽之秋國必興矣　矧川生　昂

の十四字を書し了りて去る。

四十三年八月十八日午前十一時。

地理調査會

東京

資金會社　冨山房発行

2919
S.16.K

人土嶋テンセィヴ聖るけ画に殻貝

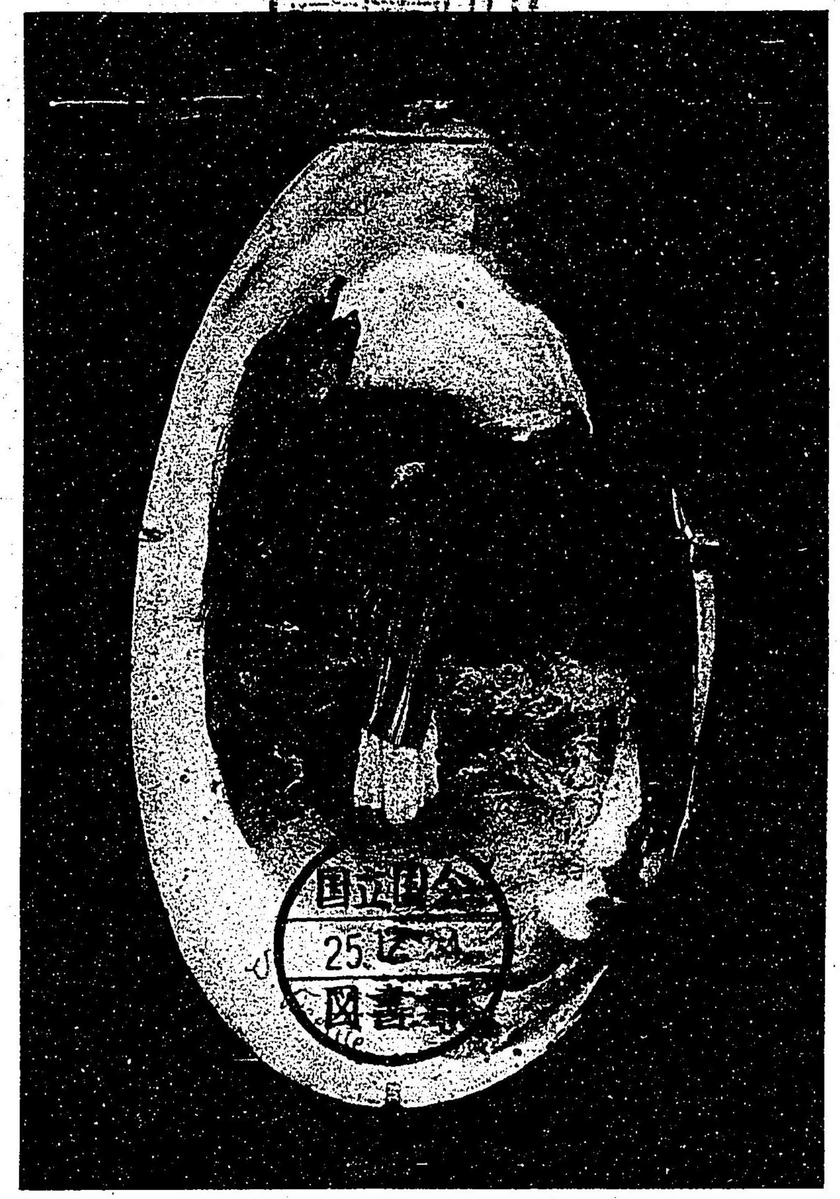
218933

地理調査費ノ主意

方今西洋列國ニ於テハ貿易販路ノ探究上、人口增加ノ處分上、相競ヒテ世界ノ地理ヲ攻究シ、調査シ、今ヤ殆ド之ヲ以テ國家ノ生命トナスノ勢アリ。翻テ本邦ノ情態ヲ察スルニ、地理ノ攻究及調査ノ風尚未ダ熟熾ナラズ、動モスレバ輙チ第二十世紀前半ノ氣運ニ後レヲ取ラズヤト吾人ノ只管杞憂ニ堪ヘザル所トナス。因テ玆ニ地理調査費ナルモノヲ置キ、聊カ以テ之レ充用途ニ充テンコトヲ期ス。然ルニ百事多端ノ今日、四方ノ義捐ヲ仰グガ如キハ固ヨリ忍ビザル所、卽チ左ノ方法ニ依リ、金若干圓ヲ寄附シ、而シテ此事業ハ寄附者ト一切分離シ、全然特立ノモノタラシメントス、幸ニ微志ノ存スル所ヲ諒トセラレ、仰ギ希クハ諸君子ノ庇蔭ニ依リ、以テ本邦人須務ノ事業ヲ大成セシメラレンコトヲ。

国立国会図書館
25.12.4

290.9
S128tR



人土嶋テンセイヴ聖るけ画に殻貝

218933

地理調査費ノ主意

方今西洋列國ニ於テハ貿易販路ノ探究上、人口増加ノ處分上、相競ヒテ世界ノ地理ヲ攻究シ、調査シ、今ヤ殆ド之ヲ以テ國家ノ生命トナスノ勢アリ。翻テ本邦ノ情態ヲ察スルニ、地理ノ攻究及調査ノ風尚未ダ熱熾ナラズ、動モスレバ輙チ第二十世紀前半ノ氣運ニ後レヲ取ラズヤト吾人ノ只管杞憂ニ堪ヘザル所トナス。因テ茲ニ地理調査費ナルモノヲ置キ、聊カ以テ之レガ用途ニ充テンコトヲ期ス。然ルニ百事多端ノ今日、四方ノ義捐ヲ仰グガ如キハ固ヨリ忍ビザル所、即チ左ノ方法ニ依リ、金若干圓ヲ寄附シ、而シテ此事業ハ寄附者ト一切分離シ、全然特立ノモノタラシメントス、幸ニ微志ノ存スル所ヲ諒トセラレ、仰ギ希クハ諸君子ノ庇蔭ニ依リ、以テ本邦人須務ノ事業ヲ大成セシメラレンコトヲ。

国立国会図書館
25.12.24

地理調査費寄附ノ方法

寄附金　若干圓

右ハ卑著世界山水圖說、世界寫眞圖說兩書ノ收入ヲ以テ充ツ

(甲) 世界山水圖說收入

一冊定價金壹圓、出版者坂本嘉治馬(富山房主)ハ此事業ニ同情ヲ表シ純益ノ全部ヲ供提スベシト契約セリ

(乙) 世界寫眞圖說收入

雪、月、花等逐次ニ發行ス、一冊定價金貳圓、出版者川田佐門次(明治製版所主)ハ此事業ニ同情ヲ表シ純益ノ全部ヲ提供スベシト契約セリ

地理調査費ニ關スル委員

地理調査費ニ關スル左ノ委員ヲ囑託ス

(甲) 學術委員

(乙) 會計監督

(甲) 學術委員

本邦ノ學界ニ重望アル人士ニ委員ヲ囑託ス

委員ハ如何ニ地理調査費ヲ使用スベキヤ等ニ關シ議決スルモノトス

(乙) 會計監督

本邦ノ財界ニ重望アル人士ニ會計監督ヲ囑託ス

出版者ハ各、兩書賣上純益金ヲ會計監督ニ納付スベキモノトス

寄附者ハ兩書ノ賣行ヲ促ス爲メ紳士タル品位ヲ毀損セザル限リニ於テ有ラユル手段ヲ實行スベシ、例ヘバ兩書ノ何レナリ又ハ兩書ヲ合併シテナリ一百册一時ニ購求スル方面ヘハ無報酬ニテ講演ニ行クコト、兩書ノ何レナリ又ハ兩書ヲ合併シテナリ五百册一時ニ購求スル方面ヘハ無報酬ニテ五日間以内ノ組織的講習會ニ行クコト、購求者ガ紀念ノ爲メ該書ニ著者ノ自署ヲ求メ來レバ無報酬ニテ揮毫落款スルコトノ類

東京市赤坂區靈南坂町三十四三十五番地　志賀方

假事務所

電話　芝二二二四

訂正

頁	誤	正
六	明治四十年四月	とあるは 明治四十三年の誤
八	明治四十四年五月	
九	明治四十四年五月	
一二	明治四十四年六月	
一三	明治四十四年六月	

世界山水圖說

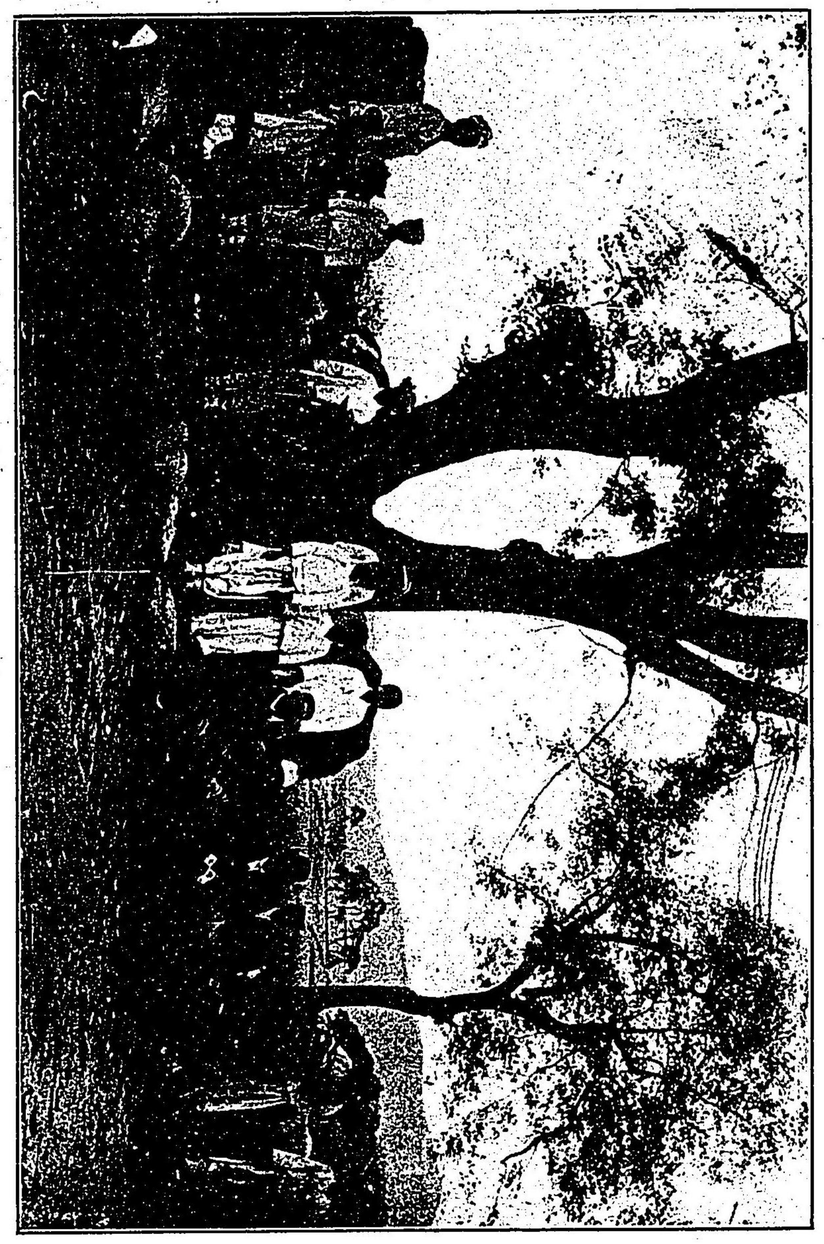
目次

一 自然の力、人の力……一——一〇
一 朝〔伊豆七島の洋上〕……一
二 夕〔北緯五六度の洋上〕……二
三 雲〔南鳥島即ちMarcus Island〕……二
四 雨〔赤道無風帶〕……二
五 風〔貿易風〕……四
六 氷〔樺太亞庭灣〕……四
七 交通〔世界の山水を自由に探討し得るも此の餘惠なり〕……六
二 旅行觀察の栞……一一——二〇
一 觀察の實例〔川越町〕……一一
二 側面觀察の實例〔銚子町〕……一二
三 簡單なる實例〔犬吠崎燈臺〕……一三
四 軍事上觀察の實例〔宮津崎と觀音崎〕……一三
五 古蹟の實例〔鎌倉〕……一四
六 人情觀察の實例〔東京と京都〕……一四
七 展望力の大小の實例〔筑波山〕……一五
八 海岸線の長短の實例〔常陸と伊豆〕……一六
九 都會の發達〔南品出入の關門としての實例八王子町、青梅町〕……一七
一〇 都會の發達〔河運の便利ある爲めに發達せし實例〕……一八
一一 都會の發達〔湖運の便利ある爲めに發達せし實例土浦町〕……一八
一二 都會の發達〔信仰の中心として の實例成田町〕……一九
一三 活きたる古物館〔大島〕……一九
三 南鳥島……二一——二六
四 朝鮮の眺メ……二七——三一
一 春〔平壤〕……二七
二 夏〔馬山〕……二八
三 秋〔慶州、開城〕……二九
四 冬〔鴨綠江〕……三〇
五 莫愁湖〔清國南京〕……三二——三八
六 ウェントウォース谿〔濠太利 Wentworth Gap〕……三九——四四

七　亞爾然丁國への土産……四五——四八
八　帝國の延長……四九——五二
九　地球上に於ける極西の小日本
〔馬來半島〕……五三——五七
附　柔佛國〔Johore〕
一〇　開國三千年來の赤道祭……五八——六〇
一一　南印度洋の琉球〔モーリシアス島〕……六一——六四
一二　世界隨一の難所……六五——六八
一三　阿弗利加大陸の南端……六九——七二
一四　南阿弗利加聯邦……七三——八四
一　セシル・ローズの雄圖……七三
二　奇傑ジェームスン博士（トランスヴァール亂入者）……七七
三　英國人種と和蘭人種との競爭……七八
四　有色人種との競爭……八一
五　南阿地方と日本……八三
一五　南大西洋の濤……八五——八九
一六　南亞米利加の第一日〔歐米列强競爭の舞臺〕……九〇——九二
一七　亞爾然丁獨立一百年祭……九三——一〇五
一　一百年祭順序……九三
二　ブエノス・アイレス市……九五
三　『五月廣場』……九六
四　『サン・マルチン廣場』……九六
五　獨立戰役の名士紀念碑除幕式……九九
六　亞爾然丁國旗紀念祭……一〇二
七　一八一三年の國民大會、一八一六年及一八五三年の國會紀念碑基石の據付式……一〇二
八　歐洲各國移住民より亞爾然丁に獻納せし種々の紀念碑除幕式……一〇四
九　農牧博覽會、馬匹奬勵會、國立競馬場に於ける競馬……一〇四
一〇　內地の觀光……一〇五
一一　亞爾然丁と日本との比較……一〇五
一八　南亞米利加の秋（上）……一〇六——一〇九
一九　南亞米利加の秋（中）……一一〇——一一三
二〇　南亞米利加の秋（下）……一一四——一一七
二一　亞爾然丁に於ける列國……一一八——一二〇
二二　亞爾然丁に於ける日本……一二一——一二五
二三　南墨詩話（アメリカ）……一二六——一三一

二四　世界三景の第一……一三二——一三七
二五　四十年前伯剌西爾にて割腹せし日本武士〔前田十郎左衞門〕……一三八——一四〇
一　海軍兵學校の濫觴……一三八
二　日本兩青年の英國留學……一三八
三　日本兩青年の世界周航……一三九
四　前田の割腹……一四〇
五　伏仰隔世の感……一四〇
二六　日本の文明に及ぼせる葡萄牙の感化……一四一——一五〇
二七　伯西詩話（ブラジル）……一五一——一五六
二八　阿弗利加洲の西端……一五七——一六〇
二九　カナリア島の風物……一六一——一六六

三〇　英吉利の熊野（コーンウォール）……一六七—一七六
三一　文人、畫客、英雄に一時に會見す……一七七—一八六
一　倫敦の第一日……一七七
二　倫敦の第二日……一八〇
三　英吉利の名勝廻り……一八三
三二　沙翁（シエクスピア）の生地及英國隨一の古城……一八七—一九一
三三　巴里の古跡探し……一九二—一九四
三四　南亞米利加と舊開國……一九五—一九八
三五　和蘭の五日間……一九九—二〇三
三六　歐羅巴に於ける日本……二〇四—二〇九
三七　歐洲旅行の日本人……二一〇—二一五
三八　ニール河の恩惠……二一六—二一八
三九　ピラミッド登り……二一九—二二三
四〇　沙漠の月……二二四—二二七
四一　世に顯はれざる史蹟（肥前黑島）……二二八—二三〇
世界山水圖說　目次終



（壯城月牛　右、都故の雄華）州　廣

世界山水圖說

志賀重昂著

一　自然の力、人の力。

君と共に世界の山水を指點せんとするに當り、先づ以て朝暉夕陰、自然の力が山水風景に反映する實際を畫き、それより人の力（運輸交通）に說き及ぼすべきか。

一　朝（伊豆七島の洋上）。

浩渺たる洋面、琉璃一碧の盆の如く、盆上青巒の浮ぶもの四五點、當面に斗立せる三角形のものは利島である。利島の南、筍の勃生するが如きものは鵜渡根である。鵜渡根の南、牛の横に臥するが如きものは新島である。新島の南西、巖礁の崛起するものは式根である。式根の南微西、高峰の峭立して餘脈南北に曳くものは神津島である。日未だ昇らず、東天微かに淡紅色を抹して、霽は白く諸島の下部に棚曳き、最下部ほの〴〵として分明ならず、霽は遂に琉璃の盆中に參りて次第々々に消え去る處、正しく油畫の粉本である。

利島
鵜渡根島
新島
式根島
神津島
曙天
曉霽

雨後の地平線
虹
夕照
金星
南天十字星
白珊瑚の清渚
濃綠
雲の峯
『死せるが如き無風』

二　夕〔北緯五六度の洋上〕。

風止み、雨晴れ、海面晶々として鏡の新たに磨けるが如く、水と空との分界殊に分明となり、七色鮮かに彩れる長虹は、地平線の一方より起り、大空を横絶して地平線の他方に入り、虹の反對面を顧れば、夕照影を收めんとして、黃金色の漣微かに殘り、其上より紅黃、黃色、淡紫色の雲は滾々をして湧き來り、須臾に雲拂ひて、金星閃と現はれ、長空一碧、無數の星は見る〳〵輝き、南天十字星も亦た低く尾を垂れて水天交はる邊に射り、缺月其上に高く弓を張る處、萬里の長風は蓬々として君に向ひ吹き來る。

三　雲〔南島島即ち Marcus Island〕。

白珊瑚の沙礫布ける清渚にて海水に一泳ぎし、汗を拭ひるた後、素躶の儘巖に腰打ち懸け、ビール瓶の口を巖にて破き開きつ、泡だつものを連りに酌めば、折柄萬里の長風は我が髮を拂ひ來り、濃綠なるタバコの樹、タコの樹は、いづれも其の大なる葉を上へ下へと飜へし、清籟其蔭より起りて、椰樹の葉もバサ〳〵と鳴る處、上を仰げば、雲の峰は天の一方に崩れて、夕日の餘抹これを純紅色に染め、下なる雪の如き珊瑚の沙、珊瑚の礫と相映發す。

四　雨〔赤道無風帶〕。

暑い〳〵、デッド・カーム（死せる如き無風）である、船（帆走）は一歩だに進行せぬ、寒暖計

颶風(Squall)

南島

を見ると甲板上百二十二度を示して居る、鱈の肝油に似たる脂汗は總身より流れ出で、衣を薄黃く染むる、人々が或は帆の蔭を奪ひ合ひ、或は砲門より長く頸を出して雨一滴なりの恩惠に預らんとするも無理からぬ次第である。すると半空に拳の如き黑雲が現はれる、雲は見る〳〵下る、下る毎に、愈、大きく益、擴がる、遂に地平線まで下りて一面に線上を蔽ひ、靄々して線と海と區別が無くなる、忽ち帆はビュー〳〵と鳴り出し、目前まで一歩だに動かざりし船は、一時間二十浬近くの速力となる、アハヤと云ふ間に篠衝く大雨はドッと洪河の決する如くに降りしきる、

天地間の大納涼

貿易風域の晴雨計

貿易風域の波

貿易風域の空

甲板上は全くの河となる、「總員雨浴許るーす」の號令が下る、人々は爭つて雨に浴びる、否瀧に浴びる、石鹸を頭より足まで塗りて瀧に浴びる。かくて連日の塵と垢とを拭ひ去れば、爽氣身に浸み渡りて、心の塵と垢までも拭ひ去りたる心地がする。

五　風〔貿易風〕。

風は四拾五度位の角度にて斜より一定の方向、一定の速力にてソヨ〳〵と吹いて來る、然れば三本の檣の帆は何れも風を同一に受ける。かくて船は一時間に十二三浬も走りながら動搖せぬ、空中の水蒸氣は四方に吹き散らさるゝ、晴雨計は高度を示す、我が髪はサラ〳〵と拂はるゝ、涼氣は飄々として衣帶の間に生ずる、俯して望めば海は萬里蒼茫、波は細き紋を畳んで居る、天を仰げば、紺靛の如き空の上に白き雲の片が間を距てゝは列び居る故に、此の白き雲の片と青き空の片とが交る〳〵列んで見える。夜に入れば、月は此の清き空に冴え渡り、時に眞綿の如き雲がフワ〳〵と浮び出でゝ清光を暫し遮ぎる處など却て一入の爽氣を感ずる。

六　氷〔樺太亞庭灣〕。

バリ、バリーと氷を碎く、三四十間も碎くと、泡の如き雪の如き氷の粉は船の兩側に累なり、左舷と右舷と船首とに氷の山が出來て進行が出來ぬ、ナニこれしきに辟易するものかと、船長は叱咤する、フール・スピード（全速力）の號令が下る、バリ、バリ、バリー、又た左舷と

天海一白

右舷と船首とに仰ぐ樣なる氷の山が出來て、船は一歩だに進行せぬ、沙の如き糠の如き霧の如き雪は連日連夜降りに降り續け、舷門さへ全く埋もれた、樺太亞庭灣となりし雪は人々をしてあやめも分らぬ樣にした、然し有難い、雪が少しく晴れた、晴れ間より禮文丸の信號旗が見える、「危險なり、進航出來ぬ、我船は利尻島に歸る」と、成程彼は碎氷機を附け居らぬ故に此際利尻へ歸航するは已むを得ぬ次第であるが、碎氷機を附けたる我船はオメ〳〵歸航すべからず、バリ、バリ、バリー、尙も進行を續けると、唯見る氷の山、氷の海、天海一白、我が息氣までが凍りて白くなる。

元日先づ運輸交通に感謝すべし

楊子江中の小日本

七　交通

〔世界の山水を自由に探討し得るも此の餘惠なり〕。

ナンダ正月の元日に鹽鮭の燒いたの許りとは情ない、オマケに此の雜煮には鰹節が少いではないかと。然し思ひ見よ、鮭は寒流にあらざれば產せず、鰹は暖流にあらずんば生育せず、北極洋より來る海流の產物と、赤道より來る海流の產物とを、僅か一尺四方なる膳の上に並べ得たりとは、ナント君には天地間の贅澤を盡くせる者にあらざるか。此の如き天地間の贅洋を盡くし得るのは、地球の反對方面の物資をば、君が前なる一尺四方の膳の上に運び來るまでの機關が十二分に整つて居るからである。かくて天地間の贅澤を盡くし居ながら、尙ほ且つフン鹽鮭かとか、鰹節の少い雜煮かなどゝ大々贅澤を云ひ得らるゝのである。交通運搬機關の有難きことは、先づ正月の膳に向ふ前に感謝すべきものである。

又た支那の楊子江の中にて、日淸汽船會社の汽船に入りたりとせよ、兩岸は支那人の住めるのみにて、日本人の影だになく、支那語を聞く外、日本語の片語だに聞き得ざる支那內陸の中心にありて、此の船內には船長、事務長は日本人にして正しく日本語を聞き、サルンには日本の新刊圖書を備へ付け、日本人のボーイに命ずれば、日本の澤庵漬を供し來るを見れば、此の汽船は恰も日本國土の一小片が割れて支那の內陸に飛び入りたるが如く、將た日本

郵便汽船の絕大勢力

沙漠旅行の困難

沙の海

『沙漠の船』（駱駝）

社會の一部分を支那中心に携へ來りたるが如き感がある。ナント運輸交通機關の有難きことは悟らるゝならん。又た印度洋なり太平洋なりの眞中にて、日本行の郵便汽船に會ひたりとせよ、煙突より石炭の煙の黑く天に颺がるを見るのみにて、別に何等の感を起さゞるべし。然し飜つて考へ見られよ、此船の中には歐洲將た米國よりの新著述を載せ、新聞雜誌を載せ、新發明品を載せ、文明の利器を載せ、歐米各國の貨物を載せ居るものなれば、是等の諸物が日本に到着し、日本の國內に入りて、日本國民の思想に感化を及ぼし、國民の智識を擴張し、日本人の家庭に影響を與へ、日本國の進步を促すこと大なるべきを悟れば、一隻の蒸汽船や、其の關係の及ぼす所殊の外に大なることを知らん。

君には運輸交通機關の感謝すべきことを悟りたるならん。然れども未だ足らざる樣の感あるを以て、沙漠の旅行を語るべし。沙漠は水無き沙礫の大海である。此の大海を渡るには、舟とてはあるなく、『沙漠の舟』の名ある駱駝を使用するのみである。駱駝は驚くべきまでの渴に耐ゆる性質を有ち、普通三四日間に一回水を與ふれば足り、最も强きものに至ては、十三日間一滴の水だに飲まずして耐ゆるのである。此の如き駱駝は渴に耐へつ四十貫乃至五十五貫の重量を負擔すと聞けば、能くも重き荷物を擔ぐもの哉と思へども、一千噸を積荷みする舟と同一なるまでには六千頭を要する。又た駱駝一日の行程は十五哩乃至十八哩なれば、

『沙漠の舟』

四五十貫の大荷物を擔ぎて能くも炎天の下熱沙の上を十數哩行くもの哉と思へども、是れ亦た蒸汽船一時間の行程に過ぎぬ。かくてサハラの如き沙漠を横過するには、最も短き行程を最も速かに旅行したりとて三ヶ月餘を要する。然るに此の沙の海が、水の海なりとし、舟を運轉すれば、僅か四日にて足りるのである。又た水の海にても暴風起り、海賊も出沒することあれども、今日にては汽船は堅牢となりたる故、暴風に會ひたりとて覆沒するの患なく、更に海賊の出沒することも殆ど無くなつたのであるが、沙漠にては、時々颶風が起り、風伯は燃え燒くが如き沙石を捲きて吼り狂へば、『沙漠の舟』は隊商と共に覆沒して、全く沙石の下に沈溺することもあり、或は沈溺を免るゝとても、颶風の後に沙礫が標石（沙漠中に隊商の行路を指し示す）を埋沒するを以て、茫々たる大沙漠の間に行路に迷ひ、遂に歸らぬ旅路に入ることがある。更に又た强盜が隊伍を組みて襲ひ來り、人畜を殺傷し、殘酷極れる掠奪を恣にすることがある。ナント交通機關の備具せざる處と備具せる處との相違は、到底御話だに出來ぬ次第にて、君には愈、益、交通機關の有難きを感謝すべし。かくて予が今よりして世界の山水を寫し得るのも、實は運輸交通の整備せし餘惠である、如何にも世界の最も面白き風景は人の容易に行き得ぬ個處に多しとは云へ、最近年間、運輸交通の便利頓に開けたるより、世界中行き得ざる處とては殆どある無く、隨て一介の老書生予の如き者をして容易に世界の風景を我が眉邊に展べしめ、世界の山水を我が筆端に弄ばしむるのである。

運輸交通の恩德

要するに運輸交通機關は、文明の大なる媒介者にして、之れに因りて有形上の貿易（物産貨物の交換）も、無形上の貿易（文物知識の交換）も發達し來り、物質上に、精神上に、彼此の有無を交換するより、地球上の諸物を能く平均せしめ、能く偏頗なきに至らしめ、かくて道路、郵便、電信、汽車、汽船及び旅行は、世界を平均する原動力となり、地球上の統一者となり、千里同風、四海兄弟の眞の中人となるのである。

地球上の統一者

此の如き聖世に當り、誰れか旅行を試みざる者やある。

如許風流天下無

南朝四百八十寺、煙雨の中の畫舫と
殘月曉風、露華玉ょりも白き下の畫舫

秦淮の畫舫（支那南京）

ヴェネチア（ヴェニス）の畫舫（伊太利）

旅行に感興を加ふる方法

二　旅行觀察の栞。

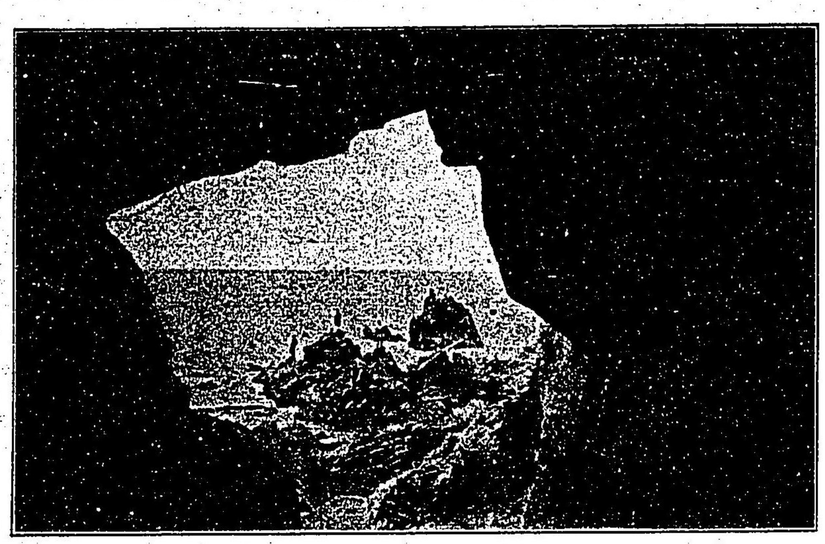
旅行する、快氣である、此れ丈ケにて宜しい、卽ち旅行して平生の營々役々を慰むれば、其れにて精神上にも肉體上にも最も効能がある。然し其れ以上の効能が更にあるものとすれば、宜しく之れを收むべく、況してや旅行の行樂に感興を加へ、趣味を添へ、かくて行樂の度を增進することが出來得とすれば、此れに越すこと無かるべしと思ふ。所謂旅行に感興を加へ、趣味を添へ、同じ行樂にても、行樂を生動せしむる工夫は如何。是等は曉々敷理屈など云ふよりも、實際の例を說けば、其れにて自から會得せらるべしと信ず。試みに東京附近にて云はんか。

川越町兩端の相違は何故

一　觀察の實例（川越町）。

川越町は、東京より鐵道にて一走りに行き得べき武藏野の一都會である。然るに此町の南及び東には甘藷及び野菜を產する畑地連なり、北及び西は米田及び養蠶地方である。然れば一個の都會なれども、町の南端、東端には粗末なる居酒屋、飯屋、古着店、古風なる藥種屋など並び、何んとなく地味なれども、北西方には料理店、呉服店、店先の綺麗なる商家列り、全般にハデである。

銚子町の發達せしは何故



（銚子、犬吠崎燈臺の下）

二　側面觀察の實例

〔銚子町〕。

銚子町は、利根川の太平洋に注ぐ處にあり胎内潜りて、大江と太洋とを控へ、利根川汽船の起點ともなり、總武鐵道の終點ともなり、漁鹽の利は多く、醬油の製造は全國に鳴り、其の市街の發達せしは固より偶然ではない。然し凡そ一地方に到りて觀察するには、獨り表面上の事のみならず、亦た側面より種々の觀察をも下さなければならぬ。成程銚子は、表面よりすれば、河運、海運、陸運の三地利を占め居るに相違なけれ、而かも太平洋に突出する角隅に偏在することゝて、其の四周は水の部分殊に多くして、背面の陸地とては殊に少し。然れば住民は

犬吠崎に燈臺を設くは何故

富津崎觀音崎の防備は何故

銚子市街にこそ群在するなれ、四周には人の住むべき部分少く、一つ共進會を開くなり又た中學校を設くるなりとして、參觀人將た通學者が殊に少い、何となれば參觀人將た通學者を出す陸地が限られて居るからである。此の如く一地方を旅行して觀察するには、表面側面の兩觀察が必要である。

三　簡單なる實例

〔犬吠崎燈臺〕。

銚子の附近なる犬吠崎は、關東地方の最東極より太平洋に向ひて突出するのみならず、此の突角のみは、關東平原の疎鬆なる地質と異り、古き岩層より起生し、隨て近海には暗礁が多い、是れ此處に優等なる燈臺を立てたる所因である。又た關東即ち東京地方の最東極として太洋に向ひ突出すればこそ、太洋を航走する汽船と通信する爲め、銚子無線電信局の設ケある所因である。

四　軍事上觀察の實例

〔富津崎と觀音崎〕。

素人即ち吾々普通の旅行者には軍事上の專門的觀察は要らぬ。然し東京灣に入り來りしなれば、灣頭には日本國都あり、皇居あり、灣の爭奪は帝國の運命に繫がれば、其の防備は一日も忽せにすべからず、而かも富津崎は灣の東岸より突出し、觀音崎は、西岸より突出して、灣口は最も狹まり、帝都の東西門扉をを作せば、此の大要害の個處、卽ち兩門扉に各堅固な

る砲臺を築きて帝都の防備を堅固にするは當然なりてふ位の觀察は下さゞるべからず。先づ此の如き簡單明瞭なる觀察を下し、而して後、其の處々に到る毎に、『何故に頼朝は此處に本據を定めたりや』、『何故に家康は此處に城きたりや』など云ふ少しく込み入りたる事にまで考へ及ぼすを要す。

鎌倉の建府は何故

五　古蹟の實例　〔鎌倉〕。

鎌倉は南は大洋に面し、他の三方は山に圍まれたる面積一方里の平地である。此の如く山に圍まれたる平地なれば、要害でもあり、又た伊豫守源頼義の奥州を平定するや、石清水の八幡宮を此處に勸請し、次で其子八幡太郎義家の之れを修繕せしなど、源氏祖宗以來の緣喜好き土地柄なるのみならず、頼朝は兵を關東に起し、手近なる地位にもあれば、此處に府を開き、次で北條氏も足利氏も其の故趾に都した。是れ鎌倉建府の所因にして、又た其の四周に名所古蹟の多い所因である。（然しながら規模偏少なれば、志の大なる德川家康は、志の大なる秀吉より暗示を得て府を此處に置かず、江戸に定めたる所因である）。

兩京人氣の相違は何故

六　人情觀察の實例　〔東京と京都〕。

地方の人氣、即ち人情風尚、即ち趣味を觀察するも亦た旅行者の感興を添ふるものである。例へば年少の書生が事物に屑々せず、金錢を塵芥の如くに一擲するは、内に邁往進取の氣象が勃々と旺んなる故である、邁往進取の氣象が餒ゆれば、儲蓄の念生じ、人愈〻老ゆれば益〻此念を增進し、事物に屑々して小心翼々となるものである。個人此の如しとすれば、個人の集會せる大都會なるものも、一生物機關にして生命あるものなれば、亦た此の如くならざるべからず。江戸（東京）は開濶なる關東平原の上に武人の開きたる都會にして、其の生命未だ三百二十年に過ぎず、其間武人書生の巢窟となり、他の京都の千百年を齡せる老都とは大に異るべき筈なり。人生の一紀は十五個年とあれば、東京は二十一紀、即ち年齡二十一の少壯年なり、京都は七十三四紀即ち七十三四歲の老人なり、東京と京都と人情の相異るは其故あるなり。（然し人爲の力を以て自然を支配する事、例へば運河、疏水、水力電氣の發動などを盛んにすれば、若返へりすることを得）。

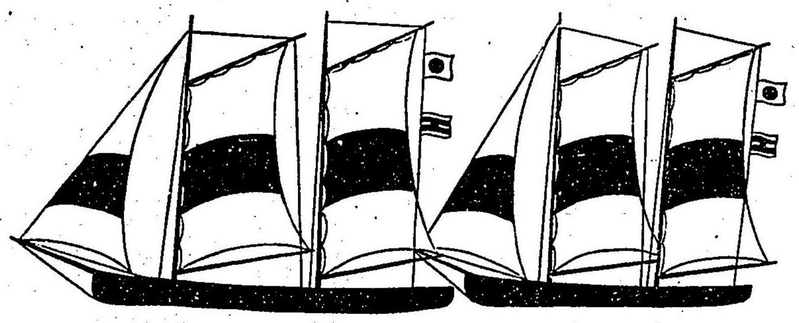
筑波山の仰望さるゝは何故

七　展望力の大小の實例　〔筑波山〕。

筑波山は海拔僅に八七六米、學術上より云へば、岡より少しく高度にある山に過ぎぬ。然れども關東平原より直ちに屹立するを以て、山下より見れば、紫の男女雙峰は霞ヶ浦の金波に水鑑して油畫の如く、山上よりは遠く太平洋及び關東平原を一眸に收めてパノラマの如く、展望力の廣大なる、是れ人の『筑波山、々々々』と呼びて如何にも高き樣に仰ぐ所因である。又た此く展望力の廣大なるは、故山階宮殿下が觀測所を山頂に御設立になりたる一源因である。

常陸に海的歴史なきは何故

伊豆に海的歴史多きは何故



六十年前、伊豆にて建造せし西洋形船

八　海岸線の長短の實例

〔常陸と伊豆〕。

筑波山、霞ヶ浦の東なる太平洋岸一帶は、常陸に附屬する部分のみ單調で、平直で、出入が少い、故に船舶出入の便利少く、隨て四方との交通敏活ならず、其の背面區域の住民をして保守的、留内的、排外的ならしめざるを得ない、水戸が堂々たる大藩にて、東部は悉く太平洋の水に洗はれながら、草創の當時を除きては海事上の歴史に乏しく、内亂に内亂踵ぎたるは、海岸線の單調平直なるに因る所少からず。之れに反し、伊豆は海岸線の出入多き半島國のことゝて、上世の枯野、萬葉の手船時代、賴朝の鎌倉時代、秀吉の征韓時代、德川氏の戰船時代、露國艦長プチャチンの西洋形船の時代に至るまで、造船と海事上との歴史多く、次で米國に初めて下田を開港せし始末に至るまで、要するに海岸線の出入多き半島國の歴史の眞面目を發輝したものである。

青梅町八王子町の發達せしは何故

八王子と養蠶地方との關係

九　都會の發達

〔商品出入の關門としての實例、八王子町、青梅町〕。

青梅町、八王子町は東京より鐵道にて一走りに行き得べき都會である、二町共に關東平原の極西に位し、面は此の大平原に向ひ、背は各〻一線の谿谷に依りて日本本州の中央大高原（甲信地方）の一部分に通ずる、故に關東平原の產物（横濱港よりの輸入西洋物、東京市中の商品はランプの心に至る迄）は復線狀をなして此所に集合し來り、此所より一線となりて中央大高原の一部分に送り入れられ、而して中央大高原の產物も亦た一線となりて此所に集合し來り、此所より復線狀をなして關東平原に放出せらる。然れば此等出入の關門には、貨物の集散すべき筈にして、貨物が集散すれば、其の市場卽ち都會が出來べき筈である。此くて大關門には八王子なる人口三萬の都會を發達せしめ、又た背面區域の小くして、石炭、木材、薪炭、杉皮など粗製產物を出す小關門には青梅なる小都會を發達せしめたのである。殊に八王子は、武藏野養蠶地方の市場をも兼ね、古來よりの紡績事業は江戸の發達に連れて發達し、更に横濱の開港と共に大發達を遂げ、八王子の發達は横濱の發達と相互的の關係となるのである。此の相互的關係よりして、横濱と八王子との間に横濱鐵道なるものが近年敷設せられ、兩地を直接に連接せしめたることを考へ、更に又た中央大高原の主產物たる生絲が中央東線鐵道と横濱鐵道とに依りて横濱まで輸送せられ、横濱より海外諸國に輸出さるゝこと

にも考へ及ぼし、此の如く旅行の間にも、又た汽車に乘り居れる間にも、夫れから夫れへと考へたり自問自答したりなどすれば、感興は愈〻增し、趣味は益〻加はり、行樂の度は一入なるべしと思ふ。

一〇　都會の發達〔河運の便利ある爲めに發達せし實例〕。

市川、松戸、流山、野田、關宿、栗橋、古河、佐原、銚子の發達せしは何故

東京附近の都會たる市川、松戸、流山、野田、關宿、栗橋、古河、佐原、銚子の各町は、各〻其の所在に夫れ〴〵の製產品はあり、又た其間には封建時代に於ける特殊の利益を占有したる關係あるものもあれども、要するに其の都會までに發達し且つ其の繁榮を保持し得る所以のものは、何れも利根河系（本流及び支流）に臨み、河運のありて、所在の製產品及び農產物を漕搬する便利あるに因るのである。此中にも栗橋、古河、佐原は、今日こそ鐵道にも沿へども、其の都會たるまでに發達し得たるは、舊來なる河運に因る所が多いのである。

一一　都會の發達〔湖運の便利ある爲めに發達せし實例、土浦町〕。

土浦町の發達せしは何故

土浦町は封建時代の舊城所在地である、然し其の都會として繁榮を保持し得たるは、鐵道の便利よりも、霞ヶ浦卽ち利根河に通ずる此湖の運漕力に依る所が多い。土浦の北なる鐵道沿線の石岡町は、直接に霞ヶ浦には臨まざれ、此湖に近きが故に、其の發達の幾分は亦た霞ヶ浦の湖運に負ふのである。

一二　都會の發達〔信仰の中心としての實例、成田町〕。

成田町の發達せしは何故

成田山が江戸人信仰の中心となりしは何故

關東方面の男女は『成田の不動樣、々々々々々々』とて、成田町の不動尊に多く參詣する。此くて不動尊の御堂は愈〻壯麗となり、成田なる市街をも發達せしめ、成田鐵道なるものも之れが爲めに敷設せられた、成田町は卽ち信仰上より起因したる都會の一例である。然るに同じ信仰の中心にても、成田山が殊の外に信仰の大中心となりたるは何ぞや、之れも廣寞たる下總平原に兀立せしなれば、然までに信仰の大中心ともならざりしに、後年江戸（東京）なるもの附近に起り、江戸人は快活、任俠、宵越シの錢を使はぬなど意氣を尙ぶを以て、燃ゆる火を背に負ひ、右手に利刄を握れる不動尊なるものは、何んとなく江戸人の風尙に適ひ、緣喜好き快感を與ふが故に、何時となく江戸兒及び關東人の信仰の大中心となつたのである。

一三　活きたる古物館〔大島〕。

伊豆の大島

火山港の模本

活火山の拜崇

大島婦女の古風

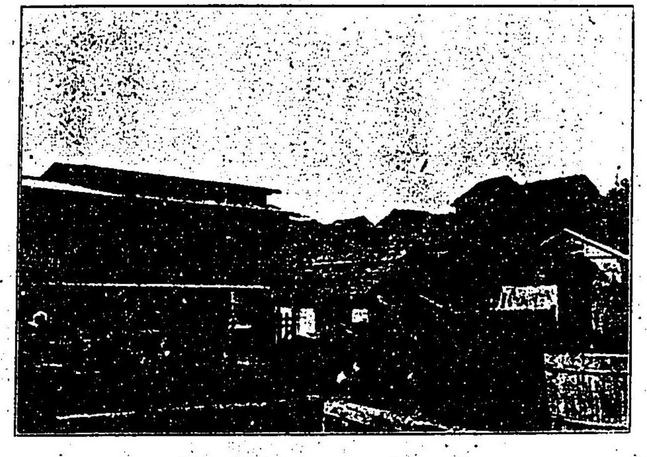
鎌倉の前面なる海上に煙を噴き居るは大島である。大島は、全體に火山の噴出物より成るを以て、火山の事柄を研究するには最も好き模本である。南東岸の波浮港は舊火口にして、世界に於ける火口港の模本である。活火山なる三原山をば島民は『御穴樣』、『御煙樣』、『御灰樣』と崇め、『御神火』と尊ぶ、卽ち活火山を神視する大古希臘人の風は、此處に行けば眼前に見ることが出來る。又た島の婦人は、頭髮をクル〳〵と束ねて、横に投げ、木綿絞りの

鉢巻して包み、最と狹き帶を締め、勞働の時にも三ッ紋、五ッ紋の木綿紋付を着け、二枚の木綿切を竪に縫ひたる前掛を締め、三四百年に流行せし隆達節を謠つて居る。要するに海中に孤立し、內地と懸け離れ、交通不便なるを以て、本邦古代の風俗は自から殘り居ることゝて、恰かも博物館の硝子函の內に古物の保存せらるゝが如く、否大なる活きたる古物館なるを以て、君は恰も中古の日本にあるが如く、社會學、人類學、歷史を研究するに、此の如き適切なる個所とては、東京附近に復たとあるべからず。

波浮の御池の茶釜の水は
沸も早いがさめ易い

私や大島御神火(火山)育ち
胸に煙は絕えやせぬ

の古謠をば、海風涼しき棕櫚の樹蔭に聽く爲め、今より大島に旅行せばや。

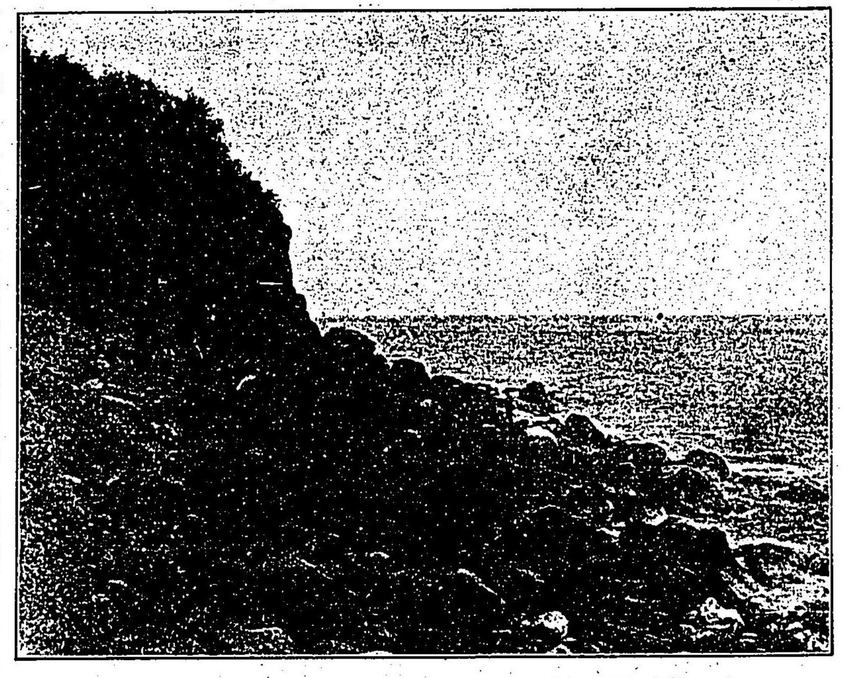


活きたる古物館

大島の村落

三　南鳥嶋。

艦は黑潮の流域より脫した、海水は澄み渡りて、藍靛よりも濃く、白き布を浸したらんには色麗はしく染まるべくぞ覺へた。艦は汽笛を長嘯しつ、此の藍靛を衝き行けば、雪の如き飛沫は艦の兩側に泡立ち、實にも氣象は豪快である。軈て一線髮の如きものが地平線上に現はれた、見る〳〵線は太く長くなつた、然し高低殆どなく、愈〻近づけば、宛から袴腰を水に立つる樣である、是れぞ今より我等の



藍靛よりも青き洋水

南鳥島が見ゆる

大島野增（溶岩の下に前世界土人の遺跡埋れてあり）

上陸せんとする南鳥島なり。

南岸の中央より少し東、珊瑚礁の裂罅より傳馬船を入れる、裂罅には六七尺もある浪の擊ち衝りて、泡は全身に降り懸る、岸に飛び上る、ホッと一息する。さて其夕は、曾てサモアの土人より見習ひたる即席料理を調へた。是は地面を廣く平げに鑿ち、其内に珊瑚の屑を敷き詰め、其上に玉葱を列べ、玉葱の上に復た珊瑚の屑を敷き、其上に土を被ひ、かくて其上にて燃火すれば、内なる葱は自然と蒸され、掘り出し鹽かけて喰べれば風味一入である。アヽ蜥蜴が掌に上つて來た、イヤ脇の下にも這入つた、袖の内に居る、十三疋を數へた、内にヤモリも四疋雜つて居る、然し何れも人を刺すことなど知らず、形は小く、色も美はしく、おさ〳〵可憐感ずる。イデ椰樹の蔭に憩ひて、此島の風土歷史を物語らんか、

南鳥嶋の位置　▲位置　北緯二四度一七分二秒　東經一五四度三分　東京灣外より一、〇一五浬。

同地形　▲地形　二等邊三角形　東岸八鏈　南岸七鏈半　西岸九鏈　周圍一里八町。

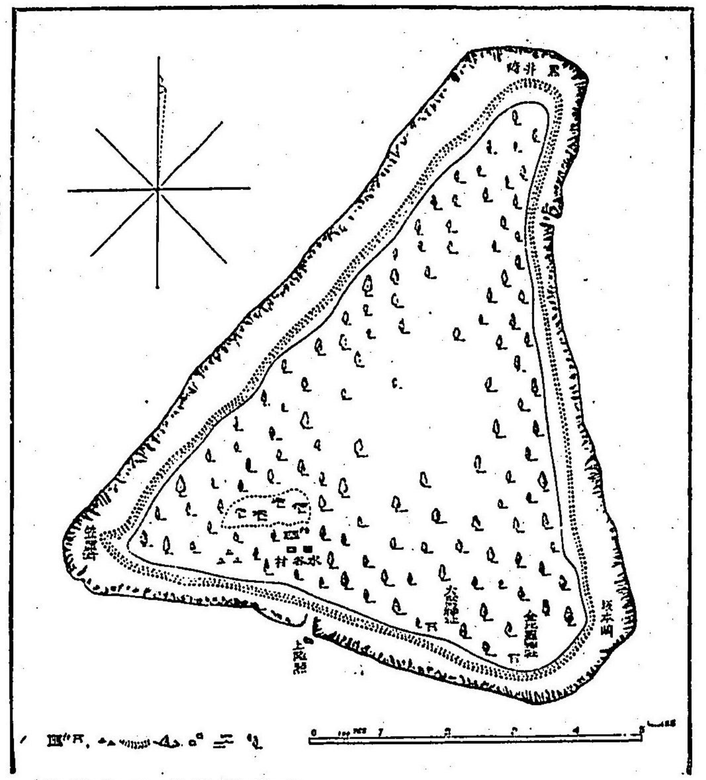
同地勢　▲地勢　平坦低卑　最高點三三尺　海岸一〇尺　平均一五尺。

同構造　▲構造　珊瑚（火山島にあらず）。

同地質　▲地質　海岸は珊瑚の蠻岩多く、内陸に入るに隨ひ珊瑚沙、珊瑚礫となる。珊瑚と鳥糞とにて好個の肥料となり、燐酸一五より三一に上る。

同上陸點　▲上陸　珊瑚礁の裂罅二個所より上陸し得。

南鳥島



同植物　▲植物　椰樹、タバコの樹、タバコの樹の三種（其他無し）。草五種。

同動物　▲動物　獸類なし　信天翁（黑白の二種、毎年十一月產卵の爲め來り、翌年三四月頃去る）。燕（甚だ大なり、一一二月來り、八月去る）。黑燕（燕の六七倍の大サ）。軍艦鳥（一名袋鳥、天狗、海賊の異稱あり、兩翼を張れば一尋に至る大鳥）。鮎捕リ（黑

同歷史米人發見す

佛人來る

日本人來る

東京府管轄編入の告示

米船占領の爲め來島

帝國政府軍艦笠置を特派す

白二種）。鰹鳥（群を成して鰹を追ひ來るを以て此名あり）。オサ鳥（白オサ、山オサ、腸カゲオサの三種）。白鳥（愛すべき麗はしき純白色の小鳥、剝製として賞美せらる）。ボーズン（一名尾長鳥、赤色の美麗なる長き尾羽一本或は二本を有す、剝製として賞美せらる）。南洋鳥。爬蟲にはヤモリ、蜥蜴（甚だ多し、但し無害）。昆蟲には蠅、赤蛾（甚だ多し）、黃色の小蠅、蟻、蛛蜘、鉄蚊、ワンダラ。尺取蟲。

▲歷史　米國宣教師發見、Marcus 又 Weeks島と名く。一八六四年、モーニング・スター艦長ガレット大佐來着。一八七四年、米國タスカロラ船長ベルナップ來着。一八八〇年、佛國エクレイリゥー船長フォルニー來着。一八八三年卽ち明治十六年十一月、横濱コンシロー商會英國船エターー乘組信岡常太郎來着。明治二十二年、米國商船々長ローズヒル來着。同二十九年十二月、東京禽獸社南洋部長水谷新六來着、同年、後備海軍大尉小林春三來着、爾後小林、水谷數回來着。同三十一年七月二十四日、東京府告示を以て同府管轄に編入の義を官報に公示す、九月二十一日、東京府、水谷新六に租借權設定を許可す、水谷及び上瀧七五郎（横濱貿易商）出資して禽鳥の剝製に從事す。同三十五年七月、ローズヒル、米國政府の許可を經、占領の爲め來島せんとする電報東京に到着、同月二十七日、帝國軍艦笠置來着、同月二十八日、笠置航海士海軍中尉秋元秀太郎以下十六人上陸

軍艦高千穗の特派

南鳥島問題の解決

烈國が絶海豆大の島を爭ふは何故

海洋開拓の時代來らんとす

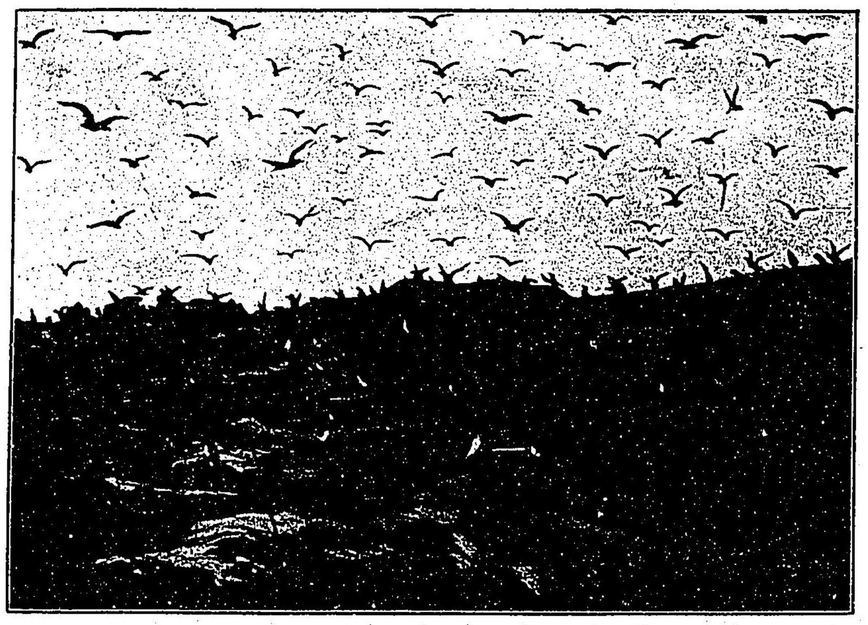
駐劄す、同月二十九日、笠置拔錨す、同月三十日、米船ジゥリア・エー・ウォーレンス船長ローズヒル來着、ブライアン、セード・ヅリック二博士便乘し、草樹野菜の種子四十個（鐵樹、棕櫚、王株櫚、蒲葵、バンダナス、檸檬、柑類、瓜類、羅蔔、菠薐草等）を携行し來り、全く永久占領の計畫なりとす、依て秋元中尉は日本政府の公書をローズヒルに交附す、ローズヒル領意し、八月五日、ワォーレンス號拔錨、大日本南鳥島駐劄隊紀念碑（木標）を笠置駐劄所の跡に建立す、同月二十八日、帝國軍艦高千穗來着、同月二十九日、高千穗拔錨、笠置駐劄隊十七人便乘歸途に就く、Marcus 卽ち南鳥島は玆に名義上に於ても事實上に於ても日本國の領土となる。

何故に絶海豆大の島嶼をば此く相爭ふものにや、是れ世界趨勢の全く然らしむる所である。世界の趨勢とは何ぞや、人口の增加と共に、土地に限りを生じ、爲めに人類が海洋を開拓せんとするもの卽ち是れである。趨勢此の如くなれば、列强には今日絶海中にある無水無人豆粒の如き小嶼と雖も、尙ほ且つ競ひて占領し、海洋開拓の足溜り場卽ちステーションとする計畫である。獨り海洋開拓のステーションとなるのみならず、海底電線の中繼所となり、無線電線の電池仲置所ともなるが故に、機を見る神の如き者は、棄て値の時に買ひ占め置き、かくて將來奇利を博せん爲め、列强には絶海豆大の島を相爭ひて今より占領するのである。

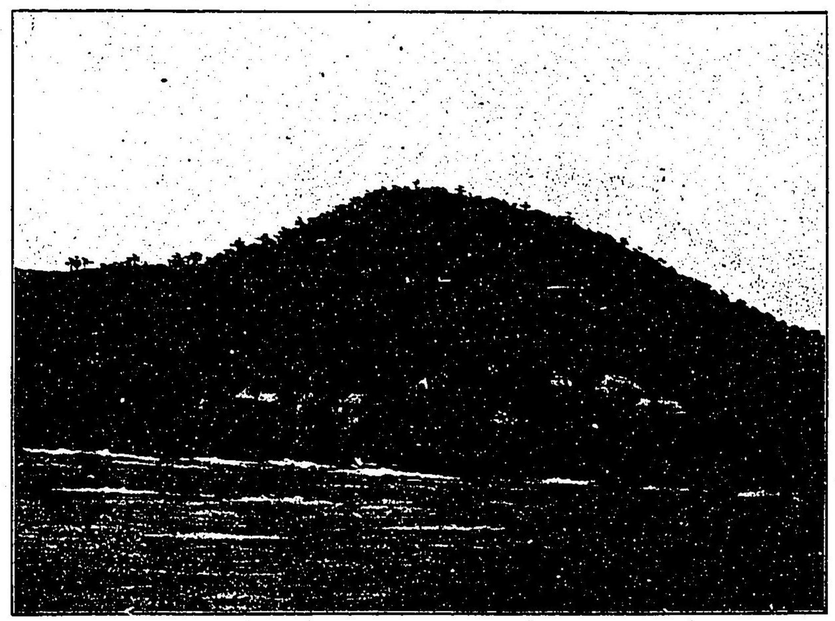
日本に於ける海洋開拓

さて海洋開拓の如き日本人の間には近年起りたる思想に過ぎぬ、而かも實效は如何、即ち

島名	原名	位	幅員	記事
鳥島	Ponafidin Island	北緯三〇度二八分。東經一四〇度一四分。	東西一八町。南北一三町。	明治二一年、玉置半右衛門開拓し初む、日清戦役の際には早く既に在島者より金四百餘圓を恤兵部に献納す、玉置巨萬の富は此島より得たるもの。
琉黄諸島	San Alessandro Sulphur Island San Augustino	北緯二四度二五分より二五度まで。東經一四一度より同三〇分まで。	北琉黄周圍三里。中琉黄周圍六里强。南琉黄周圍二里强。	明治三二年、石野兵之亟開拓し初む、甘蔗、洋麻、パナナ、パイナプル等を植ふ、人口三百、小學校あり。
南鳥島	Marcus Island	北緯二四度一七分。東經一五四度三分。	周圍一里。	明治三一年以來、信天翁の羽毛を採集して歐洲に輸出し、且つ燐鑛を採收し、資本主は數萬圓を得（水谷新六及上瀧七五郎當初經營）
南大東島 北大東島	South Borodino North Borodino	北緯二五度五四分より二六度三分迄。東經一三一度一二分より同二〇分まで。	南大東周圍五里半。北大東周圍四里强。	明治三三年、玉置半右衛門開拓し初む、砂糖を製造し、移住民一千二百、小學校、共同浴場、三哩のレール等あり。北大東島の燐鑛は舍有量三十プロセント以上、將來の大富源なり。
沖大東島	Rasa Rock	北緯二四度三二分。東經一三一度一九分。	周圍一里强。	松岡操、山本秉太郎（横濱市等の經營せんとする燐鑛は、肥料專門家恒藤農學博士に據るに、當面の丘陵のみにて三百萬圓あるべしと。
尖閣諸島	Pinnacle Islands	北緯二五度四七分より同五七分まで。東經一二三度三〇分より同四〇分迄。	釣魚嶼周圍二里强。尖閣諸嶼岩礁。黄尾嶼周圍一里半。	明治三十年、古賀辰四郎開拓し初む、夜光貝（ボタン製造用）鰹節、信天翁羽毛の輸出にて、巨萬の富を得、四三年藍綬章下賜せらる。



黄尾嶼の禽鳥



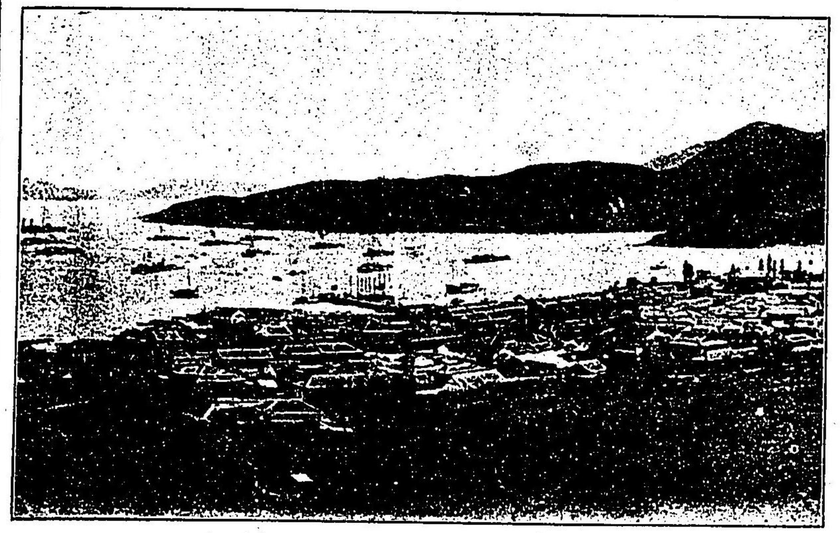
黄尾嶼（古賀付）

大同江上の春景
大同門
牡丹臺
玄武門
浮碧樓
綾羅島
大同江岸の平野
松羅山炭坑

四　朝鮮の眺め。

一　春〔平壤〕。

春の晴れ渡れる畫、大同江の岸を散歩すれば、楊は煙の如く畫の如くに平壤の城廓を籠め、樓閣人家或は高く、或は低く其間より見えつ隱れつし、江水は汪々として油の如く、其岸より紅欄の古さびて起るものは大同門である。大同門より少し溯り、絶壁突兀と水より起るものは豐太閤征韓の役及び日清戰役の戰場たる牡丹臺である。牡丹臺の下、蒲公英、菫など黄紫狼藉たる處に立てるは玄武門なり。玄武門を入り、江に臨みて立てるは浮碧樓である。浮碧樓前なる懸崖の下には、江水直ちに流れ、江中に島あり、綾羅島と云ふ、明人薛延寵の此間に到り、『鮫人誤落絳霞絹、散作二綾羅一照二江水一』と詠みたるも宜べなり、蘆芽寸々、洲上より抽きて滴らんとし、漁人沙に依りて四手網を曳く、島上に水道濫過池あり、近年落成せしもの、當面は一千年前の古蹟、此は最近世式の給水工事、亦た是れ奇なる對比かな。綾羅島の彼岸なる平野は、卽ち太古箕子が井田の法を布きたる處なりと傳へ（歷史上の考證は別問題とし）、麥浪千畦、滿目皆な翠色、紅なる桃花、雪の如き李花は、處々に此の翠色を離間し、一抹の霞は淡く地平線を籠め、松羅山（無煙炭坑）以東の山、其の間に點々する處など、



馬山

昔者學士金黃元が浮碧樓に登り、古今の題咏を見て悉く意に滿たず、因て其版を燒き、終日欄に倚りて苦吟し、『長城一面溶溶水、大野東頭點點山』の二句を得、而かも其の次句を得んとして意匠枯れ、痛哭して去りたりと傳ふるは故なきにあらず。嘉靖中（西曆一五二二―六六年）、明の許海嶽が『我が蘇州、杭州の勝概は人力に賴る、此處は淸流、絕壁、島嶼、峰巒、悉く天作に出づ。實に蘇杭に勝れり』と叫びしも、偶然にあらずなどゝ、覺えず俯仰感慨する折しも、頭上を見れば、李花の飛び來るもの二三點。

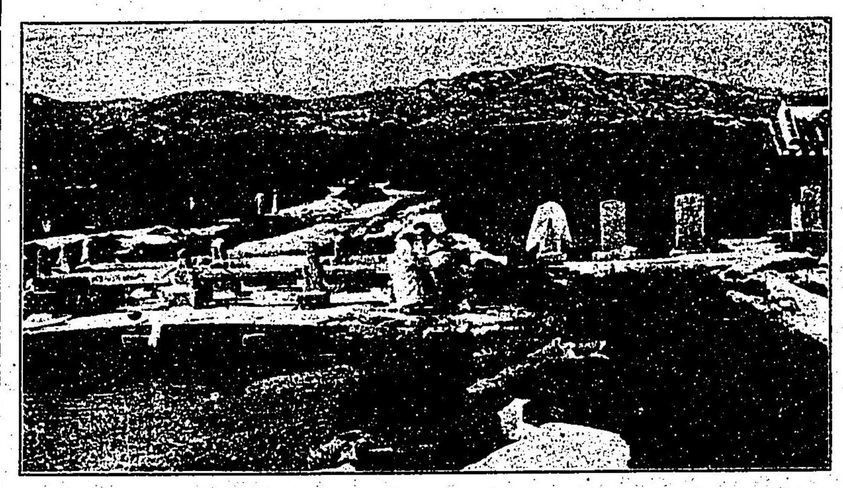
二　夏（馬山）。

馬山は、其の外港たる鎭海灣を合して琵琶湖に類し、而かも此の琵琶湖は淡水にあ

鎭海灣の月

慶州の秋草
瞻星臺

半月城
雁鴨池
芬皇寺



善竹橋

らずして海水なれば、潮拍ち來りて涼氣人に迫り、島影明滅、汽船、軍艦の時鐘其間より起り、灣を隔てゝ釜嶺の峰巒重なり、其上より月の昇りて、清光萬里、朝鮮海峽に澄み渡る處など、夏に於ける清爽の景象、朝鮮半島中實に馬山を以て第一等に推す。

三　秋（慶州、開城）。

總じて秋の眺メは古蹟に趣がある、古蹟も亡國の史迹に最も趣を感ずる。慶州は新羅一千年の王都にして、高麗に亡されたる處、開城は高麗四百七十年の王都にして、李朝に亡されたる處、況んや慶州は其の瞻星臺（高サ九米突、下部周圍一四米突、古代天文博士の觀測せし處）に、半月城に、雁鴨池に、芬皇寺に、皆な奈良朝以前のものなるをや、秋草かき別けて這般一千

慶州の瞻星臺

玉笛

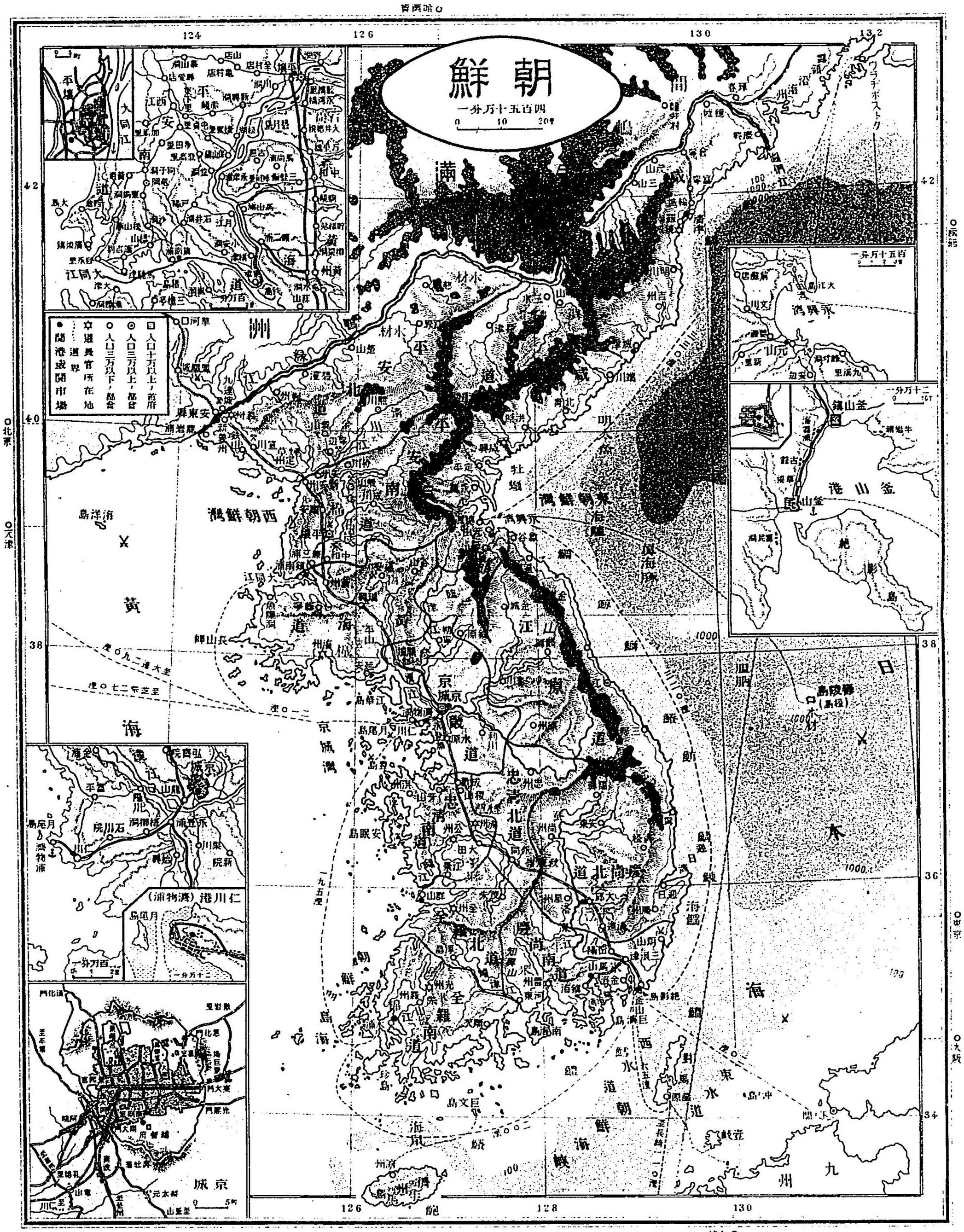
滿月臺善竹橋（鄭夢周殉義の處）

幾百年前の史蹟を訪ひ、去りて郡衙に入り、玉笛（新羅神器の一、雌雄二本あり）を借り、月に向ひて吹け、君や復た人間の物にあらず（最近の鐵道驛より慶州までは十六里程なれども、新道路開鑿せられたるを以て、騎馬にて早發すれば夕には到着し得）。人は云ふ、開城の秋は滿月臺（高麗王宮の遺趾）にありと、予は云ふ、開城の秋は善竹橋にありと。善竹橋は鄭夢周の義に殉じたる處、鄭夢周（西暦一三三五—九二年）は高麗の名臣なり、高麗の晩年、李成桂（今の李王の祖先）の君を廢して革命を行はんとするや、夢周大節凛々、遂に屈せず、成桂の黨の爲めに此の橋上に刺さる、橋は石を畳み、石面に朱點あり、蓋し鐵の分子を含めるもの、朝鮮人は『橋石朱殷、世稱二先生血一』と稱へて居る。此處は開城驛より二十五町に過ぎざるを以て、君には橋に上り、一杯を鄭先生の魂に酹り、以て李朝の末葉も亦た先生の仕へたる恭讓王と同一の運命にあることを告げよ、先生には地下に在りて『已に出づる者は已に返へる』と會得せらるゝならんか。

氷封せる鴨綠江

四　冬〔鴨綠江〕。

帝國の領土内にありて河の氷封するものに石狩川あり、天鹽川あり（以上北海道）、鈴谷川（スヽヤ）あり、幌内（ホロナイ）川あり（以上樺太）、大同江あり、鴨綠江あり（以上朝鮮）、而して鴨綠江の氷封を最も壯觀とする、何となれば鴨綠江を除く如上の各川には、其の附近に長白山の如き、


朝鮮
一分万十五百四
0 10 20哩
滿洲
黃海道
平安南道
平安北道
咸鏡道
江原道
京畿道
忠清南道
忠清北道
全羅南道
慶尚南道
慶尚北道
黃海
日本海
朝鮮海峡
東水道
西水道
對馬
壱岐
九州
釜山港
鎮海灣
仁川港（浦物灣）
京城
一分万百
一分万十二
一分万十五百
一分万十二
1000
100
38
40
42
36
34
124
126
128
130
132
北京
天津
大阪
長崎

冬の長白山

氷封せる鴨綠江

壯大嚴格なる景象の映發するものなき故である。予は常に思ふ、長白山は命令的の景象ありと、特に冬の長白山は骨節稜々、壯大嚴格に沈重蒼古を加へ、咄々人を壓せんとするの概がある、即ち仰ぎて此山を望み、伏して混茫一白せる鴨綠江の氷封を眺む、是れ正に詩人畫家が淋漓大筆を揮ふべき處。

慶州途上。

新羅王好殉吾臀。
頸血濺空仍嚮東。
往事千年春似夢。
李花吹盡馬蹄風。

矧川生

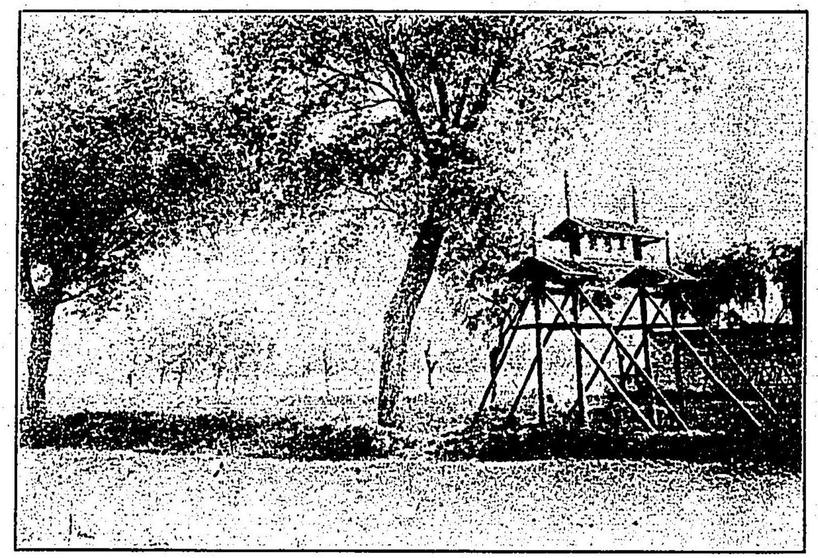
五　莫愁湖〔清國南京〕。

竹輿夢を搖かして曉に南嶺の雲を破り、匹馬長へに嘶きて黃昏に江西の大野の雪を蹈む、厦門を去りてより四千淸里、歲を隔てゝ八十餘日、携ふ所のビスキットも竭き果てゝ、『人は麵麭のみの爲めに活きる者にあらず』てふ語の是非を疑はしめた。時恰かも北東時風の季節にて、天は凝りて同雲空を蔽ひ、四顧の風物は闇淡して灰色を帶び、福州府を出でゝより三十餘日、日光を仰ぎたること前後二回に過ぎなかつた。此日江西省の境界を出で、吳頭楚尾の間に入るや、天會、晴れ、午後三時半、船が韓信の拜將軍壇を過ぐる頃には、陽氣愈〻發して寒暖計六十五六度に上り、四時、明の太祖の雄骨を埋めたる鍾山には靄の淡く籠め居れるを認め、南朝四百八十寺、多少の樓臺は煙樹の間に見え隱れ、夕、秦淮の下游より繞りて南京に入つた。此夜、雲霧れ渡りて新月眉の如く、六朝の山影は客窓の中に落ち來つた。

翌朝早く起きると、梅香は鼻を撲ち、報喜鳥はキッキ〳〵と快晴を報じた。いで六朝佳麗の遺趾を探らんものと、驢に跨り、明の方孝孺（西曆一四〇二年）が殉節の墓を過ぎり、秦淮の中游に傍ひ、唐詩に知られたる長干里を下り、石城門を出で、『山園ニ故國ニ周遭在、潮拍ニ空城ニ寂寞回』てふ石頭城の南を行けば、一路平坦、路を夾むの楊柳眉を舒べんとし、驢は鞭たざるに自から驅けて、背に懸くる小鈴は一齊にチリン〳〵と鳴り、驢驅け春風起るも、一昨日まで降しきりたる雨の後として寸塵だに揚げぬ。頃刻して楊柳の缺けたる間より一水眼前に開き來つた、莫愁湖である。

吳頭楚尾
拜將軍壇（韓信の）
鐘に單められたる鍾山
南朝四百八十寺
六朝佳麗の遺趾
秦淮
長干里
石頭城

莫愁湖



莫愁湖

莫愁湖は梁の武帝（五〇二—四九年）が河中之水向ノ東流。洛陽女兒名莫愁。莫愁十三能織ノ綺。十四採ノ桑南陌頭。十五嫁作ニ盧家婦一。十六生ノ兒字阿侯。盧家蘭室桂爲ノ梁。中有ニ鬱金蘇合香一。頭上金釵十二行。足下絲履五文。珊瑚挂ノ鏡烱生ノ光。平頭奴子擎ニ履箱一。人生富貴何所ノ望。恨不ニ早嫁ニ東家王一。河中之水歌

と詠みし佳人莫愁が劉宋の頃（四二〇―七八年）、此所に居りたるより名けたのである。此湖は明の中山王（一三七〇年）が其の別墅に園みたるより以後、清の嘉隆年間（一七九三年）、江寧府（南京）の太守李堯棟（松雲）が袁牧（隨園）と謀りて浚渫せしまで、幾多の人工を經たりと雖も、其の起因は、素と楊子江の流域の内にありしが、江路の變化と共に江水と分離し、湖となりて獨立せしものなるべし。湖に臨み南に華嚴庵あり、明の太祖より賜へる額を掲げてある、水色の古雅な道服着けたる老叟が出で來り、一揖して内に導き入れた、庵内は二部に分れ、南の一部を勝碁樓と云ふ、明の中山王徐氏が衣冠束帶し笏を捧げて椅に座せる畫像を安置する。傳へ云ふ、中山王は明と異姓獨立の君主なり、明の太祖四海を平げ、都を南京に奠むるや、一日王と碁を鬪はし、賭するに莫愁湖を以てした、王は一局にて勝つた、太祖手を拍ち呵々として湖を王に贈り、湯沐の邑となした、勝碁樓は卽ち當年黑白勝敗の遺址なりと。湖北に中山王湖田と稱ふる九十畝の地あり、湖租は今に王の後裔なる徐氏の手に歸すと云ふ。華嚴庵の北の一部を鬱金堂と云ふ、直ちに湖より起り、亭榭は水と相拍ち、盧家の少婦莫愁が滴らん鬱金香の枝を携へつ嬌眼を花に凝らせる畫像を安置す、蓋し唐の沈佺期が

盧家少婦鬱金堂。海燕雙棲玳瑁梁。九月寒砧催木葉。十年征戍憶遼陽。白狼河北音書斷。丹鳳城南秋夜長。誰爲含愁獨不見。更教明月照流黃。古意

華嚴庵

勝碁樓

鬱金堂

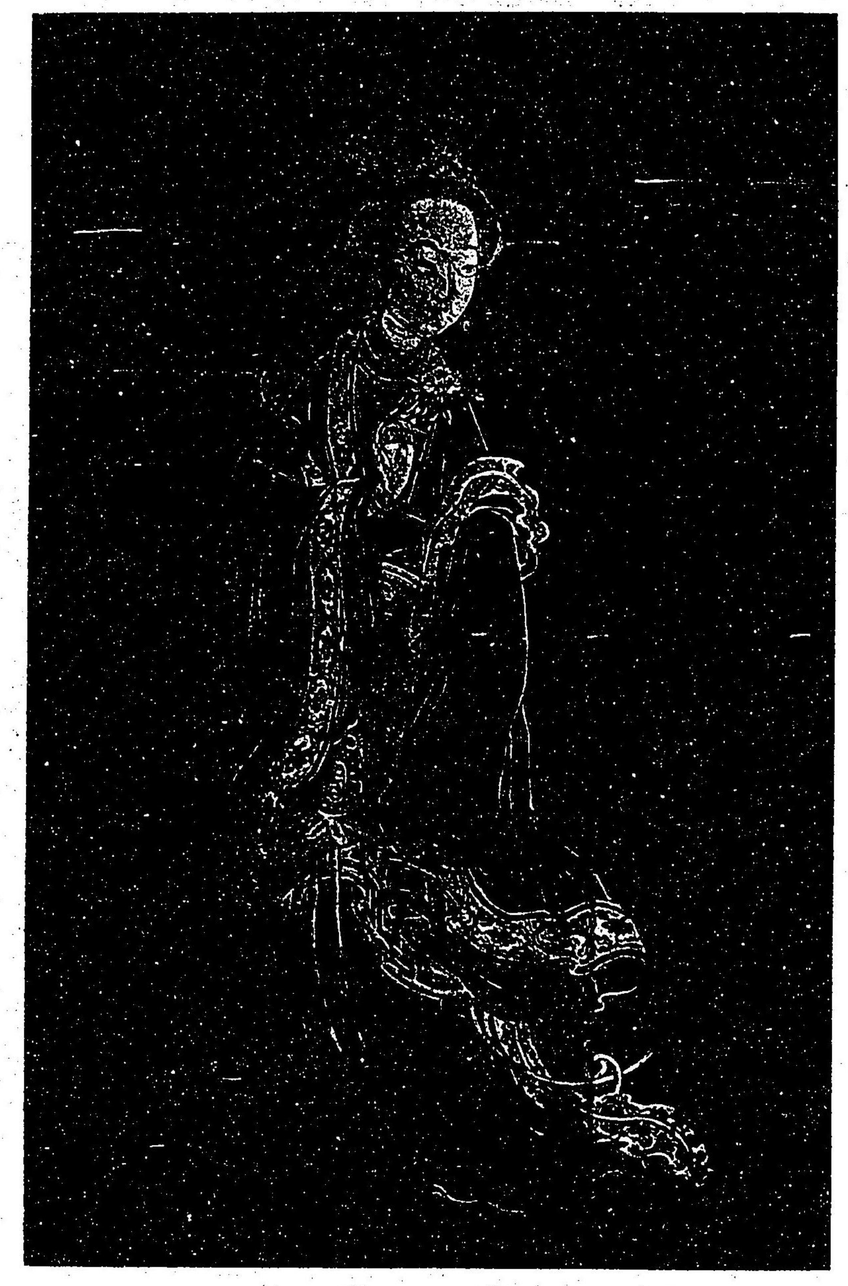
鬱金香の解

インドス河流域と楊子江流域との古代交通

より堂に名づけたるものと思ふ。今の堂は勝碁樓と共に李松雲の創めて構へたる所、

樓奉中山異姓王。亭當少婦鬱金堂。但教香火因緣在。兒女英雄孰短長

と詠ずるもの卽ち是れである。想ふに劉宋の頃、莫愁の嫁しゝ盧氏の家早く鬱金香がある、梁の武帝『中有鬱金蘇合香』の句がある、沈佺期『盧家少婦鬱金堂』の句がある、而して唐詩亦た時々鬱金香の字を見る。さて『鬱金香、生罽賓國、花似芙蓉、葉如蘭蕙』と云ふ、罽賓國は希臘語 Kapsi より歐洲の東洋學者皆な今のアフガスニタンの Kabul なりとし、英華辭典も亦た同樣に認めて居る。然れども唐の三藏玄奘が紀行西域記註に此國を以て迦濕彌羅國（Kashmir）卽ち今の北印度のカシミルと見做すもの眞に近く、而して罽賓を Kabul となすも、Kashmir となすも、劉宋若くは梁、唐の時代卽ち今より千二百年乃至千五百年前に於て、インドス河の灌域より楊子江の灌域に早く既に鬱金香を傳へたることを證左するに足る、亦たインドス河の灌域と楊子江の灌域と交通せしことも測り知らるゝのである。若し夫れ鬱金香に至ては、薑科の Curcuma longa, L. var. macrophylla, Miq なれば、『花似芙蓉、葉如蘭蕙』と云ふもの事實にして、今の鬱金堂に安置せる莫愁の畫像、卽ち光緒二年（一八七六年）、淮北の朱柏容（海峯）が畫くものは、花葉共に薔薇の樣なるを以て甚だ眞に遠く、却て堂内に掲げざる畫像、卽ち嘉慶乙亥（一八一五年）、金陵の馬士圖（柳村）が畫くもの眞に近



莫愁

朱海棠画

金粉零星
慘作春。
南朝臺榭
總成塵。
怪他一樣
生花筆。
不弔英雄
弔美人。

馬　梅　村　畫

莫愁湖

清聯　壁長白山人

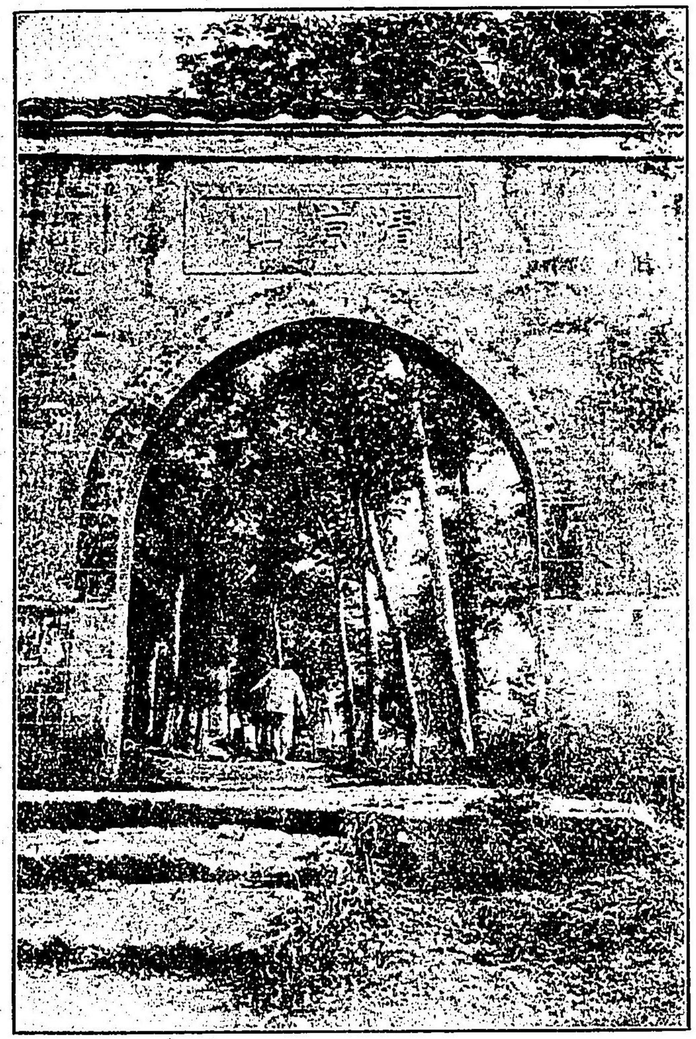
曾公閣

湖心亭

清涼山掃葉樓

しと云ふべく、隨て予が此堂にて購ひ、歸後諸同人に分贈し、莫愁畫像の石摺は、朱海峰の畫く所なるを以て、今に當りて其の杜撰なりしを諸君子に謝せんとす。華嚴庵を出で、沙を蹈み、青松白梅の下を潜り、曾公閣に登つた。曾公閣は清の曾文正公(國藩)が當時長髮賊の根據地たりし南京を陷れ、遂に賊を平定せし名譽の爲めに建てたるもの、高閣直ちに水より屹立し、内に公の肖立せる畫像を安置する、即ち一揖し了り、欄に倚つて臨望するに、滿目平遠、眼下に一亭あり、湖心亭と名く、小艇三々五々、亭外に漂ひ、枯れたる荷葉の上より支那流の四手網を曳く、網に入るものは何ぞ、ハヘ、鮒、モロコ、白魚の類なり。湖岸には柳眼將さに開かんとして、梅花既に六分を開き、青松其間を彩り、鳧の群をなして汀渚に拍々するなど、自から一幅南畫の粉本である。湖を隔てゝ當面に石頭城あり、半ば廢殘せる女墻は往にし名殘を留め、城を超えて江外(楊子江北岸)の諸峰は見えつ隱れつし、俯して城下を見れば清涼山(廣惠禪寺)あり、南唐の時(九五〇年)の建つる所。寺の右に掃葉樓あり、明の末(一六六〇年)、畫人龔賢(柴道人)の隱れたる處、清時袁隨園(牧)の隱れたる處も亦た其傍にある。六朝以來の殘剩せる金粉は悉く雙眉の下に集り、山色湖光は漾ひて机席の間に落ち、身をして史中の人たらしめ、詩中の人たらしめ、畫中の人たらしめ、恍惚として歸るを忘れしめた。折柄机上を見れば、青衣の道士苦茶を煎、逆質の砂糖漬を献ず、即ち茶を啜りて復た

山を仰ぎ水を俯し、顧望多時、日既に午を下るを以て、遂に閘を下り、復た驢に跨り一鞭の



清涼山色全當面。四百樓臺半隔城。一幅李將軍設色。畫成風景壓南京。松雲。

孫楚樓

まゝ湖東の孫楚樓に走せ去る、樓は實に李白（七四〇年）が月に觴して明月の大篇を賦しゝ處。

六　ウェントウォース谿〔濠太利 Wentworth Gap〕

ダーウィン先生の博物家世界周航紀行を讀み、濠洲青山（Blue Mountains）ウェントウォース谿の奇勝を知ること久しかつた。シドニー市に滯在すること十日、濠人も亦た嘖々と其勝を說いた、イデ一游せざるべからずと思つた。谿は市より西七十哩、山深く地幽なる處にある。時に予はバサースト地方を巡游する心得でもあつた、バサーストはシドニーより西百五十哩、內陸牧羊平原の中心市場である。因て汽車に搭じ、先づウェントウォース谿を探り、而る後にバサーストに到らんと思つた。然し復た思つた、鐵道にて行くは尋常一樣の事とて逸興も少い、縱し迂路なるとも何とか別の工夫はあるまじやと、即ち地圖を按じ、濠洲旅行案內記を參考して、前途の行程を計畫した。

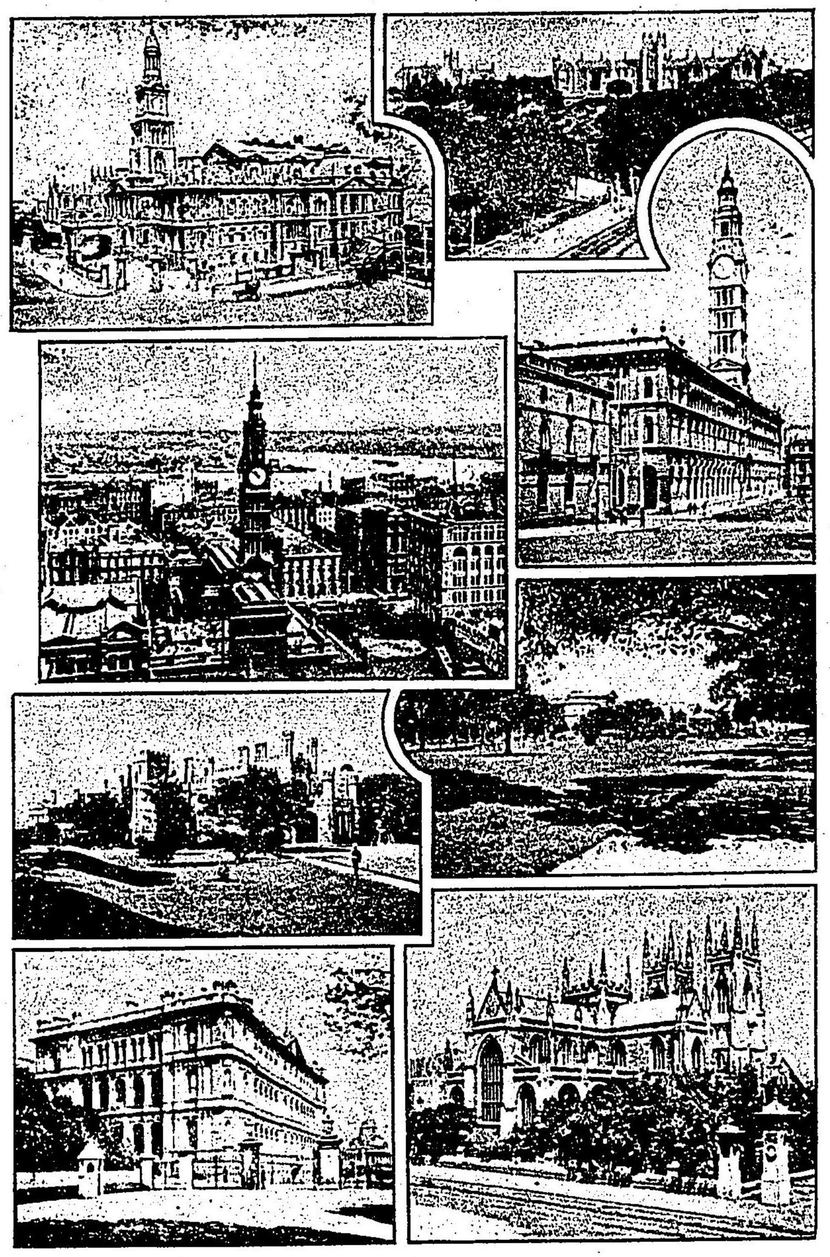
四月十三日、南半球の秋の最中とて、天は高く氣は澄み渡つた、即ち鉛筆一枝、耐軒詩草一部を携へ、シドニーのキング街埠頭に到り、バラマッタ河行の小蒸氣船に搭じた。一等船客は年若き紳士の三名連のみにて、煙を吹かしつゝ語り合ひ、頻りとシドニーの事を喇りて居る、談の了りたる時、予は一禮して三士の鄕國を問ふ、曰く僕等はヴィクトリア州の者なり、メルボルン大學の學生にて、秋期休暇中に此の地方を游歷する者なりと、予は又た問ふ、

シドニーとメルボルンの競爭及嫉妬

パラマッタ河の秋

パラマッタ公園

諸君には英國より移住されたる者かと、曰く否、僕等は植民地人（コロニアルス）なり、メルボルンにて出生せし者なりと。三士共に淡泊なる學生にて、予に交も〳〵日本の事情を問ふた。既にして談濠洲の事に及ぶ、一士予に謂て曰く、君にはシドニーを喜ぶ者か、シドニーは人民も市街もメルボルンに劣ること數等なり、且つ僕はシドニーにて見るもの聞くもの皆な不快ならざるはなく、現にメルボルンにて清き井水を飲み居たるに、此州に游びてより汚濁なる水を飲み、昨今腸を惱めり、是れも新南ウェールス（ニウー、サウス）州に對する不平の一なりと、呵々放言して大に笑ふ。蓋しヴィクトリア州（首府メルボルン）と新南ウェールス州（首府シドニー）とは相互に繁盛を爭ひ、相互に濠洲各州の盟主たらんことに腐心し、兩州人の間に嫉妬の焔をおさ〳〵燃（もや）して居る、三士がシドニーを惡言するも此間の消息を洩らすものならん。時に船漸くハンタース丘（ヒル）の麓を過ぐ。丘の左、堂塔の林樹の間に抽（ぬ）くものはヴィラ・マリア寺である。寺の右、長虹の空に跨る如きものはファイヴ・ドック鐵橋である、兩岸の有加利樹（エーカリプチウス）は煙るが如く染むるが如く、我も人も油畫の中に居る。十一時半、パラマッタ埠頭に着き、直ちに瀛車に搭じてパラマッタの市街に入る、鐵道にて陸行すれば、シドニーより此地まで十四哩に過ぎざれども、河を溯りて船行すれば二十二哩である。三士は予を公園外の酒舗に誘ひ、一盞を攀し た、三士は此地より直ちにシドニーに引返へすことなれば、予は握手して別を告げた。公園



シドニー市

大學　郵便局　ハイドパーク公園　博物館　セントアンドリウー寺院

市役所　市の全景　政廳　首相官邸

ペンリス

ネピアン河
エミュー平原

に入るや、英國より移植せる櫛樹は鬱葱とし、季節秋の央なれども葉々北半球の如くに黄ばまず、一個の紳士が椽栗拾ひて其の同行せる少婦に献じ居るを見た。予が日本の旅客なりと云ふを聞き、自分のポケットを敲きつ、莞然として曰ふ、萬里の日本より游覧に來る、君の財嚢は定めて豊かなるべしと、一寒書生を富者と見誤る、鑑識の皆無なる人なる哉。園の外、流水涓々、岩石狼籍、釣りをして居る者あり、傍の一童子がハエの如き魚四五尾を手にし居つた。停車場側の旅亭に午餐した、牛肉のサーロイン、南瓜などを供した、パラマッタの近郊は河に沿ひ、土地は肥美にして、肉類、果物も亦た最も肥美である。午後二時、ペンリス行の汽車に上る。三時半、ペンリスに着す、卽ち徒歩して青山に登らんものと、殘更に汽車を下り、ペンリスの市街に出で、ネピアン河の鐵橋を渡り、エミュー平原に到る。會、十才ばかりの二童兒が學校より歸宅せんとする、之れと同伴した、無花果を入れたる籠を手にせる一人の曰く、學校にて英國史を習ひ居れりと、依て予は佛蘭西より來りて英國に打ち勝ちたる者は誰ぞと問ふ、童子答ふ、ウィリアム・ゼ・コンケラーなりと、予然り々々と答へ、相嬉笑して一二哩を過ぎた。既にして二兒に別れ、予は獨り青山を指して閑歩した。時に路漸く嶮しく漸く惡しく、加ふるに前日來の降雨を以て、到る處泥濘を極め、歩行艱難を覺ゆる折柄、後の方より一童兒の木材を荷積みせる馬車を驅り來り、予を見て、ジョン、ゲット、アップ

ナップサック・ガレー

ルークスヴィル

秋の晩望

青山亭

〳〵と呼ぶ、卽ち其車に上り、青山の麓に達し、童兒に六片を與ふ、彼れ殊更に憐れなる顏色を作り、一志を乞ひて止まない、之れを與へて車を下り、復た徒步して青山登臨の途に就く。時に夕陽西山に臼き、四顧人なく、秋風は蕭疎として居る、唐詩を放吟し、且つ唱へ且つ行く。蜜柑の黃熟せる圃の間を過ぎて、ナップサック・ガレーの複道を涉り、漸く登りてルークスヴィルに到る、山下を望めば、暮雲旣に崩れ、殘紅西天に返射して、冥色漸く合せんとし、平蕪地平線を限り、ネビアンの長江其間に曲折して白絲を引くが如く、時に霧起りて風光俄かに改まり、人をして端倪すべからざらしめた。此處に休憩すること一時間程、羊を運搬する汽車の來るに會ふ、車掌に賴みて機關車に搭じた。車中に幼兒女の學校より歸宅せんとする者八九居る、予が頭髮容貌を熟視し、相顧みて笑つた。此等の子供は皆な山下の學校に通學し、其家は各〻山上にある、州政府は特に無賃乘車を許し、車掌も亦た特別に意を用ひ、子供の居村に來れば、停車場なきも其處に停車せしめ、自から手を下して子供を車より降さしむ、學童を愛敬するの風喜ぶべし。子供の車を下るや、喜色滿面、各〻馳せて書囊若くは辨當籠を振りつゝ聲を揚げて「ハラー、ゴット、バック」「マーマ、〳〵、グランドマー」と呼び、其聲遂に有加利樹の林中に入り、呼び聲も漸く微かに、汽車も亦た漸く進行す。八時、ロースン停車場に着し、青山亭（Blue Mountain Inn）に投じた、亭婦、老母と共に懇

ウェントウォース谿

『啼岩』

ろに待ち、コルンド牛肉を供した。此亭にシドニーの一老翁が家族を連れて轉地療養して居る、予の姓名を日本字と羅馬字とにて記さんことを求め、曰く Shigetaka Shiga とは實に長き名なる哉と、予曰ふ、Thomas Babington Macaulay の如き、William Makepeace Thackeray の如き、予の名より更に長きにあらずやと。老翁、令孃及び孃の許嫁の紳士相驚きたるものゝ如く、眼を圓くして曰く、君には定めて英國に遊び敎育を授かりし者なるべしと、予曰ふ、否日本のみにて敎育を受け、且つ國外に遊びたるは此行を初めとす、然かし日本にて予の如き智識を有する者は此の青山の岩石よりも多しと。翁等曰ふ、驚くべき國なる哉、驚くべき國なる哉と。十一時、枕上に耐軒詩草を覽つゝ眠に就く。

十四日、晴、午前十時、亭を發し、汽車に搭じてウェントウォース驛に下り、農夫に道を問ひ、徒步すること二十町許、忽ちにして一天俄かに開き、身は恰も高巖の絕壁上にある。左右を望めば、斷崖霧の裡に現はれ、直立千仞、其の深サを窮むべからず、伏して之れを望めば、股慄き足震へて疎然とする、時に天籟颯々として谿中に起り、ワットル樹琴瑟を雲中に鼓するが如く、怪禽之れに和して其聲最も凄じ。谿の幅、長サ共に凡そ一哩、宛かも海水なき灣の如し、灣側を廻ぐり、谿を下り、岩を蹈み、崖を飛び、ウィーピング・ロック（啼岩）の瀑布に到りて休んだ。忽ち白雲眼下に往來して群峰を隱現し、仏るゝが如きものあり、躍るが

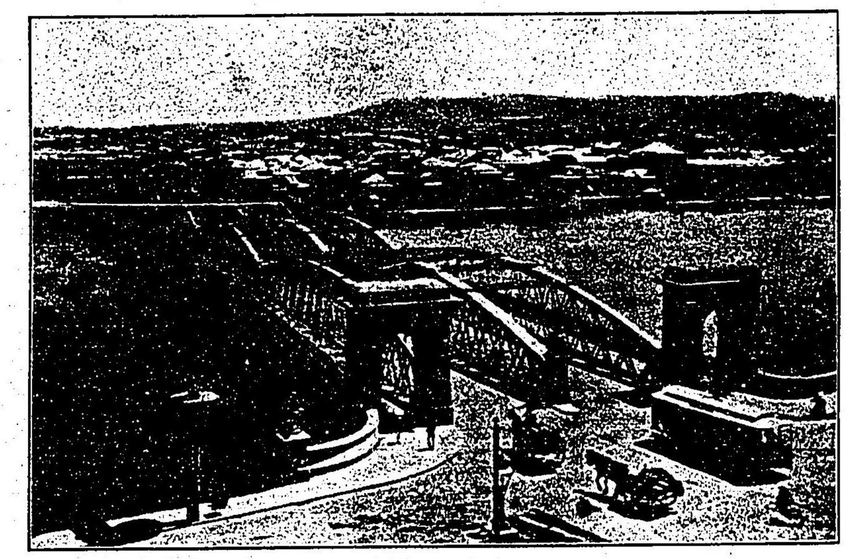
如きものあり、舞ふが如きものあり、警拔變幻極りなし、亦た以て全世界中の一奇觀となすに足る。崖上に一亭あり、内に人なし、登臨の客皆な其の姓名、鄕國、年月日を題して居る、予も亦た倣ひて壁に書して去る。時將さに正午ならんとす、卽ちウエントウォース驛に返へり、再び瀛車に上りてヴィクトリア嶺頂に達し、停車時間に一旅亭に入りて午餐し、午後三時、山を下りてリスゴー町に到る、卽ち濠洲内陸に入りたるものである。瀛車がヴィクトリア嶺を上下するに屈曲線軌道に依る、是れを濠洲建國以來の大工事となす。瀛車嶺を下る時、窓を開きて鐵道の兩側を望めば、極目千里、牧場ならざるはなく、青草芋々、鳴羊呱々、人をして曠世の感あらしめた。五時、パサースト市に着し、三四の旅館を敲くに、到る處皆な謝絕し、支那人なりと誤認せられたることを悟つた、依て警察署に到りて日本人たることを說明し、且つ心ならずも傲然として、予は日本の博物學者なりと述べたるに、警吏は氣毒と思ひたるにや、口を極めて市民の無禮を謝し、且つ慰勞しつゝデュークス・ホテルと云ふに案内した。時に日は暮れ果てゝ、皎々たる秋の月はヴィクトリア嶺頂に懸つた。

ホテルの主人は愛蘭（アイルランド）より移住せる者、故に架上にムアーの詩集を備ふ、予が開きて讀むを見、諸客と不思議の感をなし無言にて凝視す。九時、市の戲場にコックス氏主唱の音樂會に一志を投じて入場し、『ソル王』の曲等十數番を聽く、十一時半閉會、ホテルに還る。

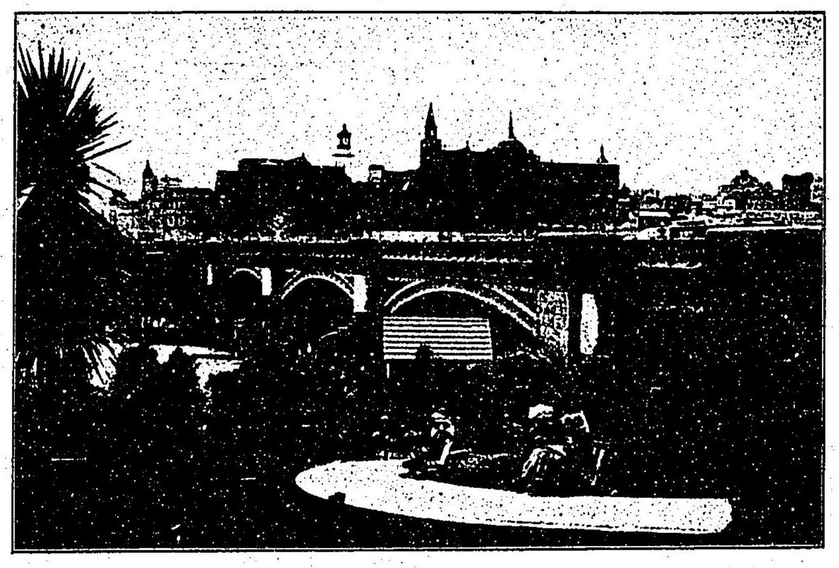
リスゴー町

パサースト

濠洲の二橋



ブリスベーン市ヴィクトリア橋



メルボルン市ブリンス橋

帝國軍艦の亞爾然丁廻航
亞爾然丁と日本
思出多き軍艦日進春日

リヴァダヴィア（春日先生）第一〇四頁參照

七　亞爾然丁國への土產。

明治四十三年三月、帝國軍艦生駒は亞爾然丁（アルヘンチナ）建國一百年祭へ參列の爲め廻航することゝなつた。元來亞爾然丁は南亞米利加に於て日本人の通商及び移住に恰好する土地柄なれば、彼我の關係は將來益〻密着せしめざるべからざるのみか、日本人が同國に對し無限の感興を催すは、日露開戰の際、同國が日進春日の兩軍艦を讓與したる事實である。忘れもせじ開戰の詔勅下りて後六日、橫須賀に安着し、直ちに武裝して旅順口に走せ向ひ、間接射擊の勢勇しく、味方の士氣は此の新手の力を得て益〻奮興し、敵方は又た異樣なる兩艦の出現して異樣なる働振（はたらきぶり）りせるに威壓せられ、確かに我が海軍力に加倍したるは、宛も昨日の出來事の如く心地せらる。然れば日進春日兩艦内には今に其の原名モレノ（Moreno）、リヴァダヴィア（Rivadavia）と記せる器具等あれば、今回右記名ある洋琴を生駒に移し、六年振（ぶり）に初めて南米の故國に歸り、日亞兩國親善の譜を奏すなどゝは、座（もし）ろ思出（おもひで）多き趣向哉と感服し居た。然るに予も亦た生駒に便乘することゝなりたれば、老書生は又た老書生として相當なる手土產（てみやげ）を携へ行かんと案じて居つた。元來リヴァダヴィア（春日）は、亞爾然丁創業の名士リヴァダヴィアの名譽の爲めに附名せしものにて、リヴァダヴィアは法律、行政及び宗教制度の革新者なり、國都ブエ

モレナ（日進先生）第一〇三頁參照

ベルグラノ（亞爾然丁の高杉晉作）第一〇六頁參照

サン・マルチン將軍（亞爾然丁の西郷南洲）第一〇一頁參照

亞爾然丁建國一百年祭への土産

ノス・アイレス大學の創立者なり病院、養貧院、孤兒院の開設者なり、農業牧畜の奬勵者なり、其の頭腦の近世式にして、且つ最も建設的材能に富みたるは、我が大久保甲東に似たる所がある。日進先生即ちモレナも亦た亞爾然丁獨立當初の志士にて、其の精力膽氣は我が橋本左内の面影がある。然るに此の日進先生も春日先生も亞爾然丁創業の名士にこそ相違なけれ、夫の匹夫劍に杖りて難を倡へ、本國西班牙の大兵を逆へ破りし亞爾然丁の高杉晉作たるベルグラノ、將た又た獨立軍を總督して西班牙兵を掃蕩ひ、健鬪四年、三國の獨立を成就するや、我れ復た何をか求めんやと功名富貴を棄つること敝履の如く、佛都巴里の近郊に韜晦れて讀書三昧に耽り、遂にブーローニュ（佛國）に客死し、亞爾然丁の西郷南洲たるサン・マルチン將軍に至ては、春日日進兩先生が兄事せし英雄なれば、此際兩雄の肖像を日本に於て捜索し、且つ漬裝して亞爾然丁建國祭に携へ行けば、恰かも我が明治維新紀念祭（開催するとすれば）に南米萬里の亞爾然丁より西郷南洲の官軍總督府參謀として海道を殉ふる英姿なり、將た又た高杉晉作の肖像を彼國に捜索し得て日本に携へ來りたる時、吾々日本人の感興を促すと同一なるべしと思ひつゝ、幸にベルグラノの肖像は珍藏し居たれども、マルチン將軍の英姿は遂に見當らず、到底日本には捜索すべからざるものと殘懷千萬に思ひ居つた。然るに出發の數日前奇蹟同樣の事實にて入手するを得た。

ノラグルベ・ルエヌマ
（亞爾然丁の高杉晉作）
（何故に肖像に文字を狩籍と書き居れりや、第一〇二頁參照）

眞個の奇蹟

石井健吾氏には此程神奈川縣橘樹郡篠原村なる其の別莊に鶴見川上流の梅林を移植し、目下百餘株共滿開なれば、遊覽されたしと申し越された。依て家族を同伴し篠原に行き、緩々遊覽の後、夜に入り辭し歸らんとしたる際、傍の一洋畫を瞥見したるに、是ぞ日本にて搜索し得んものと日夕焦慮せしサン・マルチン將軍の肖像なりければ、覺えずア、此所にあつたと叫んだ。石井氏には怪み問ひたるにぞ、予は茲に始めて亞爾然丁行の事及び將軍の肖像搜索の始末を物語つた、石井氏にも頗る打ち驚かれ、且つ曰く、此畫は本日午後佛蘭西より新歸朝の知人が觀梅旁〻來り示し、其儘預り居たるものなるに、此畫と云ふ畫が亞爾然丁行の爲めに君の搜索中のものなるのみか、而かも此の片田舍にて搜索し得られたりとは奇緣も亦た奇緣なり、明朝早速横濱に携へ行きて大小數枚の寫眞に撮影せしめ、餞別までに君が亞爾然丁行の手土産に供すべしと、十二日午後、唯今出來せりと大雪を冒して上京贈與せられた。然らば日本にて搜索せし證明までに平生崇敬せる兩君、即ち德川公爵及び乃木大將の觀覽に供せし上、潢裝の意匠は跡見花蹊女史に純日本風にと依賴し、日亞兩國旗を交る〳〵にし、兩英雄の心事を酌みてサン・マンチン將軍には梅花、ベルグラノには櫻花とを彩り、三越呉服店に命じ、職工の徹夜して十五日出發の間に合せたるものが即ち是れである。實に今回亞爾然丁行の出發に際み、奇蹟同樣の目出度き事ありしは、殊更一番の開心を加へたのである。

宛然たる小日本

八　帝國の延長。

帝國軍艦生駒は、明治四十三年三月二十七日午前八時、新嘉坡に安著した。

君には試みに軍艦生駒が今回の航行を畫くものと思ひ召れよ、恐くは二條の煙突より黑煙を吐きつ遙けき大海原を奔せ行く一個巡洋艦を寫さるゝに過ぎざるべし。然りながら此の如き單純なる意味にあらず、實は日本の大八洲より一小洲を割き取り來りて、太平洋、印度洋、大西洋に浮ばせたるやの觀がある。即ち艦內にて聞く所は日本語のみである、用ふる所は日本文字のみである、郵便は日本流の封筒に日本文字のみにて認め、酒保にて日本郵券を購ひ貼付して投函すれば即ち日本に配達され得べく、無線電信は日々各方面より到來し、當日の夕刊新聞紙に發表せらるゝを以て、日本の出來事は手に取る如くに判り、又た初夜巡檢後は日本服にて起居するを許可せらるゝを以て、便乘者の甲君は酒保物價表を見て鮎のウルカを命じ、櫻正宗を酌みつゝ、洋上の長鯨を掣するが如き大氣焔を吐き、一同謹聽し、さて飢を告ぐる頃となれば、ボーイは鮓、蕎麥、汁粉、將た彼岸には春の御中日なりとて萩ノ餅まで供し來る。此の如き次第なれば、日本に於て家居すると何等の相違もない。凡そアングロ・サキスン民族が今の世界に雄飛するは、地球何處に到るも英語を通じ、英文を通じ、且つバッ

ス・エール（三鱗麥酒）を得べからざる土地なく、四海皆な家なりと觀じ居れるに是れ因るものなりとは豫てより聞いて居る。吾々日本人も何時かは此の如き國運に際會し得べきやと遐慽千萬に思つて居つた。然るに今回軍艦生駒が日本の社會其儘を提げて地球の隨處に出入する實際を見聞し、頓に平生の遺憾を慰めた。尙ほ又た海上隨處の知識を得んと欲すれば、海洋學專攻の下斗米學士（秀三、札幌農科大學助教授）が海水の色、比重、溫度に關し目前の事實に徵して一々垂教せらるゝあり、吾々が亞爾然丁將たカナリア諸島にて用語に不便なからしめん爲めには、西班牙語專攻の濱口外務書記生（光雄）が西語の科程を開講せらるゝあり、又た海圖室に入れば本艦の寄航すべき各地の詳細圖は直ちに閲覽し得べく、書庫には南米各國の報告、年鑑、歷史將た統一亞米利加、羅甸亞米利加、モンロー敎令に關する近刊書籍を備へ付け、西班牙語は固より葡萄牙語（伯剌西爾及びヴェルデ諸島の通語）、伊太利語（ナポリにての用語）と英語との會話篇に至るまで、何れも整頓して居る。更に又た吾々便乘者には打ち寛ぎたる獨立の一室を各自に供せられ、室內には枕電燈より煽風器の末に至るまで完備し、各室に水兵及びボーイを附し、入浴は每夕、種痘は希望に任せ、待遇上盡さゝる所なく、海軍大臣よりの慰問電信（無線）に對し『御懇電を感謝す本艦の優遇に依り益〻元氣なり　便乘者一同』と零丁洋上より返電したる一事にても、便乘者全體の滿足は想像せらるべし。

零丁洋天文祥節に仗る處

潮州洋

韓文公驅鰐の處

一幅國運隆昌の縮圖

國家の洪恩

帝國の延長

尙ほ又た零丁洋上にて想ひ出せば、此の洋上は、文天祥が宋室を恢復せんとし節に仗りて來往せし方面にして、其の『惶恐灘邊說二惶恐一、零丁洋裏嘆二零丁一、人生自レ古誰無レ死、留取二丹心一照二汗靑一』と賦せし事など追懷し、依て夕刊新聞紙に『明二十日夕は零丁洋を航過可致候に付文天祥の招魂を兼ね粗酒一盞差上度候間午後五時艦長公室に御來會被下度候云々』と廣告すれば、下斗米學士には天祥の書せし『廉忠孝節』の四大字を携へて來會せられ、又た潮州洋を航過し韓文公の『驅鰐文』を想起すれば、潮州に於ける韓子廟の寫眞を示さるゝなど、境に觸れ景に接する每に輙ち詩懷を動かさゞるものとては無いばかりである。

帝子寃レ魂邊若何。回レ頭閩越點二靑螺一。平生闇誦文山集。酹レ酒零丁洋裏過。

以上の如く、軍艦生駒今回の航行は、實に國運隆昌の縮圖と云ふべく、而して此の縮圖中の人々は、國運の隆昌より由來せし無形上と有形上との便宜快樂を併せ有する次第なれば、凡そ日本人として此れ以上の贅澤は盡す能はず、縮圖中の人となりし吾々こそ日本隨一の果報者なる哉と、流石に天眼代議士も、國家の洪恩肝に銘せり、誠に奇蹟の如しと叫んだ。更に又た沈思默考すれば、日本にて建造せし一萬數千噸の大軍艦を以て、東北南北の四半球三萬餘浬を航行する次第なれば、獨り日本の大八洲より一小洲を割き來り、太平洋、印度洋、大西洋に浮ばしめたるに止らず、實は日本帝國を太平洋より印度洋、大西洋まで三萬餘浬丈ケ

三千年來の一大史料

延長したると同じく、國家の威信を事實的に世界に宣揚する一點に至ては、日本海海戰の大勝利よりも一層の意味ある樣に思はれる、何となれば海戰の勝利には偶然の機會なるものも多少手傳ひ居れども、軍艦の建造及び其の運轉には一點の偶然なるものを容さず、絶對的の實力を以て一萬數千噸の大軍艦を建造し、又た同じく絶對的の實力を以て三萬餘浬の航路を來往する次第なれば、予は今回の生駒航行を以て三千年來の一大史料なりと感悟し、新嘉坡に安着するや、取り敢へず感悟の儘を書き送る。

尚友人諸君子に申上候、去る二十二日體量檢査有之候處、純體量二十貫五百六十五匁、即ち全艦内八百八十八名中第一の重量に有之、重量丈にては亞爾然丁國に押出候ても不覺を取る間敷、不相變健啖善眠壯々健々に罷在候に付、此段は聊か御安慮被下度候。

檢來ニ舊稿ニ太汗顔。雖ニ太汗顔ニ寧忍ン刪。眞境却存ニ惡文字。會ン心何必一船山。

矧川生。

新嘉坡

地球上に於る極西の小日本

新嘉坡在留の日本人

九　地球上に於ける極西の小日本〔馬來半島〕

附　柔佛國〔Johore〕。

君の宿は僕の家に用意してあると、軍艦生駒の新嘉坡波止場に横著となるや、波止場に馬車にて待ち居たるは長田秋濤氏である。自働車を以てゴム栽培地方を案内せんと出迎へたるは遠藤隆夫氏（ネヴィー・ホテル主人及び地主）である。「先生」と帽子を振り滿面の笑を含みつつ大呼するは福田宇太郎氏（南洋新報社長）である。依て直ちに上陸すれば、相州早川にて先日鈴江さん富士男さん（予の小兒の名）に御目に懸りましたと話す人あり。柔佛國都に往けば、靈南坂の御宅に參りたる者なりと呼び懸くる人あり。成程此の樣子にては新嘉坡を中心となし、馬來半島及び和蘭領の大小島嶼を合すれば、五千の日本人在住せりとは事實なるべしと信ず。要するに亞細亞大陸の南東部より赤道附近まで細く長く防波堤の如くに蜒蜿せる馬來半島なるものは、日本のビール、日本の西洋小間物、日本の石炭の現在に於ける極西の賣捌地にして、又た日本民族の發展上より觀下すれば、地球上に於ける極西の小日本である。

新嘉坡在住の日本人約一千四百（日本領事館戸籍登錄以外の者を合せ）、内七百餘は例のムスメさんである。又た男子とても、如何はしき者多數にある。然しながら何れの國人を問は

『海濱亭』（新嘉坡市街より四哩）

す、遠く祖國を離れて海外に出稼し、祖國の力に依らず、其の政府の庇蔭を仰がず、其の官憲の斡旋を待たず、只管自己の膽氣と精力とに信賴して、新たなる運命を拓開する者は、到底尋常平凡の人柄にあらず。道學先生より批判すれば、名敎を以て訓すべからずと云ふなれ、日本民族を發展せしむるには、道學先生所說以外の名敎を以てするにあらんずば成就すべからず。個人にても、團體にても、國家にても、「何に遣っつけるぞ」と云ふ意氣込が第一にして、此の意氣さへ旺んなれば、國家は愈〻益〻雄張すること、確信する。人は衣食足りて禮節を知り、否衣食足りてこそ燕尾服を調へて夜會に出

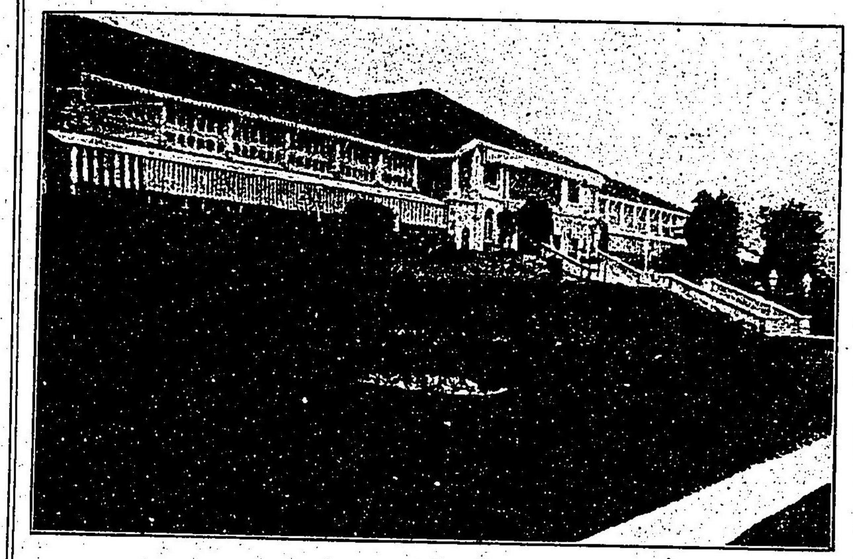
席する次第なれ。然れば新嘉坡到著の夜、ラッフルス・ホテルに於ける晩餐會には、主人方は何れも燕尾服多かりしに、却て招客たる予等の何れも略服なりしをば今更の如く心に詫びる。

其他日本人は共濟會なるものを組織し居り、祖國官憲の何等斡旋を待たずして、廣大なる墓地を英領海峽植民地政府より獲、賴る邊なき日本人にして死亡すれば、同會より死者毎に六十弗を支出して鄭重なる葬儀を營み、件の日本人墓地に埋葬することは久しき以前より實行せられ、又た青年會は毎月會費を收め、此くて英人の敎師を招聘し、毎夜夜學を開きて英語を講習し、又た熊本縣人前田氏夫妻を擊劍及び薙刀の敎師に招聘し居れる抔、此處の小日本にして根底薄弱なれば、到底爲し得ざる次第である。三月二十八日午後三時より日本領事館に於て生駒歡迎の園遊會開催の際にも、在住日本人一百三名出席せしが、何れも當地方に來りて相當の資力を博し得たる人々であつた。

ゴム熱

偖又た馬來半島は在來世界に於ける錫の主産地、又た籐、椰樹實、胡椒、鳳梨の産地として知られ居たるに、三四年前よりゴム栽培の事起り、特に昨今に至ては、ゴム熱二百度以上に昇り、其の相場取引の中心は當地にあらずして倫敦にある。新嘉坡地方の英字新聞は倫敦に於けるゴム相場及び株劵の高低に關する電報を連載し、二十八日發倫敦電報に依れば、馬來地方に於ける一ゴム會社の配當を十二割五分に評定したるとのことである。尙ほ當半島のサン

ゴム栽培の經濟



ジョホール王宮 (Istana)

ディクロフト會社 (Sundycroft & Co) は十五割の配當をなしたれば、同社株券は二磅(ポンド)のもの二十六倍して五十二磅と市場に發表され居り、而かも賣手は更になく、昨今の新聞紙を一覽するに、何れの會社も八割より十割までの配當をなし居る。隨て歐羅巴の資本がゴム熱の爲め引き締つたと云ふことである。其れも其の筈なり、ゴムほど經濟植物とてはなく、一エークル(四反)に二百圓許り投ずれば、六年目に至れば、假令現今の市價の三分一に低落するとても尙ほ且つ資本を回收し、七年目よりは二百圓、八年目には三百圓と利益逐增する次第なれば（時價の三分の一に低落すと假定し)、ゴム熱の旺

ゴムの栽培

ゴム栽培の人夫

笠田霜と其ゴム畑

柔佛國

んなるも偶然では無い。向後ゴムの市價は必らず大に低落すべく、而かも時價の五分の一に低落するとも算盤は取れるのである。此の事業には日本人も相當に着手し居れば、隨て馬來半島に於ける日本人の將來も多望なるべしと思はれる。

二十八日早朝、檳榔樹蔭を衝き、海峽を渡りてジョホール國に游んだ。海峽は濃綠なる木葉の缺くる處より現はれ、對岸にはジョホール國都の殿閣樓塔が連り、色彩の總合最と調和せるのみならず、光線と影との安排も優に面白ければ、彼のライン河(獨逸)と比べられ、世界の好風景として稱へられ居る。

ジョホールは支那人の柔佛國にして、面積一千五百方里、人口二十萬、賭博を公許して政府の重もなる收入とするより、歐羅巴のモナコと東西に並び稱へらる。王宮、國會議院、公許賭博場を參觀した、國會は諮詢府にて、立法的でない。回教國にて、今日は先王の忌辰のことなり、且つは皇子の二日前倫敦より歸國せられたることゝて、回教寺院にて壯嚴なる儀典を擧行せられた。

隔レ岸樓臺層一層。南天三月水雲蒸。晩來椰樹涼搖蕩。數點流螢大レ似レ燈。　矧川生。

神武天皇祭日に於る帝國軍艦の赤道經過

白雨萬里黑風開

縹緲吹送簫歌來

颶母擊鼓鮫人舞、道是海王駕龍回

一〇　開國三千年來の赤道祭。

午前九時三分七秒六、ア、今丁度赤道を通過しますと、航海長の金丸中佐（清緝）は時計を眺めつゝ云ひたれば、神武天皇の祭日に日本の軍艦が北印度洋より南印度洋に入るとは、三千年來の出來事ですなと答へた。言未だ了らざるに、一塊の黑雲、地平線上に起り、見る〳〵擴がり、我艦目懸けて襲ひ來り、風帆はビヴ〳〵と鳴り、白雨はドット降りて上甲板を洗ひ、九時二十二分に至つて全く止んだ。すると涼しき風は西南西より起りて、ピー〳〵ドン〳〵、ジャカラン、ボンと異樣怪態なる音樂の聲を吹き送つた。何かと聲の來る艦橋甲板を仰げば、こはそも如何に全身墨の如と黑く、眉髯共に白く、唇の紅より赤き二人の蠻夷が、一人は笛を吹きつ、一人は甲板ライトの蓋二個を合せて鐃鉢の如と打ち鳴らし、足踏面白く梯子を下り來るを認めた。二人に次で、一人の背高き老漢が麻もて製りし髯を蓬々と生し、身には希臘風の麻衣を穿ち、金紙銀紙を彩りし冠儼めしく、火箭揚筒の先に大鯛を挿み、徐々と下り來るにぞ、成程今朝赤道を經過するに當り、海王の降臨するものとよ解したる程もなく、天吳（男兒）も下り來り、颶母も下り來り、鮫人（女兒）も下り來り、流石に颶母は女裝して白粉滿面、同じく白粉滿面の鮫人の手を引き來りたるにぞ、予は覺えず手を拍ち、ア、奇なり妙

海王殿下

なりと叫び、白雨萬里黑風開、縹緲吹送ニ簫歌一來、颶母擊レ鼓鮫人舞、道是海王駕レ龍回の句を得たるより、やがて一篇の古詩を成さんとしける折柄、燃ゆる如き赤き褌せる一蠻夷が五尺餘ある大鍵を携へ來りたるにぞ、全艦八百八十八名の將士は何れも喝采したれば、予も詩思を停めつゝ何事の起るにかと凝視て居つた。

すると海王殿下には威丈高く御聲朗かに『太平洋、印度洋、大西洋、北極洋及南極洋に君臨する大海王は茲に東經八十八度の赤道線に於て日本帝國軍艦生駒に臨み親しく爾乘員等に告ぐ』とありければ、莊司艦長以下一同肅然と謹聽したるに、『爾等が勵精各々事に當るを視て心大に嘉する所あり乃ち賜ふに南半球に入るべき鍵を以てせむとす』と、世にも有難き御諚に會ひ、何れも感激する程もなく、流石に大海王は大海王なり、御聲を一入張り揚げ『然りと雖も爾等の前途は尙遼遠なり須らく從前の小康に驕る所なく謹愼以て職に當り勇猛以て事を斷じ遂に克く大命を果さむことを切に望む爾等其れ之を勉めよ』とて、茲に止め玉ひしかば、一同はハッと肝に銘じ、覺えず頭を低れて平伏しぬ。

大詔の朗讀了ると共に海王には所謂南半球に入るべき鍵を艦長に賜ひ、かねて其の男兒、女兒をして世界の珍果（マングスティーン、デゥリアン）等を盛りたる籠を手土產として贈らしめた。男女兩兒共に最と可憐なれば、服裝を見るに、女兒は軍艦旗を纏ひて廣袖の樣にしつ、

生駒山と嵐山の勝負

三千年來の出來事

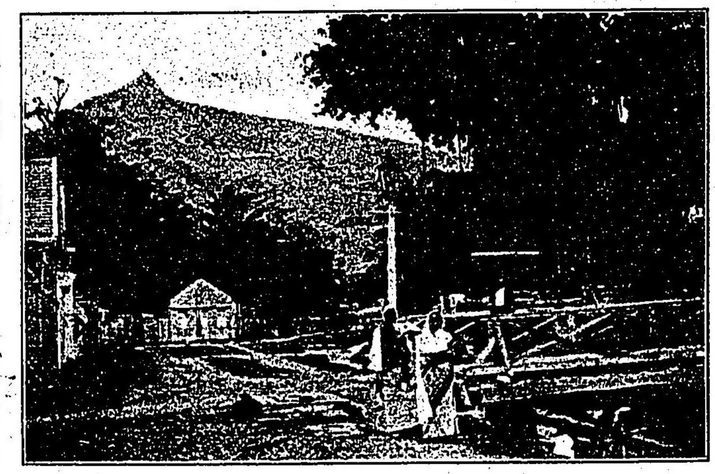
窓掛を腰に卷きて袴の樣になし、又た男兒は R. M. S. Neptune（軍艦海王）と金字せる水兵帽を穿ち、衣服は水兵裝なれども、日本水兵と異にせんとや、涎掛の緣には二條の黑線を劃き、善行章は故とV形にしたるなど、細微なる點にまで注意に注意を盡くし、全く大海王殿下及び其の一行が異國なる日本の軍艦に降臨し玉ひたる實際實況を現はしたるぞ面白けれ。

さて大海王殿下には、日本人は武勇の國民なりと聞きつれ、實際を知りたしと御諚ありければ、柔術を左舷に、擊劍を右舷に催し、兩伎了るや、防水蓆を甲板上に敷詰め、釣床に圍ひ、かくて理想的の土俵場出來たるにぞ、此處に十數番の角觝を催ふし、やがて東の方關脇の生駒山（一等水兵矢野政吉）と西の關脇嵐山（二等水兵長見九一）との勝負となり、生駒が嵐を擔懸けんとして、却て嵐に懸けられ、看者手に汗を握る刹那、生駒はツト身を起し、我が頭を對手の胸に衝て遂に嵐を土俵の外に押し出したる際は、喝采の聲ドット起りて、南印度洋の怒濤さへ一時聞えずとなつた。正午には將官公室に於て午餐の會食あり、三鞭酒の盃を擧げて軍艦生駒の萬歲を三唱しぬ。午後には水兵、機關兵等の琵琶歌、義太夫、浪花節あり。又た夕に數番の喜劇を演じ、艦長より懇勞旁、訓戒ありたる後、目出度赤道祭を了りぬ。

神武天皇祭日に於ける帝國軍艦の赤道經過、こは絕後とは云ふべからざれ、空前には相違ない、卽ち三千年來の出來事として、本日の赤道祭を後世の參考までに書き綴り置く。

モーリシアス島の風物

一一　南印度洋の琉球〔モーリシアス島〕。



モーリシアス島の風物

軍艦生駒は新嘉坡より三千五百浬、豫定通りの日數にて、四月十三日、南印度洋中の彈丸黑子たるモーリシアス島に安著し得たるは、先づ以て國運の呵護と科學の進步とを感悟する。偖モーリシアスに上陸、渴を覺ゆれば、小刀さへ莖に突き入れなば、淸水の流れ出づる旅人樹あり、飢を訴ふれば麵麭實ノ樹さへあり、若しも痛奇珍怪など云ふ文字を弄ぶべくば、此も痛奇なり彼も珍怪なりと云ふべけれ、實は熱帶地方普通の生物、普通の風物に止まり、大概は中學校用敎科書にも見えて居る。然しモーリシアスは大體に於て我が琉球なりと思召あれば、當島に關する概念は得らくべくと思はる。

モーリシアスと沖繩縣歴史

モーリシアスの面積、人口、人口の密度は沖繩島と同一なるのみかは、歴史、首府の地位も亦た類似し、經濟の根柢（製糖）に至るまで全く同一である。卽ち歴史上にて、彼は明への朝貢、島津氏征服、清への朝貢、日本專屬の四時代ある如く、此は葡萄牙人の發見領有、和蘭領有、佛蘭西領有、英吉利領有の四時代がある。又た琉球が日本專屬時代となりて國庫への納

歲入

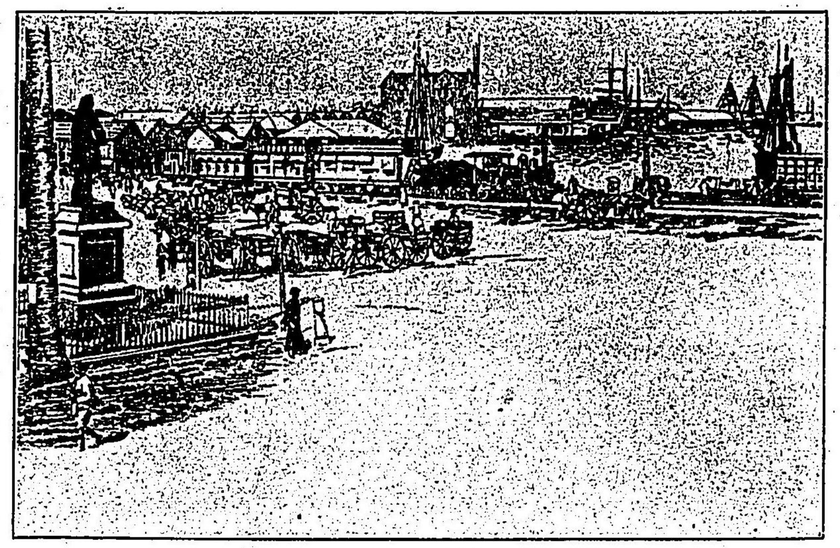
稅は國庫支出よりも多額なるは、モーリシアスの歲入が連年歲出よりも多額なると同一である。さては彼の不快事に飯匙蛇の害毒あるは、此に熱疫猖獗の慘毒ありと比較すべきものである。尤も製糖に至てはモーリシアスは流石に世界有數の糖業地として、最近一個年の粗糖

慘毒

輸出高二千六百萬圓、隨て政府の收入一個年七百萬圓に上り、中〳〵に沖繩縣の企て及ばざる所なり。然しながら當地には『甘蔗栽培地製糖法』(Plantation Sugar Refinery Process)の如き最新式は未だ應用せられず、沖繩縣にこそ近年此の最新式を應用し〻ことなれば、恰かも

製糖業

似たるは、此のモーリシアスには英本國軍艦テリブルの來泊以來、生駒の如き大軍艦の來りたることとなしと全島の大評判となりたることなるに、元來テリブルは生駒と略ぼ同格の巡洋艦なるも、十二尹砲（インチ）を備へず、舊式の六尹砲のみ裝置せるは、產業上に於ても國防上に於ても最新式のものを應用する點に至ては、私かに人意を强うするもの其間に存せりと、予は數日間モーリシアスを旅行し、一入我が國運の呵護と科學の進歩とに發明する所があつた。



グラルードンイネンドのイ銅像とポ一ト・ル

モーリシアスの奈良原男爵。

佛蘭西のモーリシアス島を占有するや、マエー・ド・ラブールドンネイなる者を政務總裁として派遣す、ラブールドンネイは甘蔗（さとうきび）、綿（わた）、藍（あゐ）を輸入し、初めて製糖の業を興してモーリシアス富强の根柢を作り、首府をポート・ルイに定め、且つ道路、運河、水道を開鑿し、砲臺、埠頭（はとば）を築造し、植物園、學校、病院を創設したるなど、モーリシアスが今日の大を致せるは此人に負ふ所少からず。是を以て此人任を去りてより一百七十年、モーリシアスが佛領より英領に移りてより一百年經過すと雖も、ラブールドンネイを追慕する者今に止まず、其の築造せしポートルイ埠頭の傍に銅像を建て、長へに功蹟を紀念すること〻せしもの、何ぞ沖繩縣に於ける奈良原男爵（繁）に似たる所多きや。更に又た奈良原男を懷はしむるものは、モーリシアスに於ける英人の統治法なり、英人は島内に於ける舊慣習に何等干涉せず、言語をも改めさせず、衣裳も改めさせず、跣足（はだし）の儘にて往來するを咎めず、コセ〳〵せる手段を取らず、大綱（おほつな）を張りて次第々々に網綱（あみつな）を引き締め、知らず〳〵の間に『神は英島を助く』の英國歌を歌はしむるに至らしめたるもの、六千五百浬を隔てたる奈良原男の技倆と何ぞ似たる所多きや。

モーリシァスの比翼塚。

『妾有二阿耶在一、妾心不レ可レ奪』と、木蘭舟中にあられども、本國（佛蘭西）よりの歸舟は廢に衝突してヴィルジニは返へらず、之れを救はんとしてパウルも亦た溺れ死し、八重の潮路は兩々の屍を流し去り、遺恨は知らず深サ幾尺ぞ、サン・ジェランの海水は終古碧なり、粗にペルナルダン・ド・サン・ピエルの鬼才ありて此の佳話を傳へ、パウル及ヴィルジニは優に歐州文學史中に地歩を占め南印度洋中彈丸黑子の如きモーリシァスの名をして世界に聲稱し、其もんたんのさとの文旦里（Pamplemousses）に於ける比翼塚をして遂に百代に不朽たらしめにき。一篇のパウル及ヴィルジニ、正に是れお染久松と石井高尾と植八小菜とを合作せしもの。

モーリシァスの比翼塚

レユニオン島
マダガスカルの夕陽
旋風及颶風の策源地
トロメリン島の悲話
モーリシァス島に於る颶風

一二　世界隨一の難所。

帝國軍艦生駒は、四月十四日、モーリシァス島出港、同夕レユニオン島（佛蘭西領）の噴火山を仰ぎ見、同十六日、夕陽の中にマダガスカルの山影を認め、同二十二日朝、喜望峯に無事到著した。

偖赤道の南、南印度洋より懸けモーリシァス島を經て阿弗利加大陸の南端（喜望峯）に到るまでは、實に旋風と颶風との策源地にして、古來航海者の間に世界隨一の難所なりと稱へられ居る。モーリシァスとマダガスカルとの間にあるトロメリン島近海にては、其昔佛國の運送船ウーチル號暴風に會ひて難破し、男女八十名此島に漂著し、十五年の後、甲比丹トロメリン偶然にも此島に立寄るや、件の八十名中、七名の女子のみ生存せるを發見し、其間右の女子共は介類と鹽水とのみにて生命を繋ぎ、旦暮救助船を待ち佗びたる一條は、今以て御伽話の資料になつて居るが、全く嘘も飾もなき有りの儘の事實である。モーリシァスは又た世界に於ける旋風の犧牲所とも云ふべく、六萬貫の重量ありし鐵塊が鐵橋より吹き離され深谿中に打ち飛ばされたる事もある、風の最も狂猛なる際は一時間百十二哩に至るとは、到底吾々の想像だに及ばざる次第である。既に本年に入りても、コロンボ通ヒ（錫蘭）の一郵船は一

颶風の前兆

月中モーリシャス出港以來、今以て何等の消息なく、必定洋上にて旋風に會ひ沈沒したるものと申し傳へられて居る。此の如き次第なれば、同島にては若し晴雨針の俄かに下り、溫度の頓に昇り、上には空の赤チャケとなり、下には長濤の何處よりと無く打ち寄せ來る際は、果して旋風の來襲すべき前兆なりと認め、汽車に信號し、汽車は信號を受くるや、鐵道驛の倉庫に入り、綱にて縛り付け、又た海岸の鐵道驛にては車輛を取り脫して岸近の海中に投じ、風の收まり次第引揚げて再び使用すると稱へらるゝ。

『嵐の岬』

喜望峰は其の初め『嵐の岬』(Cabo de Tormentoso)と呼びたるをば、葡萄牙王ジョアン第二世が不吉の名稱なりとて Cabo de Esperança 卽ち喜望峰と改めさせた。然し其實當初『嵐の岬』と呼びたるこそ至當である。元來阿弗利加大陸の南端は、北東方より來る暖流、卽ち世にも名高きアグリャス海流(Agulhas current)の產地にて、此の海流すら航海者の大難物となせるものなるに、搗て加へて南方卽ち南極洋より來る寒流は、喜望峰近海にて暖流のアグリャス海流と衝突し、交雜し、撞擊し、或は向岸流を作り、或は三角浪を躍らせ、或は氷塊を携へ來り(南極洋より)、或は海霧を生ずるを以て、當四月中、南風の一割は暴風となる公算あり、彼の英國運送船バーケンヘッドの沈沒するや、乘組の陸軍軍人は先づ婦人小兒を端艇に載せて陸岸に向はしめ、自分等三百五十七名は最期の喇叭を吹き、國歌を唱へ、從容として群が

アグリャス海流

バーケンヘッド船の沈沒

露國バルチック艦隊の遭難

る鮫の餌食となりたる悲壯淋漓の事蹟は、テニスンか誰かの詩中に相見えたる樣記憶せるが(艦中に詩に關する參考書なし、作者の名を覺違し居れるやも知れず)、此のバーケンヘッドも今にて思へば全くアグリャス沙堆にて難破したるものにて、是は決して覺違にあらず。近くは又た日露戰役の間、露國バルチック艦隊東航の際、阿弗利加の南端にて暴風に會ひたる記事も見ゆる、卽ち

海水は砲塔にまで打ち込み、機關室より全甲板上は一處として海水の浸入せざる所なし、波は砲塔より艦橋まで打ち込めり、目前に橫はるものは狂瀾怒濤の巨壁なり、カッター(端艇)は激浪の爲め粉碎せられ、海中に投げ棄てられたり……運送船マライアが海底に沈沒せんとする狀を全艦隊が認め居るも、何等の助をも與ふる能はざるなり

と、當時の困苦さこそなるべしと今にても察せらる。

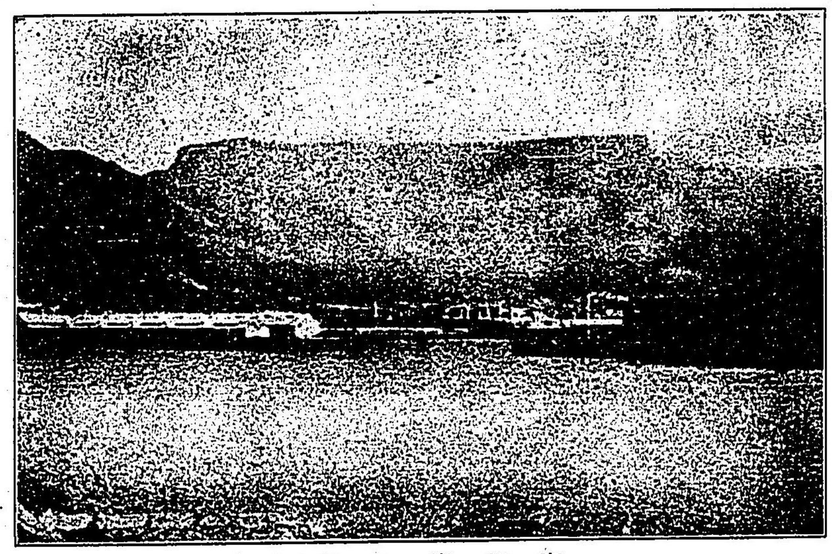
カモエンスの詩

以上の難所にもあれば、葡萄牙の世界的詩人カモエンスは其の不朽の大作ルシアズ中に、喜望峰の巖上にはアダマストルてふ巨大漢が一人威丈高く兀立し居り、其の面相たる『雲衝くばかりの漢、全身不具なるに、眉は顰みて、眼打ち窪み、色蒼ざめて、滿面カラ〳〵と枯れ乾き、髯さへ蕭然と粗なるに、髮は塵と脂に染みて、唇黑く、齒黃く、劍難の相、近づくさへ恐ろしや』と詠みし處さへ、何等の變怪にも出會はずして航過しゝのみか、東京出發の

喜望峰を臨む處の東京料理

際、山谷の重箱、八百善兩主人より贈られたる川魚料理及び三河味噌の鯉汁とを三十餘名の諸君子と晩餐に賞味しつゝ、航過し得たるは、國運の呵護と科學の進歩との恩惠愈〻、以て身に沁み渡り、一層の感興を催ほした。

今や世界隨一の難所を無事に航過したるに際し、茲に軍艦生駒の艦長以下に感謝の意を表すると同時に、一事の以て傳へ度きことがある、卽ち艦長等上長官の精苦勤勉は云ふまでもなけれ、甲板士官（岡田少尉）の如き日本出發以來今日に至るまで未だ一回だに上陸したることなく、否假令上陸せんと欲するも寸分だに間隙なく、況んや水兵は徹夜までして石炭を積み入れ、熱帶の炎熱中に何れも眞黑となりて働きつゝあるを見て、我れ何ぞ獨り上陸するに忍びんやと云へる精神は、人知れず自から酌み取らる。又た航海士（難波中尉）はアグリアス近海にて暴風に出會ふや否に關し、予には麥酒にても賭けますかと云ひたるに、必らず出會ひます、私が勝ちましたら麥酒の代りに甘い物を頂戴しますと云ひたるなぞ、暴風に出會ふべしと常々より覺悟し居れる用心こそ窺ふに足るべく、青年の士官に至るまで如上の嗜ミと覺悟あればこそ、世界隨一の難所も此の如く最と容易に航過し得たる哉と、國運の呵護、科學の進歩の外に、此の一事も何卒世に傳へたきものと思ふが故に此處に記し置く（明治四十四年四月）。



喜望峯の机山

白き机掛ケのかゝりたる机山
白き机掛ケとは海上よりの霧を云ふ

秋の喜望峯

月の喜望峯

南亞弗利加の土産物

一三　阿弗利加大陸の南端。

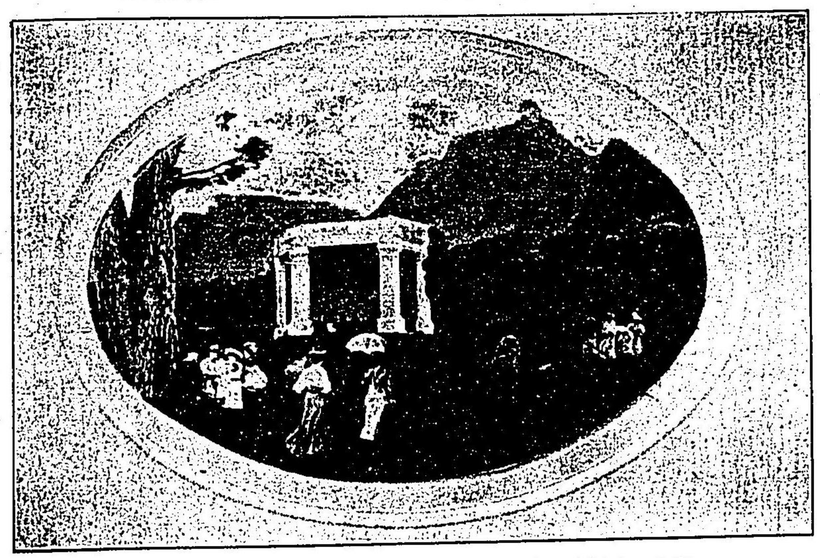
阿弗利加洲の南端、『喜び望む峯とは』と、幼童の頃、福澤先生の世界國盡しを闇誦せし以來、此年まで夢寐せし喜望峯に達し得、取りも敢へず上陸したるに、街上にてヅールー亡國の少女が黄菊白菊など賣るを見、成程南半球にては秋の半なるよと今更の如く感悟した。尚ほ又た秋の半とて、東風將た北東風は水蒸氣を吹き拂ひ、天色絹もて拭ふ如く、折柄鏡の如き月は机山と獅子ケ頭(山)との間に現はれ、清光萬里、南極洋まで澄み渡る處など、流石にチャーチル卿が『風光の美、季節の好、世界に於て完全に近し』と呼びたる抔思ひ佗び、壓レ山南極大洋開。開處居然屹二鎮臺一。如レ許大觀無二寰宇一。況還秋半月中來

と放吟した。然らばとて秋半故郷の鱸魚を思はざるにもあらざれば、アグリアス海名産の比目魚料理に評判を得たるシルヴァー・グリル店に入り晩餐を命じ、餐後、街上にて南阿弗利加の土産物、即ちカラハリ沙漠の羚羊皮、オレンジ河虎睛石の細工物、カッフィル土人製鐵樹の杖、鴕鳥卵の菓子皿、ザンベジ河藤豆の根著ケ抔購ひ、又た日本にては珍らしかるべしと世界的英雄セシル・ローズ(南阿に英人の大帝國を創立せし一書生)故宅の書端書、クルーゲル(トランスヴァール大統領)の肖像を鑄たるトランスヴァール亡國の銅貨三枚をも購つた。

南亞弗利加聯邦の出現

南阿に於る人種的競爭

南阿の世界的英雄セシル・ローズ策源地



一書生より起りて南阿弗利加に大帝國を恢弘せし英雄ローズが毎日午後喫茶せし處にして、毎日其喫茶中に其雄圖を考案せしこれなれば、此一建築物こそ世界的帝國の南阿に出現せし策源地なり

偖又た白人に長年月の間抵抗せしヅールー人も亡び、和蘭人の兩共和國（トランスヴァール、オレンジ）も亡び、南阿に英人の大帝國を創立せんとしヽセシル・ローズの雄圖も現實にせられ、南阿大總督グラッドストーン卿（英國大宰相故グラッドストーン令嗣）も五月十七日には着任すべく、十月頃には南阿聯邦議會初めて開會すべく、昨今の政治問題は、右聯邦議會に於ける人種的競爭に集中して居る。此は喜望峯地方は固より英國領なれども、和蘭人種も殊の外に多數にして、何れも自己人種の消長に腐心し居り、現に喜望峯植民地の現内閣は蘭人黨より組織せられ、四月二十三日、ケープ・タウン近郊コンスタンシア、即ち世界の酒價表にあるコンスタンシア葡萄酒の產地に於て喜望峯政府より軍艦生駒乘組將校及び便乘者を午餐會に招待になり、内閣大臣主人として列席の上、農務大臣マラン氏主人側を代表し挨拶せられたるが、同氏は蘭人種に係り、尙ほ席上に於て下院議員ボール氏も蘭人種とて蘭語にて演說したれば、予には此のボール氏に向ひ、日本近世の文明は和蘭人に負ふ所多しと述べ、當面の物品を指し、ソップ（肉汁、蘭語 Sop）、コップ（盃 Kop）、ターフェル（食卓 Tafel）、カーヘル（煖爐 Kaghel）、フラフ（旗 Vlag）、コック（料理人 Kok）も日本にては何れも蘭語を用ひ居れりと語りたるに、ボール氏は予の手を握りて打ち喜びたりき。折柄傍の英人等は、ナニ日本の文明は和蘭人に負ふ所多しとなと呼びたるより、然り英人も亦た我々日本人の如く和蘭人に負ふ所多し、和蘭のデ・ルイテル將軍が和蘭海軍を率ゐテームス河を溯り、英國々都倫敦（ロンドン）附近まで攻め入り燒打ちにしたればこそ、英人は初めて夢の覺めたる如く驚醒せられ、玆に大に海軍を擴張し、遂に世界第一の海軍國となり、世界第一の植民國となりたる次第なれば、和蘭人こそ英人の大を成さしめたる者にあらずやと答へたるに、英人等も實にも然りと呼び、其内なるケープ・タウン市役所助役フィンチ氏は、君は歷史上の趣味ある人かなとて、此邊（このあたり）の槲樹（かしのき）は其昔佛國新敎徒ユグノー派の人々が信仰の

喜望峯に於るユグノー徒

自由を得んとて當地方に移住せし際、歐洲より移植せしものなりと說明されたれば、一小株を拔き取りて日本に土產にした。此の佛國ユグノー派の後裔は蘭人種には固より及ばざれ、此の地方に於ては社交上に勢力を有し居り、倫敦より渡來の芝居役者などもユグノー徒將た新敎徒の氣に入る劇題を演じ、二十三日夜、予も『ナヴァール王ヘンリー』の四幕を見物した。

喜望峯に於る日本古美術品

前陳の英人フィンチ氏邸に午餐に赴きたるに、古伊萬里、古薩摩燒の陶品を幾十となく蒐集し居たるには流石に驚いた。其の出處を問へば、三百年來和蘭船の日本（平戸、長崎共に伊萬里、有田に近し）に渡航せしものは必らず喜望峯に立ち寄らざるべからず、喜望峯は當時蘭領のことなりとて、此等珍奇なる日本陶器は何れも此の地方にて獲らるべき所因を說明せられた、否日本陶器のみならず、官立博物館には日本の古漆器、美術品も陳列されて居る。

喜望峯に於る日本人

日本美術品にて思ひ出せば、ケープ・タウンに日本美術品、雜貨の一賣店がある、ミカド商會とて十一年前より茨城縣土浦在の人古谷氏夫妻が從事し居り、神戸、横濱よりコロンボを經て貨物を輸入し、二個の店を開き、隨分の信用を博し居るは、西洋人が自分の妻を指し「古谷の店には欲いもの許りあるとて度々同店に行くには私も困り入ります」と笑ひて打ち語りたるにて反測せらる。兎も角も阿弗利加洲の南端に來著するや、此の如き日本人の成功者あるを知り、人意を强うせし儘此事をも日本に傳ふるのである（明治四十三年四月）。

英國オクスフォード大學の一病書生

一四　南阿弗利加聯邦。

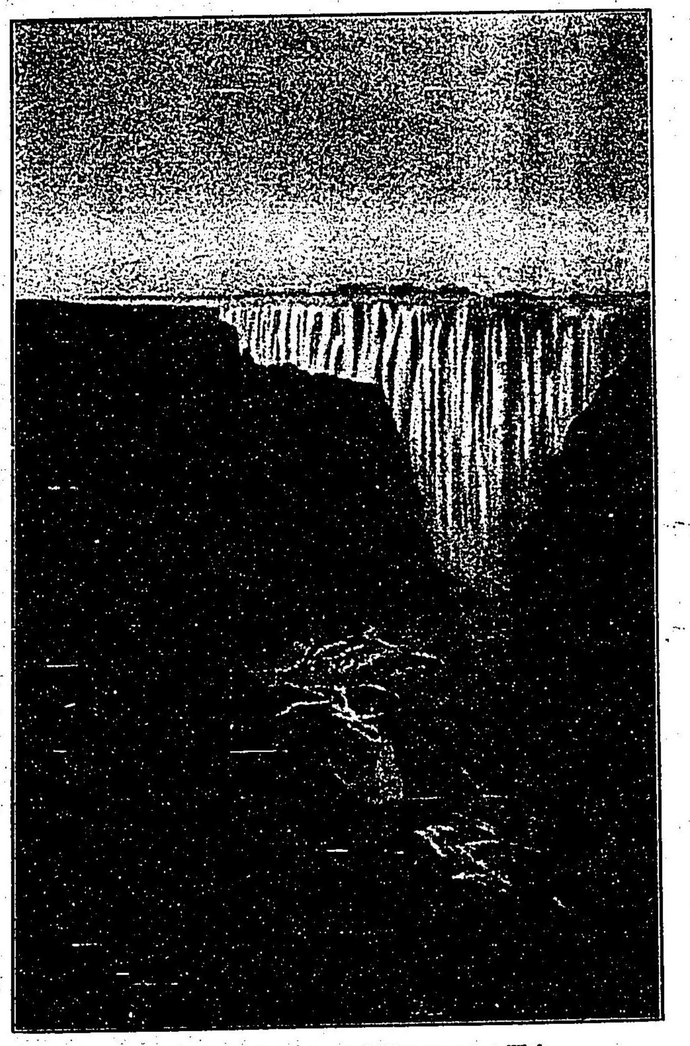
明治四十三年五月三十一日、英領南阿弗利加の四國、卽ち喜望峰植民地、ナタル、元オレンジ共和國、元トランスヴァール共和國は玆に連合して、新に『南阿弗利加聯邦』(Union of South Africa)なるものを成立し、『南阿弗利加聯邦政府』をプレトリア（トランスヴァール首府）に置き、又た十一月には初めて同聯邦議會をケープ・タウン（喜望峰植民地首府）に開く豫定である。是に於てか濠太利聯邦（オーストラリア）、加奈太聯邦（カナダ）と相並び、大英帝國內に三大聯邦が鼎立せらるゝので、要するに世界的出來事の一である。偖て此の世界的出來事の最中に喜望峰方面を旅行し、少しく見聞したる所あれば、他日の備忘の爲めに南阿聯邦の事を書き綴り置かんとす。

一　セシル・ローズの雄圖。

セシル・ローズは英國オクスフォード大學の一學生であつた、在學中肺病を患へ、英國に在つては餘命覺束なしと醫師に告げられたるにぞ、十九歲の時、養生を兼ねて喜望峰に移住した。此の青年は二十二歲の時、阿弗利加の南端より北端まで全大陸を縱貫する大英吉利帝國を創立することを考へ起した。此の理想を現實にするには、先づ若干の資力を得ざるべか

らずと、金、金剛石等の採掘を經營し、莫大の富を博した。軈て彼は其の理想を成就すべき第一手段として、南極洋より地中海（歐羅巴洲の對岸）に至るまで阿弗利加大陸を縱貫する鐵

ヴィクトリア瀑布（ローデシア州ザンベジ河中流）



米國ナイアガラ瀑布と一二を世界に爭ふもの

ローデシアの開創

道工事を開始し、又たローデシア（ローズの國）と呼ぶ四十四萬方哩卽ち日本に二倍する大國をも開創した。かくて身體も漸く勝るゝ樣なりければ、オクスフォード大學に論文を提出し、卒業免狀を得た。ローズは又た其の無二の友人ジェームスン博士と結托し、トランスヴァールに亂共和國在留の英人を塗炭の苦より救はんものと、博士は同志を語ひてトランスヴァールに亂入し、謀中途に破れて同國政府に囚へられた。かくてトランスヴァールと英國との間に葢り居たる惡感情は『ジェームスン亂入』に依りて愈〻加はり、其後こちれ〳〵て遂に英杜戰爭となり、トランスヴァール敗れて、其の同盟國たるオレンヂ共和國と共に滅び、兩共和國共に英吉利領となり了りぬ。ローズの事業は是に至て少しく報ひたりとは云へ、未だ其志の十の一だに果すに至らずと、喜望峰植民地の首相となり又た大富豪となりたるも、遂に妻だに迎へず、明治三十五年三月二十六日、四十八歲を一期として死せんとするや、曰く「僅か許りしか出來なかつた、未だ爲る事は澤山あるのに」と、卽ち喜望峰の北一千四百哩、『觀世界山』（World's View）と呼びて所謂世界の大觀を盡くすてふ山の絕頂、峩々たる花崗石の巖の下に其の未死の英魂をば埋めた。

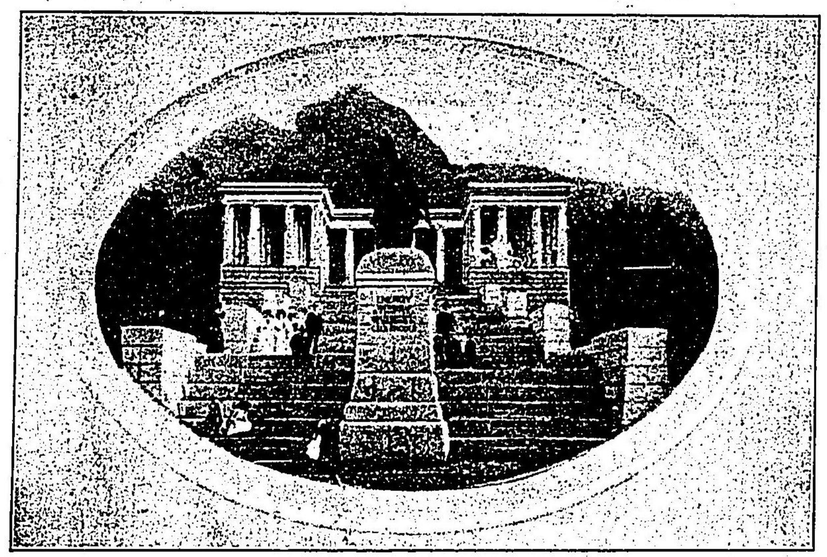
葢世英雄の臨終

ローズの故宅

彼は古今の珍器と阿弗利加全大陸の猛獸とを蒐集した、然れば邸內は宛かも一個の博物館、動物園をなせるが、彼は我が邸門は閉づべからず、鍵なるものは無用の物なりと云ひ做し居

ローヅ奬學金

鬼ヶ峰(Devil's Peak)に於けるローヅの紀念碑



駿駒に鞭ちて嶮峨を超ゆる狀に『勢力』なる文字を大筆刻出せり

たれば、死後に至るも決して門を閉ぢず、今日となりては其の廣大なる地所は喜望峰士民の公園となり、又た世界旅客の必らず來訪すべき呼ビ物となつて居る。彼は終身一書生を以て居りければ、又た書生を愛し、書生を育て、『ローヅ奬學金』なるものをオクスフォード大學に寄附し、右奬學金を以てオクスフォード大學を卒業せし者は、英國及び其の植民地出身者の外に、米人八十三名、獨逸人二十三名、現時在學者一百七十九名ある。然ればローヅは其の大志を生前に果す能はざりしとは云へ、志を繼ぐべき者は今より後陸續と輩出すべく、否其志は今日にても

『ジェームスン亂入』

英杜戰爭

ローヅの繼紹者

二　奇傑ジェームスン博士(トランスヴァール亂入者)。

に依りて代表せられて居る。ジェームスンは蘇格蘭(スコットランド)の一醫師なるが、其の膽略と俠氣とは流石にローヅに見込まれ、ローヅは博士を推薦してローデシアの理事官となした。ジェームスンは時のトランスヴァール共和國政府が在留の英人を壓迫するを見、慨然として起ち、志士五百三十名を語ひトランスヴァールに亂入した、事中途に敗れ、而かもジェームスンは身はローデシアの理事官にして暴動の巨魁となりしは何事ぞやとて、トランスヴァール政府は痛く英國政府を責め、雙方の惡感情は嵩(こう)じて、漸く英杜戰爭となり、遂にトランスヴァール、オレンジ兩共和國の亡ぶるに至りたるは前に述べたる如くである。偖ジェームスン博士はトランスヴァール政府に囚はれ、後、本國英吉利にて十ヶ月の禁錮に處せられ、滿期の後、放免せられたるが、喜望峰植民地の英人は何れも博士の義氣に感激し、兼てローデシアに於ける治績の見るべきものありたれば、輿望は漸く其身に集り、ローヅの死後、之れに代りてローヅの輿黨卽ち『進步黨』の首領に推され、且つは世界の金剛石產地キンバリー地方（喜望峰植民地）より代議士に選出せられ(明治三十三年)、三十七年には喜望峰植民地政府の首相となつた。偖喜望峰植民地、ナタル、元トランスヴァール共和國、元オレンジ共和國は茲に大連合して、『南阿弗利加聯邦』を作り、南阿弗利加に於ける英人の大帝國は現出し來り、ロー

ツが宿昔の志望も其の死後に至りて半ば成就せしかば、其の繼紹者たるジェームスン博士たる者、大に力を伸ぶべき秋に達せんとして、而かも未だ十分に志業を果す能はず、最近の總選擧の結果たる、進歩黨卽ちジェームスンの與黨は反對黨の爲めに敗られ、其の內閣の亡びたるは全く

三　英國人種と和蘭人種との競爭。

南阿弗利加聯邦の白人種別

に因るのである。今試みに『南阿弗利加聯邦』に於ける人種を點檢せよ、

喜望峰植民地　英人　三五〇、〇〇〇　蘭人　三五〇、〇〇〇　七〇〇、〇〇〇

ナタル　大概英人　一〇〇、〇〇〇

トランスヴァール　英人　一〇〇、〇〇〇　蘭人　二〇〇、〇〇〇　三〇〇、〇〇〇

オレンジ　英人　五〇、〇〇〇　蘭人　一五〇、〇〇〇　二〇〇、〇〇〇

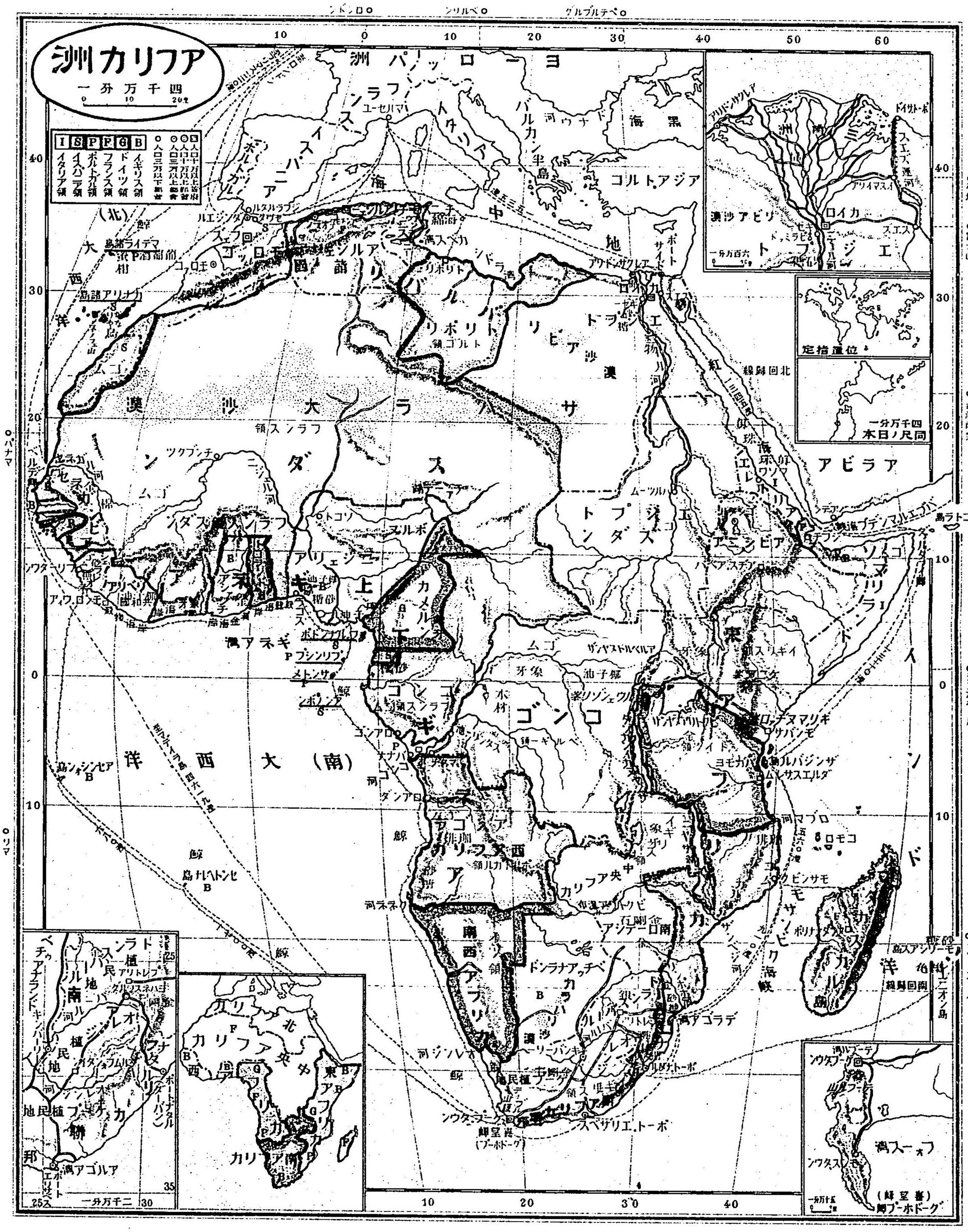
英人　六〇〇、〇〇〇

蘭人　七〇〇、〇〇〇

一、三〇〇、〇〇〇

南阿に於る和蘭人の勢力

以上の如く『南阿弗利加聯邦』は英領なれども、和蘭人種多數なるのみならず、英人は概ね商業に從事すれば都會に集中し、蘭人は多く農業牧畜に從事すれば地方に散布し居り、隨て議員選擧の際に於ける蘭人の勢力は中〳〵に大なるものがある。トランスヴァール、オレンジ兩地方に於ける內閣の常に蘭人黨を以て組織せらるゝは當然なれども、而かも喜望峰植民


カリフア洲
一分万千四
ヨーロッパ洲
ユーセルマ
ルエンダ
ルタルラブン
ツクブンチ
ムーツルー
アビラア
アビシニア
ソコトラ
ムーア
ゴンゴ
ゴンゴ
カリフア西
カリフア央
カリフア南
カリフア北
カリフア東
カリフア南
カリフア洲
ケープタウン
スペサリエ.トーボ
ドンラナアッチベ
ムーア
ムーア
ムーア

地に於ても現内閣は蘭人黨より成り、メリマン氏は愛蘭人(アイルランド)なれば先づ可なりとて首相に推されし、他の閣員六名中四名までは蘭人にして、此内三名は英語を解せざる人である。

	蘭人黨(現政府黨)	英人黨	無所屬	總計
喜望峰上院	一五	五	一	二一
喜望峰下院	六九	三三	五	一〇七

喜望峰にユグノー徒

喜望峰植民地には又た佛蘭西新教徒ユグノー派の後裔もある。ユグノー徒は今より二百三十年前、佛王ルイ十四世の時、本國にて壓迫を被り、信仰の自由を新方土に得んとて喜望峰地方に移住せし者である。當時喜望峰所在の和蘭官吏は此徒を好遇し、土地農具などを附與した、此徒の後裔は和蘭人に比ぶれば固より勢力はない、然し敢て輕視すべきものにあらず、現に喜望峰植民地裁判總長官として官歴德望兩ながら備はり、其の名聲遙かに現首相の上に出づるヴィリアース氏はユグノー徒の後裔にして、南阿弗利加聯邦組織會議の際、各黨派、各團體は此人を代表者として、聯邦組織を希望する式辭を述べしめたのである。此のヴィリアース氏は司法官なれば政黨に與みせざれ、其の同姓も又た他のユグノー徒の後裔も、何れも蘭人黨に加擔して居る。此の如き内情なれば、喜望峰政府内閣大臣及び下院議員が我が軍艦生駒乘組將校及び便乘者を招待せし席上に於て、下院議員ボール氏が「我々は英國々旗の下

南阿に於る和蘭人の勢力

にはあれども、英人種にあらざることを認め置かれたし」と蘭語にて堂々と演說せし如く、「英人種にあらざる者」の勢力は、此の地方に於て實にも侮るべからず、隨て法律は和蘭の羅馬法を執行し、議會及び法廷にては英蘭兩語の使用をば公許するのみか、オレンジにては新に教育令を發布せるが、其の精神は學校に於ける兒童の英語習得を制限するにありと傳へられ、又た英語の盛行する方面には、私立學校を起して頻りに蘭語を奬勵し、英國及び蘇格蘭出身の視學官を免職し、又たトランスヴァールにては英語を以て小學校に教授せし課程は、兒童の既に理解したるものと雖も、尙ほ且つ必らず蘭語にて再び教授することなるが、近年此事の漸く廢れ來りしとて、同政府は今年に入り改めて蘭語教授の勵行を諭告したるなど、以て南阿弗利加に於ける此間の消息を悟るに足るべく、又た南阿弗利加聯邦政府の所在地をトランスヴァール首府プレトリアと定め、聯邦控訴院所在地を首としてオレンジ首府ブルムフォンタインと定め、又た來る十一月中、英國皇太子殿下親しく臨場して聯邦議會を開會あらせらるゝ筈なるが、其際の祝儀に練り行く花山車には、和蘭總督ファン・リエベークが二百六十年前移民を搭載し來り初めて喜望峰を開きたる狀を寫さんとするなど、蘭人の勢力と英人の苦心とは併せ見るに足るべきものがある。以上英人と蘭人との競爭も然ることながら、茲に又た別に

南阿に於る有色人種

四　有色人種との競爭。

もある。有色人種とは、亞細亞人（支那人、印度人、馬來人）の他、阿弗利加黑人種にして、其數とても中〳〵に少からず、卽ち

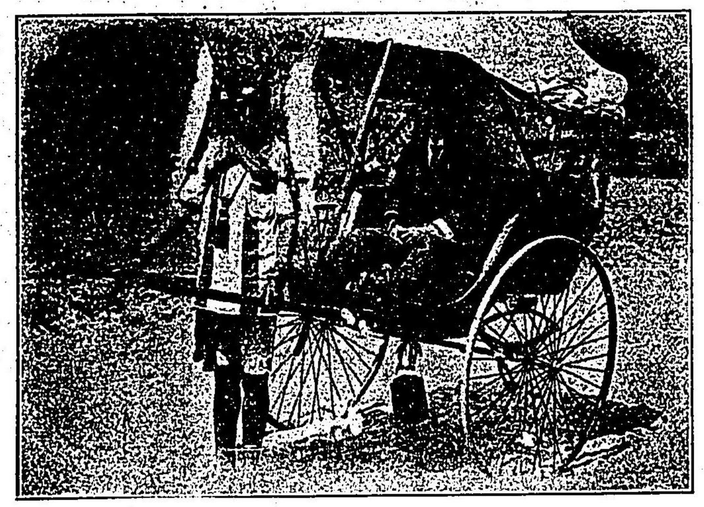
	喜望峰	ナタル	トランスヴァール	オレンジ	總計
白人	七〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
有色人種	二、〇〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	四、七〇〇、〇〇〇
人口（合計）	二、七〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇
議員數	五二	一七	三六	一七	一二

此の如く所謂有色人種は白人に數倍し居り、各地方人口の成素たるに係はらず、今回の聯邦議會は『歐羅巴人の子孫』のみに選擧權を附與して吾々に附與せざるとは何事ぞやと、馬來人、印度人等の團體を組織して選擧權獲得を主張し、喜望峰植民地に於ては人種の何たるを問はず一般に選擧權を附與しあるに、新に成立する南阿弗利加聯邦は選擧權を『歐羅巴人の子孫』に限りたるは偏頗の處置なり、否既得權を蹂躪するものなりと喊き出し、特に馬來人は二百數十年前和蘭人が其の所領瓜哇より傭ひ來りし者の後裔なることゝて、人數も頗る多

く、相當の財産を所有する者も少からず、ケープ・タウン市會には其の議員を選出し居れば、彼等の主張も全く馬耳東風視すべからず、殊に有色人種は、在來個々に分離せしものるなるに、白人の所業を偏頗なりしと憤怒せし餘り、今回に至り始めて合同し來り、果てはケープ・タウンに一家族しか無き日本人にまで此件を交渉し來り、件の日本人は固より此等運動に贊成せざりしとは云へ、其の熱度の程も亦た測量し得らるゝのである。有色人種が斯る運動に餘念なき間に、一方の白人は又た英人のジュームスン博士がメリマン氏（喜望峰植民地現首相、即ち喜望峰蘭人黨の首領、南阿弗利加聯邦首相の候補者）を倒さんとするあり、トランスヴァール現首相ボタ將軍（此後南阿弗利加聯邦の首相となりし人）の「聯邦内閣は良材内

南阿聯邦の將來は未決問題

カッフィル土蕃の人力車夫



英人が全く土蕃を征服せし實況を知るべし

閣たらざるべからず」と唱へて、各派各黨に心ある如くに仄かすあり、此間にありてナタルの孤立を告白するあり、オレンジの形勢を觀望するあり。要するに南阿弗利加聯邦なるものは其の成立の曉、如何樣の形勢となるべきや、疑問と云ふべし。

日本物品の市場として南阿地方の好望

五　南阿地方と日本。

南阿弗利加は日本人が貿易を拓開するに恰好の地方なりと信ず、何となれば、

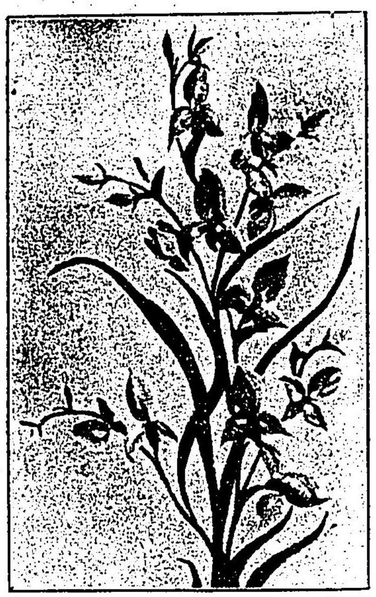
一　新なる地方なる事。

二　何等の工業なき事。

三　購買力の旺盛なる事。

即ち第一に南阿弗利加地方は今日より開發さるべく、未だ多く人の手を着けざる部分なれば、隨て日本品も新に市場を發見すべき希望がある。第二に南阿弗利加は純然たる鑛産國で、農業牧畜國で、金、金剛石の産出は世界隨一と稱へられ、穀物、羊毛、畜産物、鴕鳥の羽も亦た世界に鳴り渡つて居る。此の如く天然物の産出こそ最と大なれ、然ればとて製造工業品には何等見るべきものなく、否無いと云ふて善い、然れば日本の雜貨なども需用あるべしと信ず。此れとても購買力が少ければ如何とも致し方なけれ、其の旺盛なるは左表に依りても明かである。

	面積（方里）	人口	歲入（圓）	歲出（圓）	輸出（圓）	輸入（圓）	一方里人口	一人歲入（圓）	一人歲出（圓）	一人輸出（圓）	一人輸入（圓）
喜望峰植民地	四六、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇	八〇	八五	四七〇	一七〇	六〇	三〇	三二	一八〇	六五
ナタル	六、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	三五	三八	三五	八	二〇〇	二七	三〇	二七	六〇
トランスヴァール	二〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	四六	五〇	三三〇	一七〇	七五	三〇	三三	二二〇	一二〇
オレンジ	八、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	八	八	四〇	四〇	六〇	一六	一六	八〇	八〇
日本（朝鮮除ク）	二九、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	六〇〇	六〇〇	四五〇	五〇〇	一、七〇〇	一三	一三	九	一〇



喜望峰の野花

世界最大の濤
無殘なる濤
英皇崩御の無線電信
貿易風の月夜
榎本子の當年

一五　南大西洋の濤。

蹠點（東京に於ける君の脚底と予の脚底と相對する點、卽ち地球上に於て日本と正反對面の處）に於て。

濤、うねり、長サ五百呎（一町半）の一うねり、卽ち軍艦生駒の全體を其内に入れて尙ほ且つ餘ある一個の濤とは、何やらの教科書中に喜望峰近海の濤は世界最大のものなりと記しありしことを今更の如く想ひ起した。世界最大丈ケにて濟めば其迄なれども、去る六日、此の大濤は艦首に衝擊し、折柄作業中なる三等兵曹水口勘吉を唯一押に押し流し、更に水兵七名を負傷さしめ、副長秋澤中佐（芳馬）をも危く流さんとし、無殘なる哉兵曹には屍體すら判らず、負傷兵の内二名は重傷にて、今當分の間生死の程も定かならず。更に又た同樣の濤は、折柄本艦と二百五十浬隔つる英國軍艦ハームスより英國皇帝エドワード第七世陛下崩御の悲報を傳へ來り、重ね〳〵の無情を心に泌み渡らせた。然し濤も此くまで無情なるものよと思ひ居けるに、時には又た南東より風そよ〳〵と吹き來り、四六時中同一の方向、同一の速力なれば、近波遠波は一棟の縮緬の如く、空には眞綿よりも白き雲のフワリ〳〵と浮び去り、其間より月光の何時に無く冴る來るなど、正しく貿易風の現象にして、文久の初、故榎本子

喜望峰に於る日本古美術品

（釜次郎、後武揚）が喜望峰を廻航し、『帆影參差月似弓、大洲東去有無中、船頭一夕咲相祝、又駕南球貿易風』と咲て相祝したる當時の實境をば今目前に相見る心地もしつ、一番の有情を感ずる日もある。

故榎本子が赤松男（則良（ノリヨシ）、海軍中將）と共に喜望峰を廻航せしは、當時蘇士（スエズ）運河の未開鑿に因りしものにて、蘇士未開鑿時代には、東西兩洋交通の船舶は必らず喜望峰を廻航し、ケープ・タウンに立ち寄りたる次第にて、是れぞケープ・タウンの博物館、セシル・ローズの故宅を初めとし、喜望峰方面に日本古美術品の意外に多數なる所因である。元來本邦と和蘭とは三百年間連續に交通し來りたれば、和蘭には日本に關する古物品多かるべしと、故林忠正氏には同國にて日本品を蒐集し、渡邊修二郎氏にも亦た同國ライデンに赴き日本に關する珍書畫を蒐集せられたる抔、如何にも奇拔の見地なりと、預（かね）てより嘆服は致し居たるが、茲に又た喜望峰こそ日本古物品を蒐集すべき好個の處なれとは、意外千萬にして、而かも意外の事には無く、日本と喜望峰とは三百年間連續せる緣故あること今更十二分に感悟したのである。然らば喜望峰より南亞米利加に到る長日の航行中、無聊の餘り、左の年表を編製したれば、聊か咲覽にと供する、艦中參考書類も少ければ、杜撰の點は偏に批正を仰ぐ（明治四十四年五月十日）。

年表

年號		西暦	事蹟
應永	九	一四〇二	西班牙人南進してカナリア諸島を發見す（軍艦生駒豫程地）◎明、足利義滿を日本王に封ず。
康正	二	一四五六	葡萄牙人更に南進してヴェルデ諸島（生駒豫程地）を發見す。
文明	一八	一四八六	葡人更に大に南進して喜望峰に到る。
明應	六	一四九七	葡人がマ喜望峰を廻航し夫れより東進して印度に到る。
天文	一一	一五四二	葡人更に東進して豐後に來る◎德川家康生る。
同	一二	一五四三	葡人種子島に來り鐵砲を傳ふ。
同	一八	一五四九	サヴィエル鹿兒島に到着◎倭寇浙東を犯す。
天正	八	一五八〇	英吉利人初めて喜望峰に到る。
同	一〇	一五八二	大友、有馬、大村三國主の使節伊東マンショ、千々石ミケル等羅馬に向ひ長崎を出發し喜望峰を廻航す◎織田信長弑せらる。
文祿	四	一五九五	和蘭人（東印度商社）初めて喜望峰に到る◎天草に於て日本葡萄牙羅甸三國語辭書を出版す。
慶長	一四	一六〇九	蘭人平戸に商館を建つ◎島津氏琉球を伐つ。
寛永	一八	一六四一	蘭人を平戸より長崎に移す。
慶安	元	一六四八	蘭船ハールレム喜望峰に難破す、後年船中より日本の古伊萬里燒、おかめ面の磁器等を發見す。
同	四	一六五一	蘭人初めて喜望峰に移民す、爾來一百六十年間蘭領となる◎德川家綱（四代）將軍となる◎由井正雪の亂。

承應　二	一六五三	蘭人初めて葡萄を獨逸より喜望峰に移殖す。
元祿　二	一六八九	佛蘭西新教ユグノー徒喜望峰に移住す◎長崎に唐人屋敷を建つ。
享保　七	一七二二	蘭船七隻喜望峰に難破す、後年船中より日本の陶器類を發見す。
元文　二	一七三七	蘭船七隻（東印度商社所有）喜望峰に難破す、後年船中より日本の陶器類を發見す。
天明　元	一七八一	英國艦隊喜望峰を襲ふ。
寛政　七	一七九五	英國艦隊喜望峰を襲ふ◎四山應聚歿す。
文化　三	一八〇六	英軍喜望峰を占領す、爾來英領となる◎吉田成德蘭藥鏡源を譯す。
同　八	一八一一	カッフィル土人叛く（第一亂）◎はるま和譯著者海上漂蕩歿す◎佐久間象山生る。
同　一二	一八一五	喜望峰の蘭人叛く◎ナポレオン　セント・ヘレナ島に流さる◎伊能忠敬海邊測量圖成る。
文政　二	一八一九	カッフィル土人叛く（第二亂）。
天保　六	一八三五	カッフィル土人叛く（第三亂）◎喜望峰の蘭人、英國の政治に平ならず、相率ゐて北上し、
同　七	一八三六	遂にオレンジ、トランスヴァール二共和國を創立す。
同　一四	一八四三	英軍ナタルの蘭人を降し、英領となす。
安政　元	一八五四	喜望峰植民地初めて國會を開設す◎米國彼理再び來り、日米條約を締結す。
同　四	一八五七	喜望峰初めて鐵道を敷設す◎蕃書調所を置く。

文久　元	一八六一	榎本釜次郎（武揚）等和蘭に向ひ喜望峰を廻航す。
慶應　二	一八六六	榎本等和蘭より軍艦開陽丸を率ゐ來り、喜望峰近海にて氷塊に苦めらる。
同　三	一八六七	トランスヴァールに金剛石を發見す◎兵庫開港。
明治　元	一八六八	トランスヴァールに金を發見す。
同　一〇	一八七七	英國、トランスヴァールを合併す◎西鄕隆盛の亂。
同　一一	一八七八	英國、ヅールー土人と戰ふ、元佛帝ナポレオン第三世皇太子此役に戰死す。
同　一四	一八八一	トランスヴァール、英國と戰ひ復た獨立す◎帝國議會開設の詔勅下る。
同　二二	一八八九	英國、ローデシアを占領す。
同　二九	一八九六	英人ジェームスン博士、トランスヴァールに亂入す。
同　三二	一八九九	英國、トランスヴァール、オレンジ二國と戰ふ（英杜戰役）、陸軍步兵大尉平岡八郎（後少佐となり日露戰役に戰死）從軍す。
同　三三	一九〇〇	トランスヴァール、オレンジ二國戰敗して亡び、英領となる◎古谷駒平（茨城縣人）喜望峯に開店す。
同　三五	一九〇二	英杜戰役結了す◎南阿の豪傑セシル・ローズ歿す。
同　四一	一九〇八	笠戸丸、日本移民を搭載して伯剌西爾に向ひ、喜望峯を廻航す。
同　四三	一九一〇	帝國軍艦生駒、喜望峯に寄港す（四月）◎南阿弗利加聯邦成立す（五月）◎旅順丸、日本移民を搭載して伯剌西爾に向ひ、喜望峯を廻航す（六月）◎南阿弗利加聯邦第一議會開會す（十一月）。

一六　南亞米利加の第一日〔歐米列强競爭の舞臺〕。

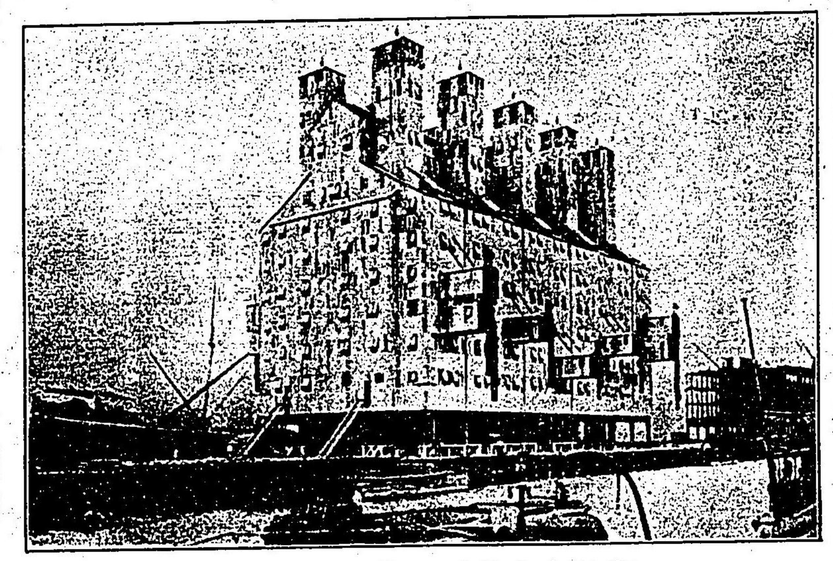
軍艦生駒は喜望峯より航程四千二百浬、二十日を經、五月十五日午前九時半、亞爾然丁國バイア・ブランカ灣（亞國軍港及び商港）に投錨した。其後未だ五時間だに經ざるに、當日午後二時、北米合衆國の艦隊五隻、舳艫相銜みて入港した。右の五隻は一隻の哨艦を除く外、三隻は生駒より大に、一隻は生駒と略ぼ同一にて、今回亞爾然丁建國一百年祭に參列すべき世界十一國（獨逸、佛蘭西、伊太利、和蘭、西班牙、葡萄牙、日本、北米合衆國、智利、ウルグアイ、亞爾然丁）の軍艦中、最大の勢力にして、雄風堂々、北米の威望を以て、南米の天を控制するかの如き觀がある。

亞爾然丁バイア・ブランカ港

亞爾然丁に於る伊太利人の勢力

十六日、上陸、鐵道停車場に行きたるに、驛長も給仕も休茶屋の主人も何れも伊太利人にして、成程亞爾然丁國の人口の四分の一は伊太利人及び其の子孫より成ることも然るべしと思ひ遣られた。伊太利官民は、其の勢力を益〻亞爾然丁に扶殖せんと鋭意し、五月二十五日の亞爾然丁建國一百年正祭日に當りても、伊太利政府植民局長フミナト氏には、羅馬駐在亞爾然丁公使ベニァー博士（次期の亞國大統領となるべき人）の名譽を彰表せん爲め、古禮に遵ひ、一噸の重量ある青銅の楯を贈呈すべき筈にて、此の式典には伊太利皇帝陛下にも特に臨

獨逸の亞爾丁國經營



穀物十七萬石を藏め得る倉庫

幸あらせらるゝ樣仰出だされたるなど、伊太利の上下擧りて亞爾然丁に腐心する實際が推察さるゝ。尙ほ又た停車場に待合中、獨逸人（サクセン）人の勞働者居りければ、一ヶ月の賃銀を尋ねたるに、「僅か百ペソ（日本貨八十六圓）にて、家族には夫妻と二人の子供あれば迚も遣り切れず」と憂ち居た、勞働者にして一ヶ月の收入八十六圓あり、而かも尙ほ且つ生計難を憂つ一事にて、亞爾然丁に於ける經濟的活力の旺盛なる一班が推察さるゝ。獨逸も亦た伊太利と同じく、亞爾然丁の經營に腐心し居り一個の獨逸會社にして亞爾然丁に一百萬町歩の土地を所有する者すらありて、獨逸移住民は例年英國移住民より多數である。然しな

英人の亞爾然丁經營

佛人の亞爾然丁經營

バイア・ブランカに於る日本人

がら英人の亞國經營も亦た其の規模頗る雄大にして、當バイア・ブランカより國都ブエノス・アイレスに到る四百哩の鐵道幹線五條あるが、是等は何れも英人の經營に係り、更に英人には今回亞爾然丁建國一百年祭を期し、アンデス山脈を超え、南亞米利加大陸を横斷し太平洋岸に出づる鐵道を竣工せしのみならず、更に又た當バイア・ブランカより太平洋岸に出づる鐵道の工事にも著手し、是れ亦た目下アンデス山東まで竣工の運ビに至つて居る。尚ほ又たバイア・ブランカは亞爾然丁第一の穀物輸出港であるが、英人には一日に約三十萬石と一時間に二萬石とを汽船に荷積ミし得べき兩個の昇降機關をば、海岸に備へ付け、別に十七萬石を藏むる一倉庫（二棟）をも建設して居る。佛蘭西人は元來貯蓄的觀念のみ強く、企業的ではない、而かも此の佛人すら亞爾然丁にては頻りに築港事業に投資して居る。

南亞米利加に上陸せし第一日に當り、歐米列國の亞國經營將た南米經營に腐心する實際を見聞し、亞爾然丁は將來否現在に於て歐米列國の經營の焦點たるに係らず、顧みて當バイア・ブランカの日本人とし云へば僅々二名（鹿兒島縣人及び熊本縣人）に過ぎず、而かも共に珈琲店の給仕人なれば、推して以て亞爾然丁に於ける日本人の狀態を推測すべしとせば、第二十世紀に於ける世界の機運に日本が後レを取らじやと、一入の寒心を催ふしたるが故に取り敢へず此感を記す（明治四十四年五月）。

一七　亞爾然丁獨立一百年祭。

日本人の亞爾然丁に關する知識は意外に乏しけれ、其實外交上より觀下するも、貿易上より觀下するも、日本は宜しく我より進んで亞爾然丁と堅く握手すべき國柄である。然れば同國建國一百年祭を好機として、少しく亞爾然丁の國情を日本社界に通知したいと思ふ。然し世界の大國の一なる亞爾然丁の事情を一々述ぶるには、記事に際限も無ければ、此等の事共は歐米近刊の書籍に依ることゝなし、此處に一百年祭の事丈ケを述べ、之れを說明する傍、同國の事情を承知せられんことを望む。

一　一百年祭順序。

五月十八日　內外軍艦悉く錨地に就く。
五月十九日　大統領の外國參列者接見。
五月廿一日　大統領の觀艦式。
五月廿四日　亞爾然丁艦隊の外國艦隊歡迎。海軍倶樂部の歡迎會。內外艦隊の總イルミネーション。大統領の公式引見。
五月廿五日　國都ブエノス・アイレス諸學校生徒（約五萬人）『五月廣場』に於て國歌を合唱

す。諸學校生徒の行列。大統領外國參列者を率ゐ大祈禱式に臨む。大統領の觀兵式。大統領主人となりコロン劇場の大觀劇。水陸の總イルミネーション。

五月廿六日以後　陸上に於ける海軍大運動會。海軍大臣大晩餐會。亞爾然丁軍艦歡迎會。亞爾然丁海兵團晩餐會。一百年祭五個博覽會の開會式（農業牧畜、工業、衛生、美術、鐵道及運輸機關）。女子學術衛生會議の開會式。『サン・マルチン廣場』に於ける獨立戰役軍隊紀念碑の除幕式。第一回國民會議紀念碑及銅像除幕式。獨立戰役名士紀念碑の除幕式。サンタ・フェ市に於ける亞爾然丁國旅紀念祭。一八一三年の國民大會、一八一六年及一八五三年の國會紀念碑の基石据付式。海軍大臣の賞品授與式。夜間のヴェニス祭。議院の歡迎會。英吉利、佛蘭西、西班牙（イスパニア）、伊太利、瑞西（スウイス）、墺地利（オーストリア）諸國移住民より亞爾然丁に献納せし各種の紀念碑除幕式及歡迎。馬匹奬勵會。國立競馬場に於ける競馬。私立倶樂部及學會の歡迎。萬國亞米利加會議。各大都市に於ける種々の催シ。內地の觀光（農場、パンパス等）。外國特派員に對する挨拶。大統領への暇乞。

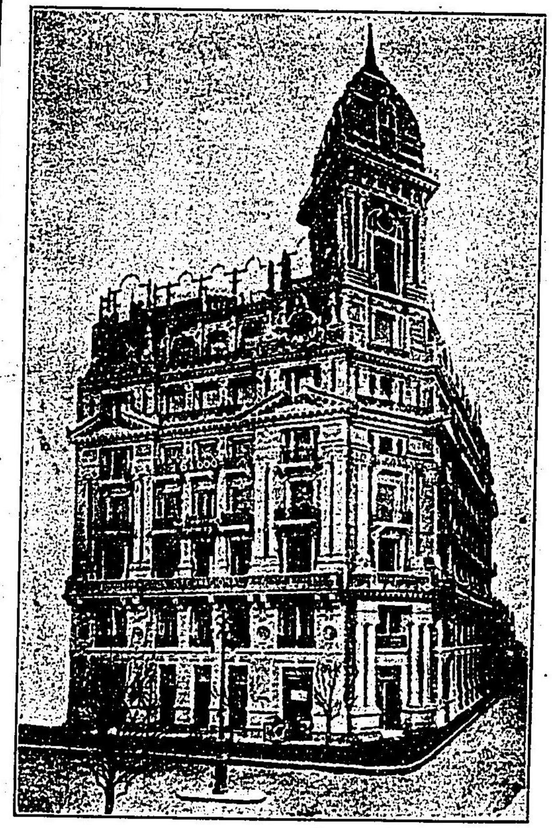
以上の如き盛儀を羅甸（ラテン）民族第二の大都會（佛蘭西巴里に亞ぐて）たるブエノス・アイレスに擧行せんとする、其の莊嚴艶麗なるは知るべきである。人口こそ巴里に亞ぐことなれ、農產牧畜の輸出劇進の結果は、ブエノス・アイレス下流の婦人は巴里中流の婦人と衣服裝飾を競

古羅馬以來の盛儀

ひ、同中流の婦人は巴里上流の婦人と衣服裝飾を競ひ、價高くして巴里婦人の使用し得べからざる物品はドシ〳〵亞爾然丁に輸送せられ、獨逸の伯林（ベルリン）にて上流婦人が夢にも着たることなき衣裝はブエノス・アレイス婦人の注文品なりと云ふに至ては、今回の一百年祭の花の如く美しきことが想像せらるゝのである。

二　ブエノス・アイレス市。

南半球第一の大都會



ブエノス・アイレス勸工場

亞爾然丁國都ブエノス・アイレス市は、南半球にありて、我國靜岡縣濱松町と緯度を同くし、而かも氣候は鹿兒島市と同くし、市街の東西六里、南北四里半、獨り南半球第一の

五月は亞爾然丁出産の吉月

大都會なるのみならず、佛國巴里より廣きこと八十萬町歩、獨逸國都伯林より廣きこと六十萬町歩、倫敦（ロンドン）、紐育（ニウヨーク）、マルセイユに亞ぎて世界に於ける廣大なる都會の一なり。人口こそ一百二十萬に過ぎざれ、內伊太利人三十萬、西班牙人十五萬、佛、英、獨逸人等二十萬、世界に於ける最も世界的なる都會なり。

三　『五月廣場』。

今を去る正一百年前、一八一〇年五月二十五日、ブエノス・アイレスに於て第一國民會議は亞爾然丁の自由を宣告したのである。故に『五月』と云へば亞爾然丁國出產の吉月日として祝はれ、又た此の國民會議の處を『五月廣場』(Plaza de Mayo)と稱へ、今回の一百年祭には五萬の學校生徒集りて國歌を合唱し、大統領は此處に亞爾然丁獨立紀念碑の基石据付式を擧行する筈にて、碑の經費一百萬圓、世界の美術家より懸賞して得たる意匠に據るものである。又た五萬の生徒が合唱すると云ふ國歌は、亞爾然丁創業の名士ヴィンセント・ロペスの作に係り、壯烈激越なるものである。

四　『サン・マルチン廣場』。

今回は又た國都の『サン・マルチン廣場』(Plaza de San Martin)にて獨立戰役軍隊紀念碑の除幕式が擧行せらる。此の廣場は亞爾然丁建國の名將サン・マルチンの名譽の爲めに名づけ

サン・マルチン將軍

サン・マルチン將軍事蹟

たるものにして、將軍は世にも珍らしき淸高なる人物である。一七七八年（安永七年）、亞爾然丁銀河（ラ・プラタ）上流の一小邑に生れ、八歳にして本國西班牙に渡航し、陸軍士官學校に入り、卒業後、士官となりける折柄、佛國大皇帝那破崙（ナポレオン）、西班牙を破り、其兄をもて西班牙の王位に即かしむるや、マルチン方（さき）に年壯、慨然として佛蘭西兵に當り、『心も精神も祖國の興復に捧げ』、佛兵をマドリードより擄（はら）ひて國都を回復せし一戰には其の働（はたらき）振天晴（ふりあつはれ）なりしと、時人の艶稱する所となる、次で中佐に昇進した。年三十四歳の時、生國亞爾然丁に歸るや、亞爾然丁の獨立軍こそ僅かに殘喘を保ち居たれ、四方の形勢を觀望するに、南米各國獨立の氣焰は西班牙軍の爲めに討滅せられ、ボリヴィア、ウルグアイ二國の義徒は亡び、非獨立の徒はヴェネズエラに蜂起し、智利（チレ）はアハヤ陷落せんとし、而かも秘魯（ペルー）には西班牙大軍の駐在するあり、所在の義徒は連年連敗の餘り、內に分裂を生じて收拾すべからざる秋に當り、天茲に一個の神仙的英雄を降し、南米千萬の生靈を塗炭の苦より救ひ出し、遂に南米各國の獨立を成就せしめたのである。此の神仙的英雄こそサン・マルチン其人なれ。將軍の一生涯を此處に說くは最と長ければ、左の數項に摘みて述ぶべく、以て非常の人格なることを知るべし。

烏合の義徒にては訓練せる大兵を破る能はずと感悟するや、義徒の訓練に三箇年を費し、其間『猛進せよ』、『疾く突擊せよ』、『準備に三年も費すは時機を失ふべし、否卑怯

なり』などの喊聲に耳だも聳けず、始終一誠を以て人心を服し、遂に悍馬の如き義徒軍を鳩の如く從順に訓練したる事。

三年間訓練せし義徒軍を率ゐて世界第二の高嶺たるアンデス山を超え、山西の智利に下り、此處に西班牙軍と戰ひて大に勝つや、南米所在の義徒は一齊に起り、南米各國獨立の動機は全く茲に成就せし事。

サン・マルチン將軍のアンデス越は古のハンニバル、那破翁のアルプ越よりも一入困難なりき、而かも世の多く傳へざるは、將軍は自己の事業を人に傳ふるを好まず、演說と云へるものは一生涯に一回しかなさゞりしに由る、其の言行宛然たる羅馬式なる事。

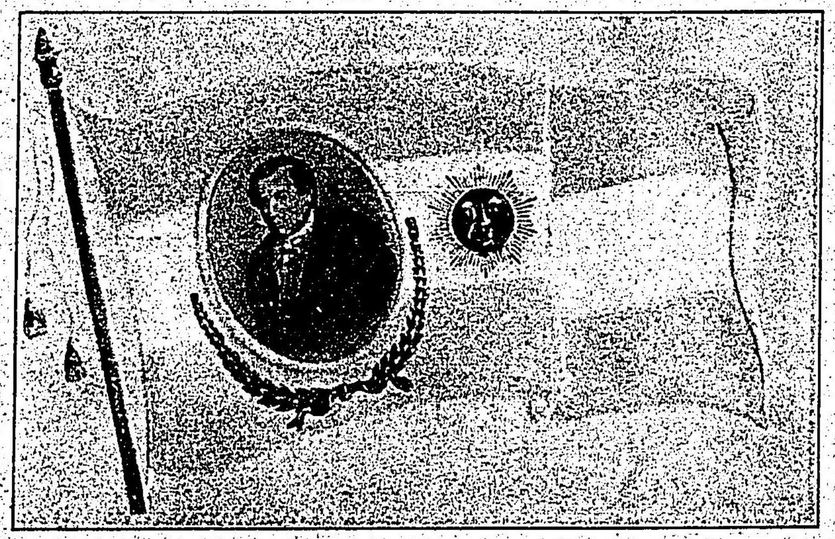
神仙の如き英雄

準備三年、戰鬪四年の後、亞爾然丁、智利、祕魯、ウルグアイ等の獨立悉く成就するや、我復た何をか求めんやと、富貴功名を棄つること弊履の如く、平生の希望の如く佛都巴里の近郊に隱れて讀書三昧に耽りたる事。

佛國に客寓するや、其の令孃は始終父翁（サン・マルチン將軍）を介抱し、父翁晩年明を失ふに至り、令孃は自から讀書して父翁に聽かしめ、會、本國より將軍に恩給金を送るや、謝絶して曰く兵亂の後、人民は定めし疲弊し居らん、此の如き金を受くるは本懷にあらずと、貧窮骨に徹して遂に佛國に客死したる事。

サンマルチン將軍
（亞爾然丁の西鄕南洲）
大馬長鎗彼一時。百年仰見颯風姿。
英雄回首神仙處。且薦日東梅數枝。
（何故に肖像に文字を狼籍と書せりや、第一一五頁參照）

モレノ



（日進先生）

五　獨立戰役の名士紀念碑除幕式。

亞爾然丁獨立戰役の名士五人の紀念碑除幕式擧行の筈ながら、五名士とは、モレノ、リヴァダヴィア、ブラウン海軍將軍、アルヴェアル陸軍將軍、ブアイルレドンにして、其の略傳左の如し。

モレノ。帝國軍艦春日の原名モレノは此人の名譽の爲めに名づけたるものなり。モレノは學術の人で、博士で、南北兩亞米利加最初の圖書館の創立者である（現今の亞爾然丁國立圖書館）。蒲柳の人にして、衣に勝へざる程なりしが、性質は猛烈勇壯、『心中に電光あり』と稱へられ、義を履みて退くを知

らず、一八一〇年五月二十五日、亞爾然丁第一國民大會の猛將としては、獨立の激文は彼が椽大の戟ペンを揮ひて起草したのである。常に曰く、一度決定せし事は永世不動なり、不動、不動、是れ吾人の主義なりと、人稱へて『不動先生』と呼ぶ。亞爾然丁獨立の使命を帶びて歐洲に行かんとするや、病を力めて船に上り、船中に死す、時人曰く、心中に貯へたる彼の*如き猛火を消すには、成程大洋の水を以てしたるなるべしと。

リヴァダヴィア

リヴァダヴィア（春日先生）

帝國軍艦日進の原名リヴァダヴィアは此人の名譽の爲めに名づけたのである。リヴァダヴィアは亞爾然丁獨立の際の名士にして、又た最初の大統領にして、國事多端の際に行政及び法律の改善を遂げ、僧侶の權力制限を斷行し、小學制度を設け、ブエノス・アイレス大學を創立し、施療病院、孤兒院、婦人病院を設置し、官道に樹木を植付け、港灣を測量し、運河を開鑿し、特に英國よりメリノ羊種を輸入して今の亞爾然丁富强の基礎を据ゑ、一言にて盡くせば、亞爾然丁事業上の創立者にして、史家が『ウォシントンに亞げる自由人民の代表者なり』と呼ぶもの過讃にあらず。

ブラウン海軍將軍

ブラウン海軍將軍。愛蘭（アイルランド）の一商船長、亞爾然丁に仕へ、獨立戰役の間其の海軍を指揮し、滿身是れ膽、常に優勢なる西班牙艦隊に當りて輙ち勝ち、特に一八一二年七月十四日の海戰を以て、西班牙の海軍を大西洋より全然驅逐したるは、此人の功績なり。其後十三年、亞爾然丁、伯剌西爾（ブラジル）と戰端を交へ、伯剌西爾軍艦の亞爾然丁國都を封鎖するや、亞爾然丁軍艦を率ゐて伯剌西爾軍艦の封鎖を根本的に打ち破り、伯剌西爾爲めに和を乞ふに至る、時人『海の鬼』と呼ぶ。

アルヴェアル陸軍將軍

アルヴェアル陸軍將軍。サン・マルチン將軍の同僚なり、獨立戰役に功績多し。功を忌まれて國外に放逐せられ、後歸國せし程もなく、亞爾然丁、伯剌西爾と交戰するや、八千の陸軍を率ゐて伯剌西爾の國境內に入り、一八二七年、イッサイニョの戰に伯剌西爾八千の陸軍を根本的に破り、伯剌西爾をして和を乞ふの已むを得ざるに至らしめたり。

アイルレドン

アイルレドン。亞爾然丁建國三統領の一人にして、創業の才幹を以て知らる。

218933

ベルグラノ亞爾然丁國旗の創始

六　亞爾然丁國旗紀念祭。

第一國民大會が亞爾然丁自由の議を決するや、當時國旗なるものなし。ベルグラノ義を擧ぐるに當り、一八一二年、青白の旗をサンタ・フエに飄へしゝより、遂に亞爾然丁の國旗と制定せられた。ベルグラノも亦た亞爾然丁建國の名士にして、亞爾然丁の獨立には、サン・マルチン將軍と此人とを以て首功とする。彼はブエノス・アイレスの名門に生れ、義軍の首領となり、ツクマンの戰に西班牙の兵を大に破り、爾來國事に馳驅すること多年、前陳五名士の先輩なれば、其の事蹟は宛かも我が高杉晋作と同一なり。

一八一三年の國民大會

七　一八一三年の國民大會、一八一六年及一八五三年の國會紀念碑の基石据付式

一八一〇年五月二十五日の第一國民大會は、亞爾然丁の自由を宣告したるより、爾後同日を以て亞爾然丁獨立祭日と制定し、今回の一百年祭も亦た此日を紀念する次第なり、但し此日は自由を宣告しゝてふのみに止まり、本國より斷然獨立すべしと宣告するまでには至らず、一八一三年一月三十日、初めて三統領の行政府を組織し、各般の事務より西班牙王フェルヂナンド第七世の名を削り、通貨より西班牙王の肖像を去り、獨立及び自由を徽章とせる新貨幣を鑄り、西班牙の法廷に訴訟する事を廢止し、獨立自由の體面を整備せるなり。然れば

一八一六年の國會

一八五三年の國會（即ち共和聯邦の組織）

一八一三年の國民大會は亞爾然丁建國の一轉進なれば、其の紀念碑の基石据付式を擧行するのである。

以上の如き事實なるも、而かも國民の意向は未だ眞成なる獨立國を創立するに至らず、或は兩人の使節を西班牙に派遣し、王族の一人を推戴して亞爾然丁に君臨せしむべしと請ひ、或はインカ古帝國の後裔を搜りて皇帝と仰ぐべしと唱へ、或は英吉利の保護國たらんとして容れられず、或は伯剌西爾より葡萄牙王族の一人を得て皇帝たらしめんとし、衆論紛々として歸着する處なかりしが、天運茲に啓けて一八一六年の國會となり、其の七月九日と云ふに純然たる獨立を布告するに至りたるより、一八一六年の國會の紀念碑基石据付式を擧行するのである。

然るに國都ブエノス・アイレスは人口も多く、富力も多く、且つ勝の地位を占め居れるより兎角に自立を欲し、動もすれば國都以外の諸州と相容れず、此の原因よりして內亂に內亂相踵ぎたりけるが、具眼の士は夙に之れを憂へ、聯邦制度を取るの時宜に適へるを知り、一八五三年五月一日の國會々議に依り、北米合衆國と同一の制度を採ることゝなり、所謂『アルヘンチーナ、コンフェデラテオン』の組織を作り、遂に百年不渝の共和國を創立せり。然れば今回の一百年祭に當り、一八五三年國會の紀念碑基石の据付式を擧行するのである。

以上の變遷に依るも、亞爾然丁が今日の强大を致したるは、容易ならざる苦心と經營慘憺との結果なることを深く感悟すべきである。

八　歐洲各國移住民より亞爾然丁に獻納せし種種の紀念碑除幕式。

世界の樂土

亞爾然丁は『國土の大部温帶に横はり、氣候佳良にして、坦々たる沃野千里に亘り、歐洲各國より資本移民共に招かずして自ら來り』、五個年の間、移住民の移出民に超過する數は左の如し。

明治三十七年	九四、四八一	同　三十八年	一三八、八五〇
同　三十九年	一九八、三九七	同　四十年	一一九、八六一
同　四十一年	一七六、〇八〇		

以上の如くして毎年十萬近くの伊太利人は移住し來り、西班牙人の移住も毎年數萬に上り、英人の勢力も亦た多大にして、ブエノス・アイレスのみにても英字新聞紙六個に上る、宜べなり英、佛、西、伊、瑞西、伊太利諸國移住民より亞爾然丁に種々の紀念碑を獻納せしことを。

亞爾然丁大富の源因

九　農牧博覽會、馬匹奬勵會、國立競馬場に於ける競馬。

亞爾然丁が今日の大富を致したるは農業牧畜の大發展に因る、小麥一箇年の收穫高三千萬石、輸出二千五百萬石、さしもの北米合衆國の小麥を英國の市場より驅逐せんずとなし居れるのみならず、牛羊に至ては、北米合衆國シカゴ邊のものより一層大規模の屠殺場に電氣裝置にて屠殺し、全世界隨一の冷藏庫は銀河畔に列び、電氣屠殺の後は直ちに冷藏汽船を以て倫敦、ハルブルグに輸送さるゝ。又た馬に至ても、歐洲に輸出するもの一ヶ年多きは四萬五千頭、少きも五千頭に上ることなれば、今回の一百年祭五個博覽會中の隨一に農牧博覽會を擧げ、又た馬匹奬勵會を開催し、將た國立競馬場に於て大競馬の催シあるも偶然にあらず。

沃野千里

一〇　内地の觀光。

パンパスは廣大無邊、眞の沃野千里、地平線上に小岡陵の點々するのみにて、世界の大河たる銀河が其間に汪々として『上帝の無量壽の如く流れ行く』狀は實にも偉觀である、況んや南半球の五月は、我が十一月の氣候なれば、正しく其の秋景は一入なるをや。

一一　亞爾然丁と日本との比較。

	面積（方里）	人口	一方里人口	輸出（一百萬圓）	輸入（一百萬圓）	一人輸出高	一人輸入高	鐵道（哩）	一人郵便物
亞爾然丁	二〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	三三	七三〇	五五〇	一一三	九〇	二七、〇〇〇	九〇
日本（朝鮮除ク）	二九、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇〇	四四〇	五〇〇	九	一〇	五、三〇〇	三〇

パンパス晩秋の莊嚴

パンパス颯

駝鳥の大群

ガウチョ人

白人移住民

トルンキスト驛

一八　南亞米利加の秋（上）。

世に莊嚴と云ふものを見んと欲せば、一年秋の高き晩、太陽がパタゴニア續キの大草原（Pampas）に沒する處を眺むるのである、一望千里、蔔の太洋は眼界を限り、篠黃色の夕照は其上より四射して、光線百道、雲の峰を下より次第〳〵に染め、雲と蔔の太洋との間に分明に黑き地平線を劃き、會〻パンパス颯を驅りて來るものは、駝鳥の大群にして、南阿弗利加種より小さけれども、頗る數多く、耕作物を荒らすとて、移住民又たはガウチョ人は往々銃を放ちて之れを驅逐する。馬に一生を托する亞爾然丁特有のガウチョ人も、人文の進運と共に漸く減少し、其の會ては大に振ひたる軍國上の勢力も今や認むべからざるに至りたれども、白人移住民の數は日に〳〵增加し、我が乘り居れる鐵道沿線を指點すれば、歐洲各國人の根據を失れ〳〵認むるのである。

先づトルンキスト驛に着く、學校も、教會も、警察署も、郵便局、電信局も何れも備はり、恭盤目の如く區劃せる小都會である、獨逸人トルンキスト氏の創立したる處にして、氏は徒手を以て此の地方を開拓し、遂に聲望は歐洲の財界を動かすに至り、亞爾然丁が公債を歐洲の市場に募集する際には常に其衝に當り、二年前、『亞爾然丁の財政家』なる名と五千萬圓の財產

デウファウル驛（佛蘭西人の根據地）

露西亞人の根據地

『亞爾然丁』大草原に於ける歐洲移住民

とを遺して死去したのである。夫れよりデウファウル驛に著く、此邊より佛蘭西人の移住民は漸く多くなる、其北なるビグーエ驛は殆んど悉く佛人である。露西亞人の根據地はデウファウルの傍の北西地方及びビグーエの北東なるコロネル・スアレス驛にある、スアレスは人口二千許の一驛なるが、其內八百は露人である。

夕、七時半、食堂列車に入つた、此の行李は獨り旅にて、本人とては一人しか無かりしも、食堂に就ける人々は口々に『バーボン〻〻』（日本〻〻）と呼び、トーゴ（西班牙語東鄕）は如何、ノートヒ（同乃木）は健康なりや、クロー

キ、オーク（同黑木、奥）も然りやなど、問ひ、予は西班牙語會話篇を參考しては一々之れに返答すれば、彼等は大に喜び、我と共に杯を共にせよと一々予の傍に來つた、其内一人が日本にも亞爾然丁あり、モレノ（軍艦日進の原名）、リヴァダイィア（軍艦春日）ありと云ひたれば、予は然り、亞爾然丁にも亦た日本あり、フォルモサ（臺灣の原名、當國北部に此名の一州あり）なりと返答し、且つ附近の物品を指し、パン（麵包、pão）、カステラ（castella）、ビードロ（硝子、vidreo）、合羽（capa）、ビロード（天鵝絨、velludo）など、日本に西班牙語少からずと云ふや、何れも『ハーポン、バンザイ〳〵』と呼んだ。然し日本人は亞爾然丁に來りて果して『日本萬歲』と連呼し得べきか、成程東鄕乃木等の名こそ亞爾然丁人は承知し居るなれ、當國に於ける日本の勢力とては如上の無形的のものゝみ、有形的の勢力に至ては寸毫だに認むべきものなく、歐米列國が亞爾然丁の經營に焦心せる最中に當り、日本國の何等爲す所なきは咄々空に書すべきものである。

ローマス驛（英吉利人の根據地）

宛然たる小說中の人となる

天はローマス驛にて明けた、鶏は有加利樹（濠洲より移植）を籠め、樹蔭の二小學校と一教會とは英吉利人の建てたるものにて、英人は確かに此邊にも根據を作つて居る。ローマス驛より二十分間程、國都ブエノス・アイレスの停車場に到着するや、折柄勞働者同盟罷工の最中なりとて、辛く一輛の馬車を搜し當てゝ平日に四倍せる賃錢を支拂ひ、かくて市街に入れば、曰く社會黨の密謀、曰く社會黨が爆裂彈を投ずべしとの消息、曰く戒嚴令、曰く臨戰情態、曰く勞働者に對する學生の示威運動、曰く學生の放火、曰く無政府黨の愛國唱歌に對する妨害、曰く無政府黨員の撲殺、曰く無政府黨首領に對し穩便料として政府より五十萬ペソ贈賄の巷說、曰く新聞記事の差止、曰く建國一百年祭、曰く建國一百年祭の國使として西班牙皇帝叔母の來着、曰く智利大統領の來着、曰く國使として北米合衆國よりウッド將軍の來着、曰く國使として獨逸よりゴルツ將軍の來着、曰く伊太利國使の來着、曰く十六燭の電燈四十萬個の總イルミネーション、曰く雨の如き三鞭酒の盃、曰く伊太利第一流の俳優の演劇、曰く花の如き美人、曰く天より降り來るが如き音樂、羅甸人種の眞面目は此處に至りて躍如たるを見、予は全く小說の境に來つたのである（明治四十三年五月）。

與ゝ郎和唱定風波。眉樣遙山秋瘦多。織女看來應ニ妬死一。蕩槳容易度ニ銀河一。

國都ブエノス・アイレスは世界の大河たるリオ・デ・ラ・プラタに沿へり、ブエノス・アイレスは西班牙語『清き氣』、リオ・デ・ラ・プラタは『銀河』の義なり、兩岸平坦　遙かに丘陵を見るのみ。

一九　南亞米利加の秋（中）。

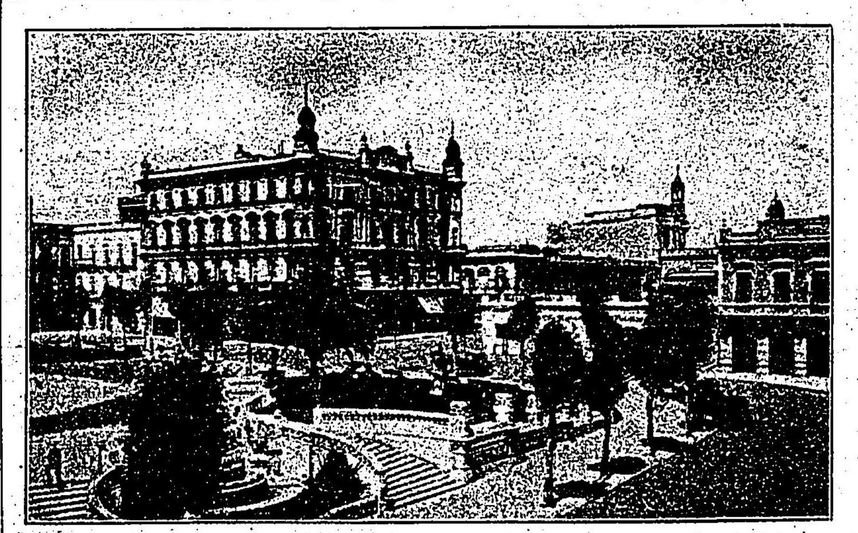
月に銀河（ラプラタ）を溯（さかのぼ）り、天明ウルグアイ國都モンテヴィデオに着けば、神戸瀧波商會の坪田、高桑兩氏は汽船（墺地利ダルマチア人の所有にして、此人は空拳もて移住し、銀河汽船商社を興し、大富豪となる）まで出迎へられた。稅關官吏は予が手荷物を調べ、日本袱紗（ふくさ）の内に齒磨楊子（はみがきやうじ）一、カラー一、西班牙語會話篇一、詩韻本一あるのみを見、これしきかと云はぬ許りの顏して上陸を許可した。地圖二種を購ひ、さて此の地方の全斑を一望に收め得べき個處に行かばやと、高桑氏の案内にて電車程四哩セルロ要塞に至つた、衞兵は誰何した、二人は相關せずと云ふ風にて内に入つた、速射砲が並置してある、砲兵少佐が起て居る、高桑氏は予に向ひ軍事探偵など、疑はれぬ樣になされよと云つた、予は歷史的地理の研究者たることを少佐に告げた、宜しい最高點の燈臺に登つても可なりと答へた、二人は登つた、守衞には、此處に登りたる最初の日本人なりと云つた。折柄秋の晴れ渡りたる空とて、銀河北岸の景象は双眸に集り、携帶せる地圖と對照したくて耐（たま）らなくなつた、然し前の高桑氏の注意もありたれば夫れ丈ケは止めた。最高點より下ると、少佐と陸軍行政會議聯隊代表者とが待つて居て、日本人は小國にして大國に勝ちたる武勇の國民なりと嘆賞した、予は此に至り西班牙語

ウルグアイ國都モンテヴィデオ

セルロ要塞

ウルグアイの秋景

南米の日本と極東のウルグアイ



ウルグアイ國都モンテヴィデオ

にて自己の意志を通ずること能はず、高桑氏の通譯もて、小國が大國に勝ちたりとは貴國の事なり、日本に在りたる際、ウルグアイの歷史を愛誦し、其の國民の勇氣と武幹とを嘆賞し居り、而して今日圖らずも其國に遊び、勇武なる其國人に接して一番の開心をば感ずる、南米の日本（ウルグアイ）と極東のウルグアイ（日本）とは眞の友人なりと答へた、彼等は、然り日露戰役の間、自分等は日本の爲めに自國の戰役の如くに考へ做（な）し、日本の勝つや自國の勝ちたる樣に思ひ居たりと呼びつゝ、紀念として六珊半（サンチ）の空（から）砲彈を呉れた。其後予は亞爾然丁に返へりたる際、少佐と聯隊代表者とに日本より携帶せし物品を贈り、爾後文通もて往復すべきことを書送した。

世界第一の物價高直の地

ウルグアイに於る日本人

午後は日本人布野氏（松江市）の店を訪れた、氏は其の妻女と一少女とにて日本流の玉コロガシを業とし、相當に流行て居る、流石に出雲出身とて神棚に新しき御幣が捧げてある、少女は今年六歳なりとて西班牙語のみ話し、予が御幣を指し、此を拜むやと問ひたるに、シー（然り）、イグレシア（西班牙寺院）にも行くと答へた。ウルバノ公園に遊んだ、直ちに銀河々口に枕し、南米の太平洋岸に知れ渡りたる海水浴場にて、此外當市附近は元來海水浴場地である、然れば物價の高直なることも亦た隣國に知れ渡れる由なるが、予は歸國の後、南米會食會にても開かばやと、ウルグアイ特産の鶉の酢漬を求めんとして、流石に四個しか購はずして止めぬ。

此夜は瀧波商會に一泊したるが、モンテヴィデオ在留の日本人とては、此店の坪田、高桑兩氏、布野氏家族三名、別に地方にある一日本人とを合せ、ウルグアイ全國に六名しか居らぬ、隨て此國は未だ日本と無條約國である。然れば翌日、國立博物館長アレチァヴァレタ博士（博物學上の著述は歐洲にも幾分か知られ居れり）を訪ひ、坪田氏の通譯もて、個人としてウルグアイと日本との産物の交換を告げ、且つ將來に當り日本より學術的標本の交換を申出でたる際は右を承諾されたき旨を請ひたるに、老博士にはソハ自分よりも希望する所なりと答へ、直ちに取り揃へて贈るべしと快諾されたるにぞ、予は亞爾然丁に返へりたる後、日本より携行せし物品を贈つた。アレチァヴァレタ博士を訪ひたる後、坪田氏の案内にて郊外に闘牛を見物した、闘牛技術者は何れも西班牙より來りたる者である。

ウルグアイ國形勢一班

ウルグアイ田舍の豐年踊り

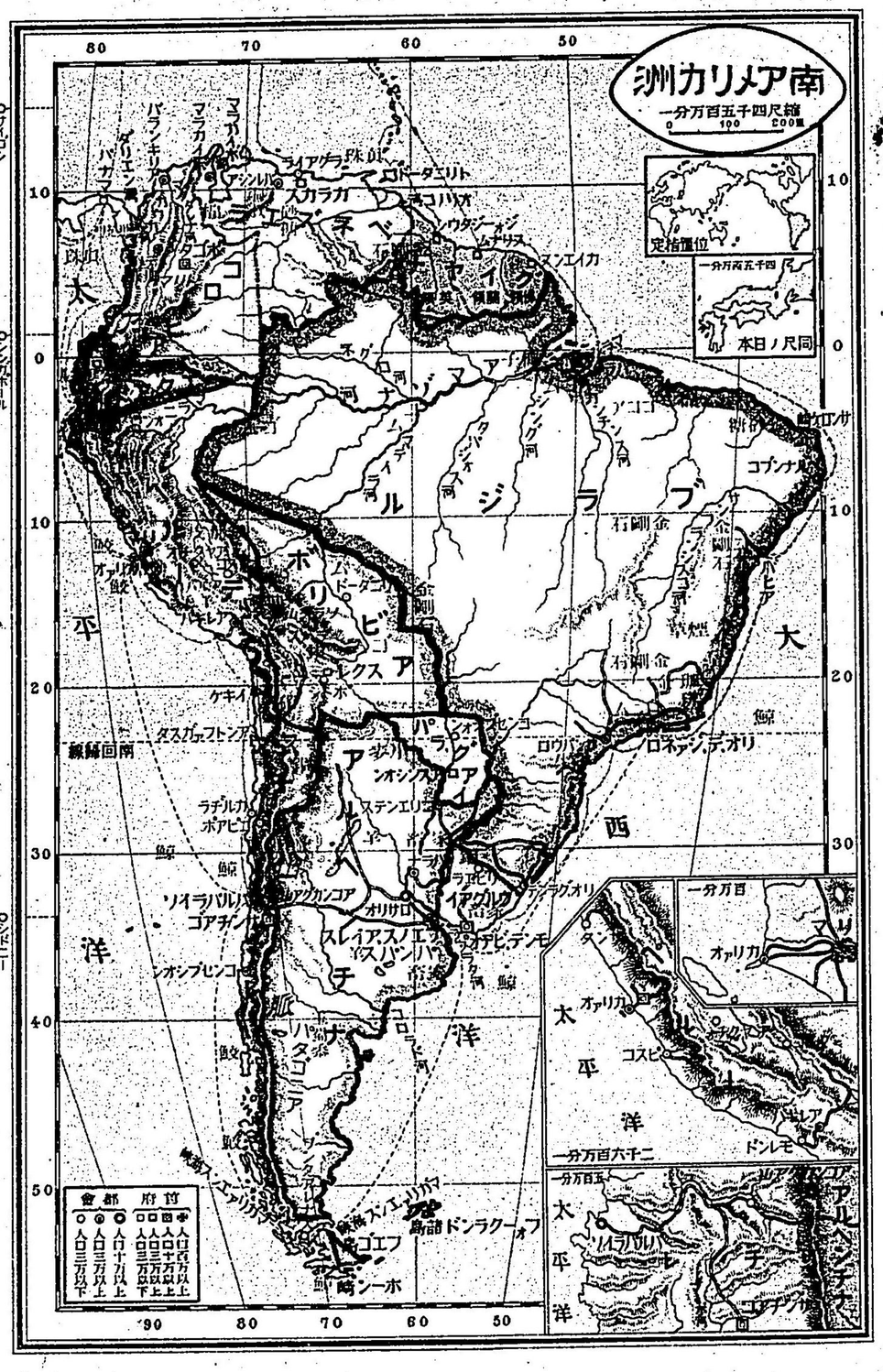
ウルグアイ國の面積は我が日本の半分に當り、人口一百二十萬、物産は牛肉、牛皮、羊毛を主とし、世界稀有の牧畜國にて、畜産の富は一億圓以上と稱へらる、即ち英吉利は之れが大なる輸入者にして、隨て英國と利害の關係親密に、英國資本のウルグアイ國内に投せられたる高四億五千萬圓に上り、英國が智利、秘魯、ヴェネズエラなどに投じたる高よりも多額である、即ち畜産を以て國富の根抵となし、此くて人口三十五萬を盛れる麗都のモンテヴィデオを築き上げたのである。

二〇　南亞米利加の秋（下）。

サン・マルチン將軍の德望

南米隨一の歷史家

亞爾然丁國都に於ける十二日間は、國運隆昌の餘蔭と古英雄の餘光とに依り、一番開心の裡に經過し、復た屋外秋氣の蕭條たるを感せなかつた。國運隆昌の餘蔭は固より言を要せざれ、亞爾然丁建國の英雄サン・マルチン將軍の肖像をば日本より携帶し行きたることが、小なる予の爲めに萬丈の光餘を添へたのである。サン・マルチン將軍が亞爾然丁獨立軍を率ゐて世界の絕險たるアンデスの大山脈を超え、智利に入りて、同國の獨立を成就せしめ、智利の獨立を成就するや、進みて秘魯に入り、又た秘魯の獨立を成就せしめ、遂に亞爾然丁、智利、秘魯三國の獨立を成就せしめ、功茲に全く了るや、名をボリヴァル將軍に讓りて自から其所に居らず、飄然佛蘭西に去り、一讀書生を以て後の生涯を畢り、生存中其の事業を人に語るを欲せざりしかば、『南米のウォシントン』とし云へば世はボリヴァル（而かもウォシントンと性行の全然反對せる野心家）に指し、古のハニバル將た近世のナポレオンがアルプ越に優過するアンデス越の英雄あるを知らずに居たるが、前の亞爾然丁大統領バルトローメ・ミートレ氏は亦た讀書生にして南米隨一の歷史家なれば、サン・マルチンの事蹟の埋沒せるを憤り、大筆淋漓、滿腔の同情を濺ぎて將軍の功業を闡發したのである、亞爾然丁人民も亦たサ

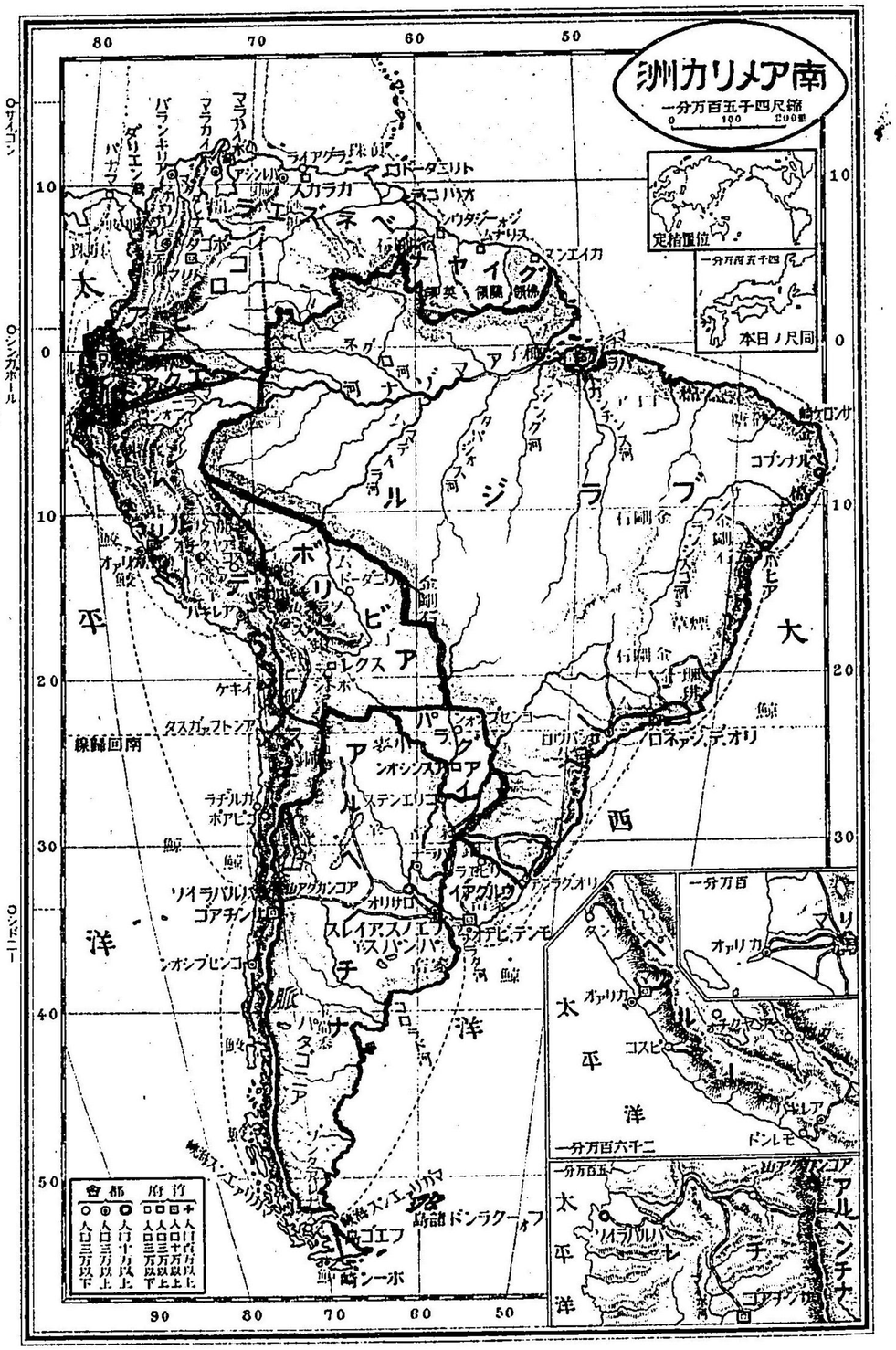


二〇　南亞米利加の秋（下）。

亞爾然丁國都に於ける十二日間は、國運隆昌の餘蔭と古英雄の餘光とに依り、一番開心の裡に經過し、復た屋外秋氣の蕭條たるを感せなかつた。國運隆昌の餘蔭は固より言を要せざれ、亞爾然丁建國の英雄サン・マルチン將軍の肖像をば日本より携帶し行きたることが、小なる予の爲めに萬丈の光餞を添へたのである。サン・マルチン將軍が亞爾然丁獨立軍を率ゐて世界の絶險たるアンデスの大山脈を超え、智利に入りて、同國の獨立を成就せしめ、智利の獨立を成就するや、進みて秘魯に入り、又た秘魯の獨立を成就せしめ、遂に亞爾然丁、智利、秘魯三國の獨立を成就せしめ、功茲に全く了るや、名をボリヴァル將軍に讓りて自から其所に居らず、飄然佛蘭西に去り、一讀書生を以て後の生涯を畢り、生存中其の事業を人に語るを欲せざりしかば、『南米のウォシントン』とし云へば世はボリヴァル（而かもウォシントンと性行の全然反對せる野心家）に指し、古のハニバル將た近世のナポレオンがアルプ越に優過するアンデス越の英雄あるを知らずに居たるが、前の亞爾然丁大統領バルトローメ・ミートレ氏は亦た讀書生にして南米隨一の歴史家なれば、サン・マルチンの事蹟の埋沒せるを憤り、大筆淋漓、滿腔の同情を濺ぎて將軍の功業を闡發したのである、亞爾然丁人民も亦たサ

サン・マルチン將軍の德望

南米隨一の歴史家


南アメリカ洲
縮尺四千五百万分一
定格位置
本日ノ尺同
一分万百五千四
一分万百六千二
一分万百
一分万百五
太平洋
大西洋
ブラジル
ボリビア
パラグアイ
ペルー
チリ
ラプラタ
パタゴニア
ブエノスアイレス
ロサリオ
ラパス
ポトシ
ラパス
ロンドン
ドンレモ
ゴエフ
ポンタ
ケキイ
ラパス
ポアビタ
ソイラバルバ
ゴアチン
ンオシプロンコ
ロンドン
ロンドン
ロンドン

ン・マルチンの事蹟の埋沒せるを憤れる折柄なりしかぼ、ミートレの著述出づるや、サン・マルチン崇拜は烈火の如く燃え來り、今回亞爾然丁建國一百年祭の擧行あるや、智利の士官學校生徒もサン・マルチンの墓に參詣する、亞爾然丁の士官學校生徒も參詣する、兩國の士官學校生徒は相提携して參詣する、兩國の軍隊も列をなして參詣する、亞爾然丁の大統領も參詣する、智利の大統領はサン・マルチン公園にて演說する、新聞紙も、雜誌も、繪端書も、石版畫も、作り人形も、皆なサン・マルチン將軍の肖像を表はす、此くサン・マルチン熱の燃え揚がれる際に、ブエノス・アイレス市第一の新聞紙プレンサが、日本人が日本よりサン・マルチンの肖像を日本流に濱裝して携行する筈なりと揭載した、『日本のサン・マルチン』、其は奇なり妙なり、早く見たしと叫び居ける間に、予は跡見花蹊女史意匠のサン・マルチン大肖像二個、三井呉服店意匠の大肖像一個、別に横濱の石井健吾氏意匠の小肖像十數個を携行してブエノス・アイレスに入つたのである、新聞記者團體は一個を寄附されたしと云ふ、某文學科教授は其の大學に寄附されたしと云ふ、花蹊女史の履歴までがエル・デイアリオ新聞に揭載さるゝ、サン・マルチンの肖像に相違なしと云ふ證明に我も〳〵と署名する、署名人中には亞爾然丁、智利の人々は固より、ウルグアイ人、もエクアドル人も見ゆる、サン・マルチンの戰友アルヴェアール將軍五代の後裔アルヴェアール夫人、アルヴェアール令嬢も署名

『日本のサン・マルチン』

南米の廣瀬中佐

する、智利のプラット海軍參謀大尉も署名する、プラット大尉の叔父プラット大佐は智利の人、智利秘魯と戰ふや、大佐軍艦エスメラルダ（我が軍艦和泉の前々身）に艦長たり、秘魯の大軍艦急擊してエスメラルダを聶沈するや、大佐右手に拳銃を握り、左手に劍を揮ひて敵艦に躍り入り、一大尉を斬り伏せ、忽ち敵軍に包圍せらるゝや、自から指を嚙み切り、海水に投じて死した、南米の人、大佐の壯烈を景仰*すること恰も本邦人が廣瀬中佐に於けるが如く、而してプラット大尉は實に其の令甥である。

アルヴェアール將軍
（亞爾然丁建國以來の名將）

新羅甸人種の來歷

大佐の壯烈を景仰*新羅甸人種には一種の意氣あり精神あり、西班牙中古時代の任俠新に復活し來りたることを認めたのである。

プラット大尉と予とを特に招きたる宴席に於て、大尉は曰ふ、智利軍艦にて日本に航行せし際、東郷大將には、自分（大尉）が、故プラット大佐の甥なることを知り、故伯父の殉國を語られ、特に自署の紀念品を贈られたりと、因て予は宴席の會長と副會長とに『日本のサン・マルチン』の小肖像を贈り、プラット大尉には西郷南洲の大肖像を贈り、南洲が東郷大將の先輩なること、及び南洲の『日本のサン・マルチン』なる事を英語にて演說するや、「ハーポン、バンザイ」（日本萬歲）の喊聲は一齊に起つた、古英雄の餘光は小なる予をして愈輝かしめた、是に至つて悟つた、羅甸人種は元來小說的なり美術的なるに、新世界に移住せし新羅甸人種は更に意氣と財力とを以てす、之に向ひて安ぽき日本品を供給せんとす、其の失敗を招くや必すべきことを、要は一言を以て盡く、曰く豪華なる物品を輸出し、之れを賣捌くまでの保持力を當初より見積り、然り而して事に著手すれば、早晩必らず大成を期すべしと。

豪華なる日本品を輸出すべし

ダーウィン先生の當地に巡られたる節の紀行文には『幸ふじて村落と名を附すべし』と相見へ候へ共、現時人口四萬五千、亞爾然丁第一の輸出港となり、小麥一個年の輸出高六百五十萬石に上り候（パイア・ブランカに於て）。

亞爾然丁に於ける列國の勢力

二　亞爾然丁に於ける列國。

近代期に於て列强は大洋洲の分割を了り、阿弗利加の分割を了り、一大陸の如き支那を分割せんとして、日露戰役の結果、日本の勝利に依りて其の氣勢を頓挫し、今や相競ひて南亞米利加を經營し、歐洲關稅同盟の時代は早く既に移りて、南米投資の時代となつた、卽ち

國名	人口	交通	事業	貿易	金融機關	國語の勢力	其他
英吉利	三五、〇〇〇、〇〇〇人。亞爾然丁の國法にては、苟くも國內に出產せし男女は、其父母の外は國籍に在る者と雖も悉く亞爾然丁人と認定せられ、虐に英吉利人、二五、〇〇〇、〇〇〇人と記せども、其子孫を合算すれば大に增加すべし。下皆之に倣ふ。	二週間一回の郵船、二會社線。二週間一回の船、二會社線。電氣路、二會社線。瓦斯。各種の貨物船、六會社線。三週間一回の乘客及貨物船、一會社線。三週間一回の乘客及貨物船、一會社線。一月一回の貨物船、一會社線。一月一回の貨物船、五會社線。其他定期及臨時の貨物船、六會社線。	亞國の重要なる鐵道は大概英人の經營に係る。鐵道材料、出版物、カンバス、羅紗、鐵、器械類。電氣事業。各種の工業。總投資本高五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓。一言にて盡くせば亞然丁の事業は伊吉利の資本と英人の勞力とを待ちて成りたるものなり。ウルグアイ國への總投資本高五〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓。	輸出、石炭、綿布、鐵道材料、出版物、カンバス、羅紗、鐵、器械類。亞國貿易總高の四分の一は英國との取引なり、然れども英人の取引は獨逸トランス・アトランチーコ銀行に屬するが如く、亞國と英國會社との航路は英國會社に拘らず、二十一日乃至二十三日間を要し、獨逸、伊太利の數多なるに比し、十二日乃至十五日の間なるにてすべて遠しとするに英國の貿易は下り坂にあり。	倫敦及ラ・プラタ銀行。拂込資本、九、〇〇〇、〇〇〇圓。積立金、一〇、〇〇〇、〇〇〇圓。倫敦及ブラジル銀行。拂込資本、七、五〇〇、〇〇〇圓。積立金、六、五〇〇、〇〇〇圓。英國南米銀行。拂込資本、五、〇〇〇、〇〇〇圓。積立金、三、五〇〇、〇〇〇圓。右三銀行は皆五十餘年前の創立に係り、信用殊に篤く、倫敦及ラ・プラタ、ラ・プラタ、ブラジル二銀行は獨逸、伊太利の勢力に比し、英國陸軍士官は獨逸皇帝の特別の敎育を受くることを許せらる。	英國語の勢力は殊に少く、每一百人中に英語を解する者一人の割合に過ぎず。獨逸語を解する者約三人の割合。國都ブエノス・アイレス市內及び其近郊に集合せる獨逸人多く、又獨逸留學の亞國士官に特別の敎育を受くることを許せらる。	國都ブエノス・アイレス市內及び其近郊に集合せる獨逸人の俱樂部、學校、遊戲場（テニス、フート・ボール等）の設備あり。
獨逸	三〇、〇〇〇人。	乘客及貨物船、四會社線。歐洲と亞國との汽船航程は十二日間にして、獨逸トランス・アトランチーコ電氣會社（資本金六、〇〇〇、〇〇〇圓）は既設の亞國關係中第十一位なり。亞國に在りては今や獨逸の機運に在り。	輸出、羅紗、電氣材料。獨逸との貿易は十年前は貿易總高の十分の一なり、獨逸トランス・アトランチーコ銀行は獨逸人の取引を奪ひ、獨逸、伊太利の順位を占め、隆々たる進歩の機運にあり。	獨逸トランス・アトランチーコ銀行。拂込資本、六、四〇〇、〇〇〇圓。積立金、一、〇〇〇、〇〇〇圓。利益配當、八分。	每百人中に獨逸語を解する者約三人の割合。國都ブエノス・アイレス市內に獨逸語の新聞雜誌八あり。	亞國陸軍士官は獨逸人多く、又獨逸留學の亞國士官に特別の敎育を受くることを許せらる。
伊太利	伊太利人子孫合計、六五、〇〇〇。一、五〇〇、〇〇〇。	乘客及貨物船四會社線。	勞働者。大農場の日傭。小農業。各種の日傭。ホテルの給仕人。職工。左官。大工。石工。瓦師。	輸出、綿布、羅紗、絹物、ロープ、橄欖油、葡萄酒、出版物類。	伊太利及ラ・プラタ銀行。拂込資本、一〇、〇〇〇、〇〇〇圓。積立金、一、〇〇〇、〇〇〇圓。新伊太利銀行。拂込資本、二、五〇〇、〇〇〇圓。積立金、五〇〇、〇〇〇圓。伊太利ポプラール銀行。拂込資本、二五〇、〇〇〇圓。積立金、二五、〇〇〇圓。	每一百人中に伊太利語を解する者約三十人の割合。國都ブエノス・アイレス市に伊太利語の新聞雜誌一四あり。	亞爾然丁は第二の伊太利なり、伊太利の音樂、師俳優は絕えず亞國と往來し、劇場に伊太利語なり。國都ブエノス・アイレス市に伊太利語の收穫季來れば亞國の農業收穫季なり、本國の收穫季來れば亞國の農業なり、歸國する者多し。
佛蘭西	一三〇、〇〇〇人。國都ブエノス・アイレス市在留、五〇、〇〇〇。	二週間一回の乘客郵船、一會社線。乘客及郵船、一會社線。乘客及貨物船、二會社線。貨物船、一會社線。	亞國の鐵道三線は佛人の營業に係る築港。市街地公園の設計。美術。商品。	輸出、葡萄酒、毛織物、絹物、美術品。	佛蘭西及ラ・プラタ銀行。拂込資本、四、〇〇〇、〇〇〇圓。積立金、九〇〇、〇〇〇圓。利益配當、六分五厘。	每一百人中に佛蘭西語を解する者約十人の割合。佛蘭西語の新聞雜誌二。	亞爾然丁は漢の華の風を亞ぶ。佛蘭西語を以て流行せり。佛蘭西語は只管佛蘭西に學ばれ、社交上には佛蘭西の勢力大なり。
西班牙	二五〇、〇〇〇。國都ブエノス・アイレス市在留、一〇〇、〇〇〇。	乘客及貨物船、三會社線。	職工。勞働者。小商賣。	輸出、葡萄酒、綿布、鹽鰮詩、橄欖油、鉛、出版物類。	西班牙及ラ・プラタ銀行。拂込資本、二、五〇〇、〇〇〇圓。積立金、二、五〇〇、〇〇〇圓。特別準備、六、五〇〇、〇〇〇圓。利益配當、一割。	亞爾然丁國は卽ち西班牙語なり。亞爾然丁國は西班牙流傳敎なり。基督敎なり。	西班牙政府は近年亞國との交を回復せんとし、貿易上治上にも此間の息に腐心し居れり。

北米合衆國	三、000	乘客及貨物船、二會社線。	凍肉事業。凍肉及小麥の買收。	100、000、000圓	無	英吉利語の部參照。
和蘭	多數ならず。	乘客及貨物船、一會社線	牧畜。農業。貿易	五、000、000圓	無	無
瑞典	多數ならず。	二週間一回の乘客及貨物船、一會社線	輸出 木材、鐵、ボルプ、紙、製酪器具	二、000、000、000圓	無	國都ブエノス・アイレスに週刊新聞一
瑞西	二、000	無	ホテル給仕人。牧畜。農業。		無	
澳地利	五、000	無	海運事業。農業。		無	國都ブエノス・アイレスに週刊新聞一
露西亞		無	內陸各處に團體的の移住地を作れり		無	無
亞剌比亞人	國都ブエノス・アイレス市在留 三、000	無	商業。爲替交換業。農業者とては無し	輸出 雜貨。 五、000、000圓	無	國都ブエノス・アイレス市に一週二回刊行の新聞一
日本	三00	無	國都ブエノス・アイレス市に二三商店あり、日本商人は既に三十餘萬圓の損失をなせり。其他は勞働者。		無	亞剌比亞人は商業上に多く成功し、失敗者殆ど無し。

合衆國政府は近年南米諸國に雄張せんとし、政治上にも貿易上にも此間の消息に腐心し居れり

ラ・プラタ河汽船持主ミハイロウイッチは氏はダルマチア州人にして亞爾然丁の岩崎彌太郎なり

三　亞爾然丁に於ける日本。

軍艦生駒陸戰隊の亞爾然丁國都ブエノス・アイレスに入り、五月二十五日建國一百年祭に當り、部伍整肅、國都の大街衢を進行するや、街を夾める士女は喝采と歡呼とを以て迎へ、『對馬海峽海戰の勇士』の寫眞は新聞紙上に掲げられ、同二十九日亞爾然丁海軍大臣の主催に係る歐米日九國水兵の端艇競漕に日本第一、亞爾然丁第二、獨逸第三と注ぜらるゝや、『ハーボン萬歲』の喊聲は銀河の潮と共に湧き、日本兵目懸けて花輪を投ぐる者、國旗を投ぐる者も多く、中には美人が外衣を脫ぎて投げたる者ありしとぞ。此の如く國運隆昌の餘蔭は各方面に波及し、ブエノス・アイレス大學文科大學（國立）人類學主任アンブロセッチ敎授には、日本帝國軍艦が亞爾丁建國一百年祭に參列せし榮譽の紀念として、東京帝國大學に宛亞爾然丁の人類學標本を寄贈する旨日本公使（智利より兼任）まで照會し來つた。此の標本は軍艦生駒に於て保管せられ、日本まで携行する筈なるが、ブエノス・アイレスより生駒までの運賃に五十圓を日本公使館にて支出せし程の大なる函二個に盛り、獨り容量の此く大なるのみならず、內には亞爾然丁にて堀出したる五六百年前の土人骸骨五個（完全なるもの）もある。アンブロセッチ敎授には又た小生に宛チァコ土人武器一式、亞爾然丁前世界の土器一式をも寄

日本人の意氣

日本第一

日本學會への寄贈

亞爾然丁における日本人

贈せられた。又たウルグアイ國立博物館長アレチァヴァレータ博士よりは、予が同國に遊びたる紀念として、同國革命戰役の際なる紅白兩黨の徽章と、チャル、ア土人の武器等を寄贈し來り、別に東京へ歸りたる際に、東京帝室博物館に寄贈せられたしとてウルグアイ土人の發火器具一式（三十五點）をも態々同國よりバイア・ブランカまで運送し來つた。元來日本國には、南米大西洋岸の人類學標本とては皆無と云ふべきことなるに、今回亞爾然丁、ウルグアイ兩國より或は帝國大學に、或は帝室博物館に、或は予一個人に、此の如く多大の寄贈ありたる以上は、日本の學術社會は復た南米大西洋岸の標本皆無なるを思へざるべく、國運隆昌の餘蔭は種々の方面まで波及することゝ愈〻、益〻國家の洪恩を感悟した。

國運の隆昌は以上の如き次第なれども、茲に亞爾然丁に於ける日本の勢力とては在來遂に見るべきものなく、在留日本人約三百、其内ブエノス・アイレス市にて商店を開き若くは此等商店に關係する者十五名、同市内の伯剌西爾人珊琲店に備はれ居る者十八名（亞爾然丁全國にて二十五名）、警察署柔術教師一名（三州岡崎人緒方義雄氏）、市立植物園々藝家二名（千葉縣濱川氏、福島縣相原氏）、僧侶一名（眞宗松葉師）、ロサリオ市に柔術教師一名（福岡氏）、コルドーバ驛（鐵道）に機關師一名（牧氏）、驛員一名（大野氏）、農事經營者二名（農學博士伊藤清藏氏、宮城縣手島恒三郎氏）の外は、大概伯剌西爾へ移住せし者の同國より當國に轉々し來りたる勞働者、日傭などせる人達である。伊藤博士はブエノス・アイレス市より鐵道七時間程ボリヴァール驛附近に牧畜の宿舍（牛馬羊の下宿）を經營し居られ、日本人の亞爾然丁移住に就ては極めて悲觀的の觀察を下し居れりと傳聞す。手島氏はブエノス・アイレス市より同八時間程ヴェディア驛附近にて農業牧畜を經營し、一ヶ年の收入約八千ペソの見込あれども、純益に至ては右の二割位なるべきかと云はる、即ち一ヶ年の純益一千六百ペソと云へば、日本貨にて一ヶ月百圓に相當すれども、亞爾然丁の物價は米國ニュー・ヨークの二倍、即ち日本の四倍に相當すれば、手島氏には其の成功までに今後一番の發憤を要すること、知らる。

ブエノス・アイレス在留日本商人

ブエノス・アイレス市に於ける日本商業關係者十五名の中、大阪市米谷商會の安田喜十郎、山崎彦三郎氏、神戸市瀧波商會主人の瀧波文平氏は日本雜貨の卸賣將た小賣を業とし、横濱市の松浦直二氏は絹ハンケチ類の卸賣、名古屋市の中西信清氏は陶器の卸賣を業とし、夫れ〴〵熱心に從事中にて、瀧波商會の如きはウルグアイ國まで發展致し、頗る進取的に見ゆる。然しながら何れも其の成功までには前途未だ遼遠の事なるべしと思はる。智利兼亞爾然丁公使日置氏には、外務省省に報告するに『氣息奄々として一縷の命脈を繫ぐに過ぎず』、『是迄本邦人が失敗の結果蕩盡したる金額三十萬圓の多きに達す』、『俗に所謂喰詰者』、『前掲失敗者が本邦に致したる虛報が南米有望の評判を世間に傳播する種となり』などの文字を羅列されて

居る、予は日置公使の所說を以て悉く妥當なりとは云はざれ、其間に首肯し得べき點も少からずと信ずる。然れば當國在留日本商人には、農業經營者と同じく今後一番の發憤を要することゝ知らる。

日本と亞爾然丁との貿易

清氣（ブエノス・アイレスとは『清き空氣』の義）の麗都人口一百三十萬、佛都巴里に次ぎて羅甸國第二位の大市と稱へられ、繁華花の如く詩の如く小說の如く、而かも經濟の富、財力の豐かなるは寶の海に入る如く、況んや日本人を歡呼する間に在りて何すれぞ日本物品を喜ばざるの事あらんや。要は物品を長く持ち耐へる丈ケの力ある資本家にして、當國に渡來すれば、必らずや成功すべく、現に支那人の經營に係る日本雜貨店は二軒共に市內樞要の地に魏然たる店舗を構へ、豪華なる物品を澤山に並列し、景氣隆昌を極め、特に一軒の如きは二戶前を合したる大店舗にして、使用人の數も多く、人をして健羨に堪へざらしむるものがある。此等の事實を見ても日本物品の亞爾然丁に容れらるべき餘地は眞に顯著なりと信ずる、判事リァヴァリォール氏の家は二百年前西班牙より移住せしブエノス・アイレス隨一の舊家且つ素封家にして、特に現主人の判事は聲望全市を蔽ひ、予が同氏方に朝餐に招かれたりと云ふ一小事さへ各新聞紙に現はるゝと云ふまで名高き人なるが、同氏には其の私邸に西洋各國の古器物の外、德川家の三葵の紋附きたる裝束、日本の古刀、古陶器果ては寢室に光琳風なる秋野の富士を縫ひたる衝立を備へたるなど、流石に小生の目を衝きたれば、此等日本品の出處を質問したるに、氏には「亞爾然丁の商人に依りて購ひたり、日本の商店には此の如きものを得べからず」と返答せられた。リァヴァリォール判事の如き趣味の人は亞爾然丁にて稀有なるべしとは思はるれ、然ればとて又た日本の安物のみを亞爾然丁に携へ行き商賣するは、其法を得たるものにあらずと確信する。亞爾然丁人今日の氣習は一言にて盡くし得、即ち同じ物にても代價一圓なりと云へば安ぽき物なりと輕侮し、百圓なりと聞けば成程然るべき物ならんと尊ぶこと是なり。然れば后後亞爾然丁に向ひ爲す有らんとする人士は、此間の消息を十二分に解得の上にて著手あらば、庶幾くは成功さるべしと思ふ（明治四十四年六月）。

亞爾然丁は世界中にて物價の高直を以て知らる、北米合衆國の大都會の二倍と稱へらる。

ウルグアイは亞爾然丁よりも物價高直なり、恐らくは世界に於ける第一の物價高直なる國ならんか。

二三　南墨詩話。

亞爾然丁より伯剌西爾に赴く海上、舷窓七日、頗る無聊を覺ゆ、即ち唐宋人の絕句に據り、『南墨詩話』を作る。

少小邊頭慣放狂。驅騎番馬射黃羊。如今年老無筋力。獨倚營門數雁行。

亞爾然丁よりウルグアイに亘る大草原は、蜿蜒千里、西班牙よりの移民、風に耐へ、雨に抗し、四肢鐵よりも固く、身材長大、面貌黎黑、遂にガウチョ(Gauchos)なる新人種を作つた。ガウチョの男子生れて五歲、早く馬に騎り、十歲となるや、汗馬を驅りて大草原に游獵し、獲る所の野獸を屠りて食ひ、日暮れば、大なるナイフを枕として其處に露宿し、驃悍比なく、最も『石投ゲ』に長じ、敵と戰ふや、他を殲さずんば厭かない。亞爾然丁及びウルグアイが兵を擧げて本國西班牙に分離せんとするや、豪傑ベルグラノ、アルチーガス等皆なガウチョを用ひた、兩國の獨立を成したるも、實はガウチョに負ふ所が少くない。爾來ガウチョは、亞爾然丁政治上の一原力となり、歷代の革命に其力を藉る者多くは成功し、隨て國家の安寧平和を傷ふこと多く、識者ガウチョの勢力を以て亞爾然丁の鴆毒となして居る。然るに人文の進歩と敎育の普及とは、ガウチョの勢力と反比例をなし、勢力年々に減少し、今日となりて亞爾然丁の政治上に其の存在を認めず、今回の建國一百年祭に其の一隊のブエノス・アイレス街上を過ぐるや、看る者前世界の遺物となし、骨董視して迎へた、ガウチョ勢力の消滅は正しく亞爾然丁に秩序の整齊せし徵證である。

兒童相見不相識。却問客從何處來。

西班牙より亞爾然丁に移住せし者、先づ亞爾然丁事物の新鋭にして放膽なるに驚嘆し、次で天然に人工に總じて規模の雄大なるに感悟し、當初性質の沈澱せし者も樂觀的となり、企業的となり、且つ期年の間に大富を致し、生々の氣象を面に表はして歸鄕する者多

ガウチョ人の消長

『亞米利加人』

ガウチョ人

（亞爾然丁建國以來の騎馬武者）

不羈自由なる新西班牙語

サン・マルチン將軍

し、故郷の人之れを『亞米利加人』（"Americano"）と綽名す、猶ほハイカラと云ふが如きである。這般の『亞米利加人』は、煩雜なる西班牙音を面倒臭となし、C(ci)、S、Zの三字に何等の區別を措かず、サシスセソの音を以て概括し、故郷將た本國なる西班牙人が其の區別を格守するを見て、ソハ古典のみ學者風のみと呼びて一顧だに與へず。ニの西班牙音は六ケ敷とて單に之れをジェと讀み做し、伊太利語にても、佛蘭西語にても、獨逸語にても、英語にても、苟くも西班牙語に無き所のものは、原語の儘直ちに採用するを以て、亞爾然丁將た智利の新聞雜誌を讀むに當り、日本より携へ來りたる英西辭典（西班牙サラマンカ大學セオアネ博士編纂）に無き所の新語殊に少からず。要するに西班牙語は南墨に入りて廣く且つ新しきものとなり、自由不羈なるものとなり、發音も自から明晰にして男性的となり、西班牙人も亦た南墨に入りて風采思想全く清新快活となり、復た守舊老朽の痕迹を認めざるに至るを常とす。

日暮閑窓何所似。瀟陵憔悴舊將軍。

サン・マルチン將軍の智利、秘魯、亞爾然丁三國の獨立を成就するや、富貴功名を棄つること弊屣の如く、佛都巴里の近郊に韜晦し、一讀書生を以て生涯を了る、史家以て南墨第一流の人物となし、畫家亦た將軍を描くもの少からず、而かも描く所は大馬長劍の將軍にあらんずば、砲煙彈雨の間なるサン・マルチンのみ。獨りソフィア・ボサーダス女子の描く所、

ウルグアイ建國の英雄アルチーガス

ガリバルディー

痛快淋漓なる羅甸民族の豪傑

鶴髪神仙の如き舊將軍が讀書に倦みて椅子に凭り假眠する處、夢は亞爾然丁の大軍を率ゐて世界の危險アンデス山を越えたる當年を寫し、俯仰今昔、看者をして眞に低徊措く能はざらしむるものがある。予のブエノス・アイレスに在るや、此畫の印刷物を市上に探ぐれども得ず、僅かに智利人リーイエス氏より一枚を得たるを以て、東京に歸後、畫家に複寫せしめ、日本風の畫となして長へに珍藏せんとする心得である。

ウルグアイ建國の英雄アルチーガス將軍も亦た一奇漢たり、驃悍なるガウチョ人種の巨魁となりて、健鬪二十有五年の後、忽ちパラグアイの山林に入り、自から花に水を浣ぎて大平和の裡に殘生涯を了り、八十六歳の高齢を享けて沒するや、國人は追慕の餘、『ウルグアイ國の創立者』と刻みたる石棺中に其骨を納め、新に國立英雄院を築きて棺を其内に安置した。

伊太利のガリバルディも亦た當初ウルグアイに來りて其の義徒の爲めに戰ひ、飄然去りて地中海の孤島カプレラに隱れ、カプレラより起りて忽ち伊太利統一の大業を成就し、功名を今の伊太利王室の祖宗に讓りて復たカプレラに隱れ、小麥を植ゑて生涯を了つた。『英雄回首卽神仙』の眞面目を識らんと欲する者は、羅甸民族の豪傑の言行錄を閲みするを要す、痛快淋漓、案を拍つこと幾回、遂に宵を徹して東方の白きを覺えざるに至るものがある、却將舊斬二樓蘭一劍一、買得二黄牛一敎二子孫一。

意氣あるウルグアイ國

江南富貴皆脂粉。須下把二精神一對中北風上。

南墨の大江アマゾナ、ラ・プラタ共に又た世界の大江である、亞爾然丁江南に國を成し、富貴脂粉實に南墨に冠絶する、伯剌西爾之れに平かならず、亞爾然丁が江北に膨脹するを牽掣せんとし、ウルグアイなる一國を其間に擁立し、以てAB（亞爾然丁及び伯剌西爾）の間を離す、而かもウルグアイや、AB兩大國の間に介在し、我が日本（朝鮮を除く）の半にすら及ばざる面積を以て昂然獨立、AにもBにも屈せず、常に兩國の兵を破りて武名を辱めず、精神勇往、國民每一人の貿易力は南墨第二に居り、他のAB等が日本と通商條約を締結せるに、我れ獨り無條約國なるは肩幅狹シとし、日本と條約を締結せんとするの意あり、而して我が日本も亦た利害上、ウルグアイと修交通商するを以て時宜に適ふものと信ずる。

古驛頹垣不レ記レ春。隔レ籬鷄犬舊比隣。東家纔過二西家一去。便是閩人訪二浙人一。

アンデスの大山脈、南墨の大陸を縱斷し、山東を亞爾然丁（A）となし、山西を智利（C）となす。舊來アンデスの分水嶺を以て境界線と約定したるも、所謂分水嶺と山の最高點と一致せず、兩國各〻土地を爭ふこと二十餘年、其間數ば干戈に訴へんとして、明治三十五年、英國先皇帝陛下の仲裁に依りて遂に調訂した。爾來同じ西班牙語なる兩國々民の感情は年を追ひて融和し來り、特にCは歷史上北亞米利加合衆國と善からず、而して葡萄牙語の伯剌西爾（B）

智利チリ　カブコの戰鬪

一八一七年二月二十二日

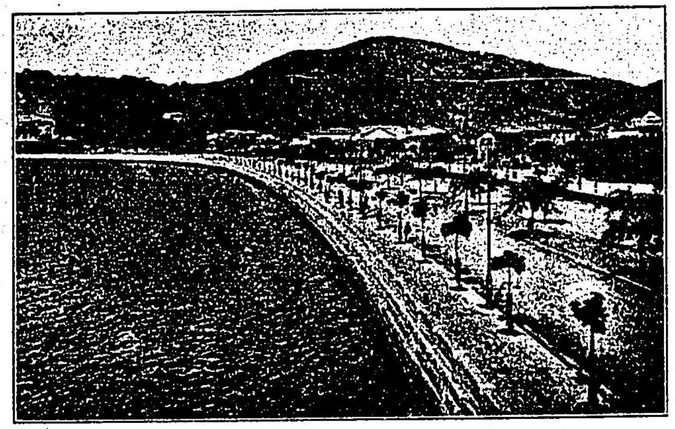
サン・マルチン將軍、亞爾然丁、智利の聯合軍を率ゐて西班牙軍を敗る

は近年益〻米合衆國と善く、AはBと歷史上善からざるより、AC＞Bの傾向は愈〻助長し來りたる折柄、本年五月アンデス鐵道は開通し、ACをして交通上にも經濟上にも全く連絡せしめ、更にサン・マルチン將軍は亞爾然丁人にして智利の獨立を成就せしめたるを以て、亞爾然丁建國一百年祭は將軍を回想せしむると同時に、智利の官民をして亞爾然丁に對する歷史上の舊誼を回想せしむるに至り、智利大統領を初め智利人は大擧して亞爾然丁建國一百年祭に參列し、AC兩國人は相互に抱擁して悲歡交も迫るの情、餘所目ながらも感激に堪へざる所が見ゆる。

二四　世界三景の第一。

規模の大なる松島

世界第一の大共和國



リオ・デ・ジャネロ海岸

琉璃盆上、大小八十八個の島を載せ、青松島を彩りて、白帆の其間を掠め去る處、所謂日本三景の一たる松島なるは誰れも知れる如くである、而かも亦た琉璃盆上、名稱ある島七十個、名稱なき小島、立石、巖一百餘個、椰樹、檳榔、咖啡、之れを彩り、現世界第一等の大戰艦（伯剌西爾の新に建造せしミナス・ジェラエス）の其間を掠め去る處、所謂世界三景の一なるリオ・デ・ジャネロにして、全體に規模の雄大なる、流石に世界第一の大共和國伯剌西爾の國都所在地たるに背かずと思はる。

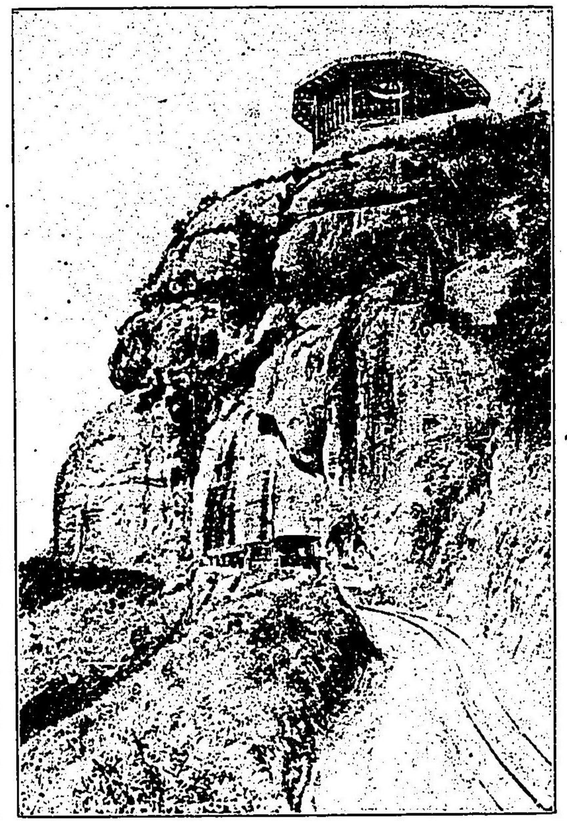
伯剌西爾の面積は、北半球の大共和國たる北米合衆國の本土に日本（朝鮮を合せ）を合せたるものと同じく、而かも人口は近年長大足に增加したりとて、

人口を容るべき餘地多し

伯剌西爾に於る日本人

未だ二千五百萬に達せず、即ち每一方里に付五十人、我が日本の四十分の一に相當する。然れば人口を容るべき餘地未だ多く、伊太利の移民一百萬、獨逸の移民五十萬、其他歐洲列國の移民日に月に增加し來るに拘はらず、又た伯剌西爾政府の日本移民を聽迎するに拘はらず、日本人は全國に八百、リオ・デ・ジャネロ市に五十とは情なき少數なりと思ふ（來る二十日滿洲丸にて日本移民約一千人新に渡來の豫定）。然し少數なりとて日本人は日本人なり、流石に祖國に對する觀念厚く、サン・パウロ州（咖啡地方、卽ち日本人根據地）よりは上塚周平氏等三名、軍艦生駒驩迎總代として遠く北上し來られ、同地方日本人の微志を表はすとて、予等に至るまで一同に同地方の書端書一組宛寄贈せられた。リオ・デ・ジャネロの日本人も亦た歡迎優待一方ならず、山縣勇三郎氏（山縣商會）、大平三次氏（日伯商會）、田邊法學士等は連日早天より歡迎事務所に詰掛け、水兵の買物に至るまで周旋の勞を取られたるは實以て感激に堪へぬ、特に風雅なる小蒸汽船を賃し、リオ・デ・ジャネロ灣に舟遊山を催し、日本風の折詰の外、鰡の刺身、鯛の澄汁まで調へつ、世界の松島の間を周航したるは、日本出發以來の大開心であつた。日本の松島は、海水が水成岩を浸蝕せしより起生せしものなれども、此處の松島は然らず、悉く花崗石に成るを以て、豪宕卓厲、容易に海水に浸蝕せられず、湖の如き灣上より直ちに聳立する處、殊に一番の英爽を覺ゆる。獨り灣內の島嶼に止まらず、四圍の山嶽

悉く花崗石に成り、山形峭拔にして奇詭、其形に依りて棒砂糖山(Pão d' Assucar)あり、駝背山(Corcovado)あり、帆掛山(Gavea)あり、而して山縣氏は帆掛山の蔭、一道の寒溪印度竹の間を衝き來る處の大邸宅裡に圖南の雄圖を夢みて居る。想へ二個の少年、北海道に同航し、小樽に相別れ、謂ふ我れ世界の富を致し、汝世界に不朽の名を成すべし、然るまでは復た相見ざるべしと、爾來正に三十年、共に志業を遂げざるを愧ぢて、日本に相見ず、甲は四百萬圓の逋債を負ひて祖國を去り、乙は戰勝國の軍艦に便乘せし餘蔭に賴りて僅かに伯剌西爾地學協會の名譽會員に推薦せられ、筆の劍よりも大ならず否却て小



コルコヴァドの絶頂（駝背山）

亞剌比亞物語以上の物語

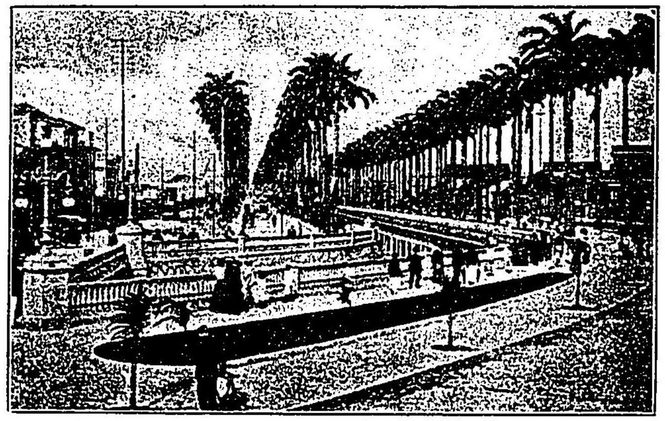
なる事の反證となり、心事の百分の一だに成す能はず、生駒の寄港せしが故に白髮の兩人萬里のリオ・デ・ジャネロに手を握り、折節熱帶的の雨、芭蕉葉上に滴る邊、燭を剪りて三十年前の舊事を語る、一篙巴山夜雨の詩か、否小說か將た夢か、年少の頃、ダントン氏の少年文庫を讀み、內に『日出に於けるリオ・デ・ジャネロを灣上より眺むれば、白臘石の市街の如く、光線は樓臺の粉壁を紅に染め、椰樹は鏡の如き灣水に沿ひて未だ夢を破らず、ア、亞拉比亞物語の如き市街なる哉』(是れ亦た三十年前に讀みたる讀本中の文字なれば、多少記憶の相違し居れるやも計られず)と、而かも唯今我が眼前にある眞の小說に比れば、流石の亞拉比亞物語も遂に云ふに足らず。此の亞剌亞比物語以上の情景あり、人は世界の三景を以て伊太利のナポリ灣、濠太利のシドニー灣、伯剌西爾のリオ・デ・ジャネロ灣なりと說げども、遂に此のリオ・デ・ジャネロを第一に推さゞるを得ざる樣感ぜらる。シドニーは曾遊の地、而かも此處の如き眞の小說に接せず、ナポリは軍艦生駒の航路豫程にありと雖も、復た此處に於るが如き眞の小說には接せざるべしと豫想する。

世界の三景

以上の如く日本人の歡迎優待も感激すべきが、伯剌西爾官民の歡迎優待も亦た一方ならず、君にして國運隆昌の餘蔭に在らせらるゝ人なりと假定せられよ、然らば君には六月十一日より同十六日に至る六日間に伯剌西爾海軍紀念祭、海軍大臣夜會、貿易商フォンセカ氏の自働車

伯剌西爾と日本

遊山、日本内田公使の晩餐會、在留日本人の舟遊山、大統領の謁見、築港案内、競馬及び端艇競爭の案内、製鐵場主ラージ氏の案内、コンメルシオ新聞社の夜會、ペトロポリス行、元老院議員マーシャド氏（『大統領製造者』）の晩餐會等二十所の招待あり、人の精力には限りあれば、相互に出席の方通を融通し、甲が夜會に行けば、乙は製鐵所の招待に出席するとか致す故に、幾分なり息氣を吐けども、此處彼處の招席にて汗ビショリとなり、一日三回もカラーを代へざるべからざるに至ては、寧ろ愍咲すべきまでゝある。幾處の招待後、晩餐會の席上、幾番の卓上演說も了り、夜も既に十二時頃となり、此の熱帶地方にも涼氣初めて來り、晝間の炎熱と疲勞とを漸く忘れ、渾身茲に清爽を覺ゆる頃しも、折柄又も演說する人あり、葡萄牙語を解せざる予には何やら判らざれど、『ソシエダーデ、デ、ジェオグラフィカ、ド、東京』とか『レプレセンタンテ』の語を交へ、了りて三鞭酒の盃を擧ぐるや、



リオ・デ・ジャネロ市街

座客は予を目して乾盃すれば、予には茲に初めて悟り、返辭せざるは大失禮の事なれば、狼狽の情を押へつゝ起立し、『閣下及び諸君、予は不幸にして伯剌西爾語を解せず、而して閣下及び諸君中にも亦た或は日本語を解せざる向もあるべしと思へるを以て、予は感謝の情を表はすに、英語を借りて媒介とするの已むを得ざるに驅られたり』などゝて、遂に盃を擧げて伯剌西爾萬歲を祝し、復た汗ビショリとなりて復席する體態は推察ありたきものである。然りとて亦た如上の事實に依り、伯剌西爾官民の歡待優遇の程も想像さるべく、依て以て日伯兩國の交情愈〻親接するは同慶の極である。尚ほ又た兩國の通商を增進せしめんと、伯剌西爾政府の期圖せる折柄リオ・デ・ジャネロのバザル・アメリカ商會は專ら之れが衝に當らんと計畫中なれば、予には日本より携行せし雜貨各種を同商會に贈りたるに、先方よりも伯剌西爾の產物にして日本人の需用に適ふべき各種類を取揃へ、寄贈し來りたれば、東京に歸後、這般物品を諸君子の參考に供へ、及ばず乍ら伯剌西爾の事情を日本に紹介する心得である（明治四十四年六月）。

世界第一の大戰艦。

世界第一の大共和國は亦た世界第一の大戰艦を所有す、名はミナス・ジェラエス、英國アームストロング會社にて建造す、但し機關部には五名の英人勤務せり。

二五　四十年前伯剌西爾にて割腹せし日本武士（前田十郎左衛門）。

四十年前の昔、卽ち明治三年中、伯剌西爾バイア（リオ・デ・ジャネロの北東七百五十浬にある開港場）にて日本武士の面目を發揮せし事蹟がある、卽ち之れを闡發せんとす。

一　海軍兵學校の濫觴。

王政維新の大業成るや、朝廷は兵部省を置きて陸海軍の事を掌らしめ、明治二年九月、兵部省は海軍操練所なるものを設け、大小の各藩に令して貢進生を徵集した。依て薩摩の青年前田十郎左衛門は、德島藩の青年伊月一郎（後江戸と改姓、海軍大佐にて死亡）と共に同年十一月貢進生として入所した（三年十一月、海軍操練所は海軍兵學寮となる）。

二　日本兩青年の英國留學。

海軍操練所へ入學後、鬱勃たる雄心は前田、伊月の兩青年を驅り、英國海軍兵學校に三箇年間の留學を兵部省に請願せしめた。兵部省は請願を許可した。當時兵部省が在英國の前田、伊月兩人に留學費を送付するに就ても、如何なる手續に出でたるや、其頃の事共を想像する一端ともなるべければ、左に其の一節を寫すべし。

（前略）猶以本文學費（一ヶ年英金百五十ポンド）來る廿六日横濱出帆近日英人シーボルト儀歸國致し候に付同人へ托し可差立積に付御用狀は今日中御遣し有之度候也。

庚午七月廿四日

兵部省御中　　外務省

三　日本兩青年の世界周航。

ホルンバイの世界周航

英姿颯爽たる日本の兩青年は、英國遊擊艦隊に搭じ、明治三年三月十四日、横濱を拔錨し、二萬六千浬の航程に上つた。二萬六千浬とは今日にても一角の航程である、況んや當時の艦型を以て風力に依り帆走することなれば、稀有の大航程である、宜べなり伊月が英國到著後の書翰にも「水帥提督ホルンバイ無難に世界を一週いたし候間諸人共驚き入候事」とあることを。然し此のホルンバイ艦隊が英國を出帆し、横濱に來り、夫れより太平洋を横絶し、北米ヴァングヴァーより南下して、南米智利の海岸に沿ひ、南米大陸の南端ホルン海角を廻航し、英國に歸著するまでゲルン檣の折れたること四回、メインヤード及びフォールヤードの裂けたること各〻一回、特にホルン海角を廻航せし際の如き、或は舵を左右に折り、或は端艇を波に浚はれたるなど、各艦何れも困苦したのである。又た此の艦隊には、日本兩青年の外、瑞典より三名、那威及び希臘より各〻二名、其他外國より六名、皆な海軍生徒として搭乘し居

りしが、ビスカヤ灣（佛蘭西）にて一艦沈沒の際、希臘及び那威の生徒各、一名は敢へなく溺死したのである、以て此の航程の困苦萬狀なりしこと想像に餘るのである。

四　前田の割腹。

明治三年十月七日（日本暦九月十二日）、英國艦隊遊擊隊は伯剌西爾國バイア港に錨泊して居つた。天明の四時と云ふに、日本刀を提げて士官室に入り來りたる前田は、邊に人影なきを窺ひ、しすましたりと兩肌脫ぎ、我腹撫で〻莞然、縱橫十文字に切りたる後、咽まで見事に切りて心地好げに相果てた。他艦にありて急報を得たる伊月は、馳せ赴きたるに、既に絆切れて詮術なければ、ホルンバイ提督及び在バイア英國領事と協議の上、バイアの英人墓地に軍艦士官の禮を以て埋葬し、石碑は日本より倫敦に送り、倫敦よりバイアに送りたるが、英人は日本武士のハラキリに痛く同情を表し、始終斡旋の勞を盡し呉れたのである。

五　伏仰隔世の感。

前田の死してより四十年、日本は早く既に軍艦を日本にて建造且つ備裝し得、而して日本にて建造し備裝したる軍艦生駒は、今や伯剌西爾に寄航し、國運隆昌の餘蔭は、伯剌西爾上下の大歡迎を受け、旭日の旗影は南半球の天下を衝かんとする、前田が地下の歡喜抑も如何ぞ、情を解する人にあらざるよりは悟る能はざる所なるべきか。

二六　日本の文明に及ぼせる葡萄牙の感化。

（明治四十三年六月十五日　伯剌西爾史學協會に於て）。

兩日前、伯剌西爾專門學校長には、リオ・デ・ジャネロ史學協會を代表して日本軍艦生駒に御尋に預り、不肖に一場の講演あらんことを需められ、其後予のペトロポリスに旅行するや、リオ・デ・ジャネロに歸來すべきことを豫期し、態々同市鐵道停車場に御待受になり、唯今右停車場より當ニチェロイ市まで御同行致し、玆に貴會に於て講演するの榮譽を得たるは、貴會が予に拂はれたる尊敬に於て一層の感激に堪へざる所、予は長く今回の榮譽を記憶せんとする者である。

歷史は繰回すものなり

偖學問は想像を容さず、又た『歷史は繰回すものなり』など云ふべきものにあらず、何となれば歷史は繰回すこともあれども、然ればとて亦た繰回さゞることもあるべきを以てゝある。然し乍ら『歷史は繰回すものなり』と云ふ想像は、今回偶然にも一個の小事實となりて現はれたり、卽ち日本軍艦生駒がリオ・デ・ジャネロの海門に入らんとするや、貴國驅逐艦アマゾナスは我艦の出迎として來り、さて海門に入り錨泊するや、葡萄牙軍艦ドム・カルロス第一世より先づ訪問の士官來り、次で和蘭軍艦ユトレヒトより訪問の士官が來た。想へ、西洋人に

一篇の日本開國史

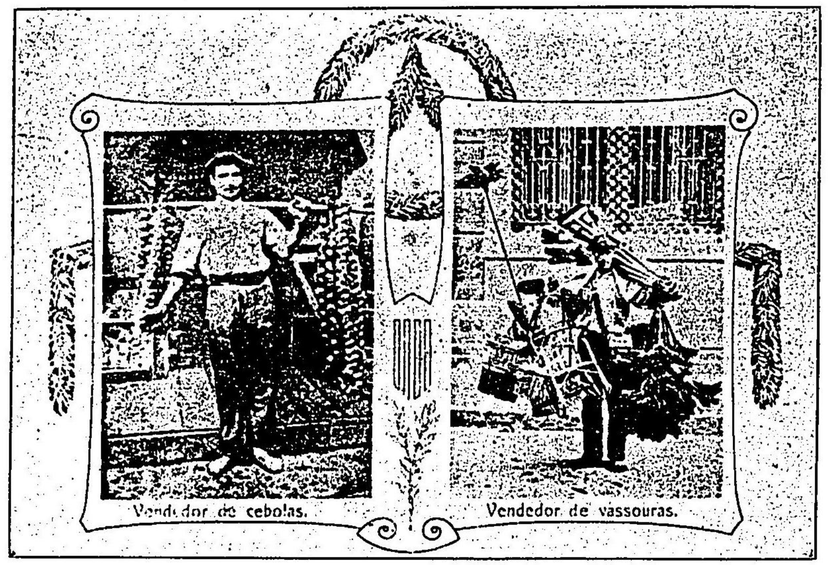
して先づ日本に來著せし者は葡萄牙人である、葡萄牙人に次で日本に來り、日本の文明に預りて功蹟を遺したる者は和蘭人である、リオ・デ・ジャネロの海門に於ける數日前の小事實こそ之れを敷衍すれば、正しく一篇の日本開國史となるのである。獨り日本の開國史となるに止らず、伯剌西爾を發見し又た創造せし者は葡萄牙人にして、葡萄牙の伯剌西爾に於ける感化の偉大なるは云ふべくもあらざれ、而かも葡萄牙に次で伯剌西爾の歴史に不磨の印象を與へたる者は、其の和蘭なることは諸君子の固より知了せらるゝ所である。和蘭王族の一人ナッサウのモリス伯爵の名は、伯剌西爾の歴史より如何にせんとするも刪るべからず、伯剌西爾上代の英雄にして世界に知られたるはフェルナンデス・ヴィエイラなるが、ヴィエイラは實に伯剌西爾が和蘭と交渉せしことありしが爲めに其の世界的英名を長く垂れたる者にして、若しも和蘭との交渉なかりしならば、伯剌西爾の歴史は、詩料に於て、愛國的元氣に於て、著しく平凡なりしものなるべし。

伯剌西爾と和蘭

伯剌西爾の英雄ヴィエイラ

然し乍ら伯剌西爾に關する此の如き事實は諸君子の固より知了せらるゝ所なるを以て、予は日本の開國史が亦た伯剌西爾と同一なる事實あることを講演し、聊か以て諸君子が御參考の萬分の一に供せんとする、但し予は歴史家にあらず、然るを諸君子の如き歴史家の前にて歴史を講演する所因のものは、日本人たるの故を以て、日本の開國史を講演するに當ては、

江灣と葡萄牙發展史との關係



リオ・デ・ジャネロ玉蔥賣と風俗賣り

伯剌西爾人たる諸君子よりは材料を多く蒐集し得べき便宜を有せりと自信するものあるが故である、此の便宜を有せりと云ふ自信を唯一の根據として、大膽にも專門家の前にて歴史を講演せんとするのである。

日本宮中の一高官にして又た詩人たる子爵杉孫七郎なる人は、葡萄牙都國リスボンに到り、『十里江灣如二括囊一』、『海門直對大西洋』と詠じた。江灣即ちEsturioは河口にある、元來河口なるものは、其の河流に依りて奥深き内陸と大洋とを連絡するもの、即ち深き内陸と大洋との交通運搬を連絡するものなれば、完全なる

河口卽ち江灣を有する國土は、航運、貿易、發見、探檢、植民に恰好し、又た長く航海せし船底の板、銅板などには藻、海草、介類、海蟲を生じ、船底の腐蝕を速かにし、船齡を短縮すべしと雖も、一たび江灣に入れば、河流の淡水の爲めに這般海洋的動植物は死滅するを以て、江灣なるものは、船舶の自然的掃除機關となり、清潔法の實行者となり、以て船の壽命を殊に長からしむるものである。然るに歐羅巴洲の西部には江灣最も著しく發達せるを以て、這般西部諸國が海事上に成功せしは、江灣の多數なりしに負ふ所少からず、殊に甕を括るが如き完全なる江灣を所有し、且つ海門の直ちに大西洋に對する葡萄牙が中世に當りて航運、貿易、發見、探檢、植民の率先者となりしは偶然ではない。

葡萄牙の地形と其發展史

葡萄牙は歐羅巴大陸南西隅の半島に國を成し、東と北とは一帶に强大なる西班牙に限られ、南と西とは太西洋に面する。既に東と北とに牽制せらる、南と西とに伸びざるべからず、否西と南とは茫々たる海洋にして、何等の牽制もなく、自由自在に膨脹し得べき方面である。然らば一四一八年に南西進してマデイラ諸島を發見し、同二七年にカナリア諸島を發見し、同三二年にアゾレス諸島を發見し、同四五年に阿弗利加大陸の西端ヴェルデ海角に達し、同七一年に赤道線を越えたる最初の西洋人となり、同八七年に至り、遂に阿弗利加大陸の喜望峯に達するや、復た南進すべき土地なきを以て、葡萄牙の勢力は阿弗利加大陸の南端を廻ぐりて、東に進み、勢と印度洋に入るべき筈である、卽ち同九七年にヴァスコ・ダ・ガマ印度に達し、夫れより東進又た東進、葡萄牙人は支那に達し、一五四二年、卽ち日本開國史の祖先たる德川家康誕生の年に至りて、葡萄牙人アントーニ・ダ・モト初めて日本の西邊に來り、翌四三年、同メンデス・ピント日本の西邊に來りて鐵砲を傳へ、此くて葡萄牙人は實に世界に對する日本の紹介者となつたのである。

世界に對する日本の紹介者

日本に於る葡萄牙人

葡萄牙人は初めて日本の西邊に來つた。元來日本の西邊は外國に最も近きを以て、日本舊來の外交史は全く其の西邊に限られたるものである、而かも葡萄牙人にして一度日本の西邊に來りたる以上は、日本文明史の行路の如く、葡萄牙の勢力も亦た西より東に移轉せざるべからず。然らば一五五一年には一代の豪傑サンフランシスコ・サヴィエルの京都入となり、同五八年にはヴィレラの京都寺院（南蠻寺）建立となり、同七一年にはカブラルの安土に織田信長（當時の覇主）の謁見となり、當時に於ける葡萄牙の勢力の偉大なりしことは、二十年前、予が予の鄕里卽ち前陳德川家康の誕生地に於て偶然にも發見し、爾後予の所有物となり、今年日英博覽會の要求に應じて同會に出品し、現時倫敦に於て見得らるべき一對の畫屏風を展覽されなば、此間の消息は十二分に了解せらるゝのである。卽ち信長記と云へる日本に於て珍書の一に數へられたる當時の日記的紀事にも見ゆる如く、葡萄牙のエスイタ師僧も商人達

葡萄牙の勢力が日本の文明に及ぼしたる各點

も、信長の宮殿に於て頗る優遇せられ、此の屏風の畫中にある水夫卽ち黑奴に至るまで信長には物好にも引見し、『力强く色黑きこと牛の如し』と評し合ひ、又た當時の莫天連にはアビトと稱ふる蝙蝠に似たる衣服を著け居れりと記せる抔、莫天連卽ちPadre（師父）も、アビト卽ちHabito（衣服）も葡萄牙語の儘を使用せしもの殊に多く、葡萄牙語の日本語となりしもの〻如きは實に數へ盡くし難きを以て、此等の事共は申し上げず、今より部門に分ちて、葡萄牙の勢力が日本の文明に及ぼしたる點を陳ぶべし。

▲醫術の進步。烙鐵術、創針術、藥法、外科器械の輸入。以上所謂南蠻流の醫術は日本に傳はり、民人の生を濟ひたるもの多し。

▲學術の輸入。天文學、地理學の輸入。

▲鐵砲の輸入と封建時代の衰頽。鐵砲の使用は、人を殺すこと夥多くなりしを以て、戰鬪の數を減じ、又た短兵接戰をも減じたるを以て、地方豪族の仇敵的感情を和らげ、且つ大なる城廓に據らざるべからざるを以て、永久的城廓の建築を促し、隨て山寨より下り、城廓を平地に築く傾向を生じ、此くて人民は生命財產を保護せんものと、這般城廓の四圍に集合し來り、漸く都市を作り、都市的時代の端緒茲に發して、漸く封建時代の衰頽を來すに至つた。

葡萄牙勢力の西漸と伯剌西爾

▲大建築物の增加。マウル人より大建築法の感化を受けたる葡萄牙人は、之れを日本に携へ來り、在來大建築物の殊に少數なりし日本をして大なる規模の城廓を構造するに至らしめた。

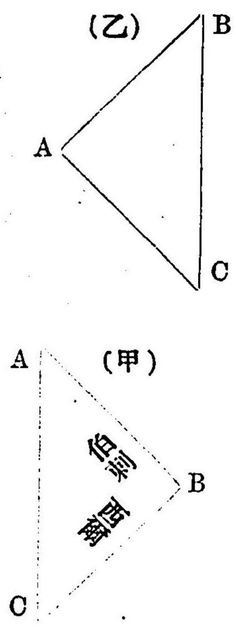
▲工藝品の增加と其感化。辨柄縞（Bengala）、茶宇縞（Chaul）、棧留縞（São Thomé）、天鵞絨（Veiludo）、繻珍（Setim）、羅紗（Raxa）、金巾（Canequim）、更紗（Saraça）、莫大小（Meias）の輸入となり、又た陶器類の輸入となり、獨り日本に這般工藝品を輸入せしのみならず、其の感化に依り、幾多の工藝品は改良せられ、將た新に興起せられ、京都の西陣織、尾張の陶器の如きは著しく感化を受けた。

▲農產物の增加。阿弗利加より水瓜、東蒲寨より南瓜、將たタウガラン（蕃椒）、タウモロコシ（玉蜀黍）、伊吹山に藥草の輸入。

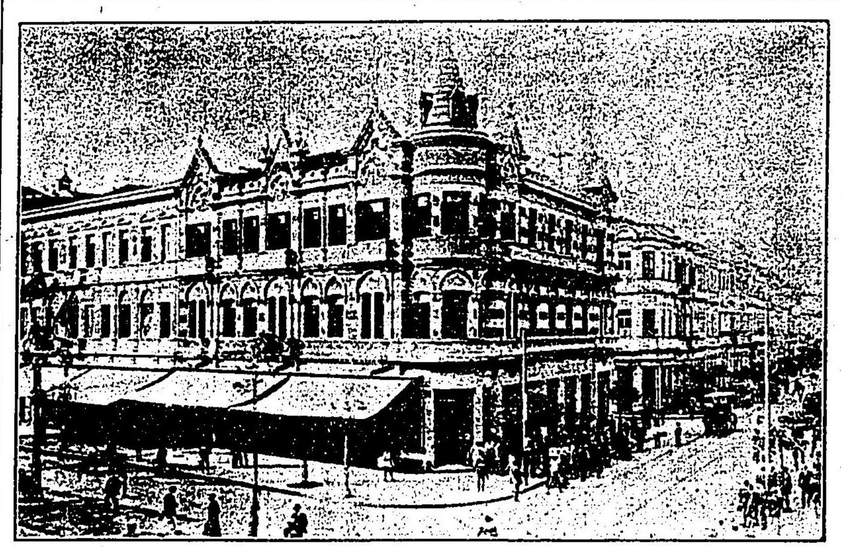
▲社交上の幸福の增加。ボタン（Botão）、繻絆（Gibão）、有平糖（Alfelou）、金平糖（Confeito）、房露（Bolo）の製造法輸入。

葡萄牙勢力の東漸は、以上の如く日本の文明を最も裨益したると同樣に、其の西漸の勢力は南亞米利加に入り、南亞米利加を開發すべき使命、否地形上の趨向となつた、何となれば南亞米利加は（乙）の如く歐羅巴を避けんとする地形をなさず、（甲）の如き地形を作り、Bな

る點最も遠く東に突出し、歐羅巴に近かんとするを以て、葡萄牙の勢力にして南西方に進前し、阿弗利加洲の西端まで達せし以上は、勢ヒ葡萄牙人はBの所在を發見せざるべからず、即ち日本に來りたる師父と同一の姓にして、恐くは當初血統を同一にせしカブラルには、一五〇〇年に至りて伯剌西爾を發見した。或は云ふ、伯剌西爾の發見者はヴァスコ・ダ・ガマなりと。然しガマにせよ、カブラルにせよ、伯拉西爾を發見する者は葡萄牙人ならざるべからざるは、葡萄牙が地形上の趨向に屬すること、猶は一五三四年に日本に來著したりと稱へられ、其の信僞未明なる一船舶も、葡萄牙なること丈ケは歴史に明記せられ、又た同四二年に來りたるモトも其の翌年に來りて最初の西洋人なりと自號せるヒントも、他の事は問題外となし、其の何れも葡萄牙人なることは、事實の最も明確なると同じく、全く葡萄牙の地形之れをして然らしめたのである。即ち此點に至りて、極東日進の帝國の開國史は、南米第一の大共和國の歴史と吻合し、共に葡萄牙より大感化を受けたるものにして、諸君子が葡萄牙に對し常に感謝する如く、吾人日本人も亦た葡萄牙に對して感謝せざるべからざる者である。



葡萄牙史の威嚴



リオ・デ・ジャネロ地學協會

然りと雖も今や葡萄牙の世界に於ける地位は一變した。葡萄牙の歴史は、世界の歴史中にて重要に屬せりとは云へ、今や唯だ重要なりと云ふのみにして、世界の近代史とは正しく沒交渉となつた。然るに吾人の觀念にして葡萄牙の地理以外に及ぼし、此の國人が南亞米利加に於て、世界第一の共和國即ち北米合衆國の本土に日本、朝鮮を加へたる大面積の伯剌西爾なるものを創造したりと思ひ至れば、葡萄牙の歴史は重要なるものなるのみならず、又た儼然たる威嚴を所有することを感悟すべきである。予は今回伯剌西爾に來り初めて葡萄牙史に威嚴あることを感悟した。此の感悟は予をして將來愈〻葡萄牙及び伯剌西爾の歴史的地

理を研究せしむべき大なる奬勵となるべし、即ち予等は軍艦生駒の豫程通リ明後十七日を以てリオ・デ・ジァネロを出發し、阿弗利加の西端ウェルデ諸島に向ひ、夫れよりカナリア諸島を經、歐羅巴に入るものなれば、取りも直さず前陳なる葡萄牙史の行路を逆行するものである。逆行より觀察すれば、葡萄牙史の行路は却て益〻分明となるべし。茲に葡萄牙史を研究すべき奬勵を予に與へたるは、世界の大共和國伯剌西爾の儼存に因れるを以て、此の一點のみにても、予は今回貴國に遊びたることを大に歡喜せざるを得ず。予は日本の一老書生として、其の歴史の吻合せる日伯兩國が將來愈〻親善ならんことを切望して止まざる者である。

日伯歴史の吻合

右講演了り、同史學協會は小生を其名譽會員に推選致候、又地學協會には十四日午後四時臨時總會を開き、小生を名譽通信會員に推選する儀式を擧行し、伯剌西爾樂隊は『君が代』を奏し、日伯兩國旗を以て滿堂を飾れる下に會頭バラナグア侯爵（前總理大臣）より右推選狀を授與せられ、陸軍部の會員は大將以下、海軍部の會員は中將以下出席し、工兵少佐グィマランス氏は日本語にて講演し、了りて會員は日本語にて「大日本萬歳」を連唱致候、然し是れ全く戰勝の餘光にして、却て學問の力の微弱なるを證明するものなれば、世の學問に志ある者、今一番の大發憤を要することゝ存候（四十三年六月）。

二七　伯西詩話。

伯剌西爾より西阿弗利加ヴェルデ諸島に航行する海上、舩窓十三日、頗る無聊を覺へた、而してウルグアイより拔取り來りたる仙人掌一株、亞爾然丁の旅行中、丁寧珍重に擁護し、軍艦生駒に携へ返りて鉢植にせしものが、恰も赤道線を經過せし夕、鼠に喰はれて枝も根も悉く盡き、人をして『世事相違每如ノ此、好懷百歳幾回開』の感あらしめた。遂に唐宋人の詩を讀みて懷を遣り、且つ見聞する所を記し、『伯西詩話』一篇を作りて、悶と熱とを消すことゝした。

一道泉流繞二御溝一。先皇曾向二此中一遊。雖下然水是無情物上。也到二宮前一咽不レ流。

ペトロポリス伯剌西爾名物の黄熱病

ペトロポリスは、伯剌西爾國都リオ・デ・ジァネロの北二十八哩、群山幽邃の裡に在る。皇帝ペドロ第二世には、離宮を造りて數ば行幸せられた。後、國都に黄熱病猖獗を極むるや、政廳及び外國大使館公使館は悉く此處に移つた。先皇の離宮は、日本公使館の傍にある、一道の泉流御溝を繞りて居る、二十一年前、先皇此處に行幸中、革命の徒國都に起り、帝位を廢して、帝及び皇族を葡萄牙に徙らしめ、急に共和政體を立てた、即ち今の政體である。ペドロは、英明の主として仰がれ、共和政府の人と雖も、今に至るまで惡聲を放たない。既に

黄熱病の撲滅

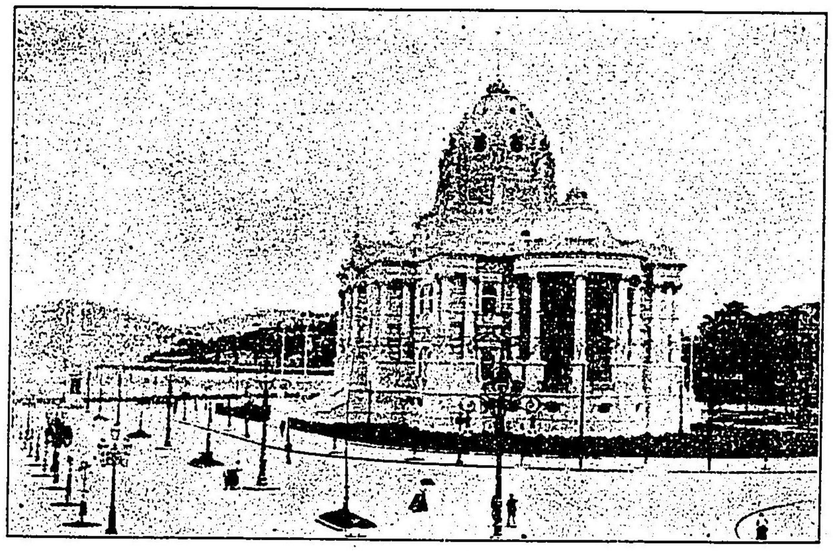
して伯剌西爾政府は黄熱病を撲滅せんとし年毎に三百五十萬圓を支出し、クルス博士（微菌學者）專ら之れが衝に當り、黄熱病を殆んど全滅せしめたるのみか、我が東京市の死亡率毎一千人に付一八・九に對し、リオ・デ・ジャネロ二〇・七、バイア一八・一、クリチバ一四・九に至らしめた。是に於て伯剌西爾政廳も、ペトロポリスを去りてリオ・デ・ジャネロに返へり、伯剌西爾と歴史上の關係深き葡萄牙公使館も返へり、今年に入りて智利公使館も亦た返つた。日本にして若し伯剌西爾に活動し、殊に通商上の關係を一層增進せんことを期せなば、我が公使館は一日だに速かにリオ・デ・ジャネロに返らざるべからずと思ふ。

春風強自分二南北一。畢竟枝梢共一根。

伯剌西爾と葡萄牙

伯剌西爾は、四百十年前、葡萄牙人之れを發見し、爾來葡萄牙人の植民地となり、後、獨立して帝國を造ると雖も、皇室ペドロ家は卽ち葡萄牙の王族である。皇室廢せられて、共和政體を作すと雖も、國民の主力は葡萄牙人種であり、國語は葡萄牙語なり、貨幣單位の稱呼すら葡萄牙に則り、伯剌西爾と葡萄牙との關係は、北米合衆國と英吉利との關係よりも密接にして、葡萄牙の文學、小說、出版物は卽ち伯剌西爾に入り、貿易に至ても、葡萄牙の酒類、衣料は固より、乾魚、野菜の末に至るまで伯剌西爾に入り、伯剌西爾中流以上の衣食住は葡萄牙に仰ぐ所殊に多く、一個年中、葡萄牙船舶の伯剌西爾に入るもの五百隻、伯剌西爾船舶の

伯剌西爾と亞爾然丁との關係



モンロー殿

（リオ・デ・ジャネロ）

葡萄牙に往くもの七百隻、伯剌西爾人と葡萄牙人とは地球の南北に分るると雖も、畢竟枝梢共に一根である。

要レ知地土分二南北一。須向下梅花枝上上看。

伯剌西爾、亞爾然丁、國土共に廣大にして、瑯を南米の大陸に爭ひ、兩雄並び立つ能はず、機に觸れ境に遇ふ毎に兩々の惡感情は爆發する。先月中、亞爾然丁の一地方サンタ・フェにて伯剌西爾國旗を引卸さしめたりとの造大的電報リオ・デ・ジャネロに傳はるや、一群の伯剌西爾人は亞爾然丁領事館を襲ひてガラス窓を破り、其の國旗を引裂きつ、泥靴にて踏みもきり、在ペトロポ